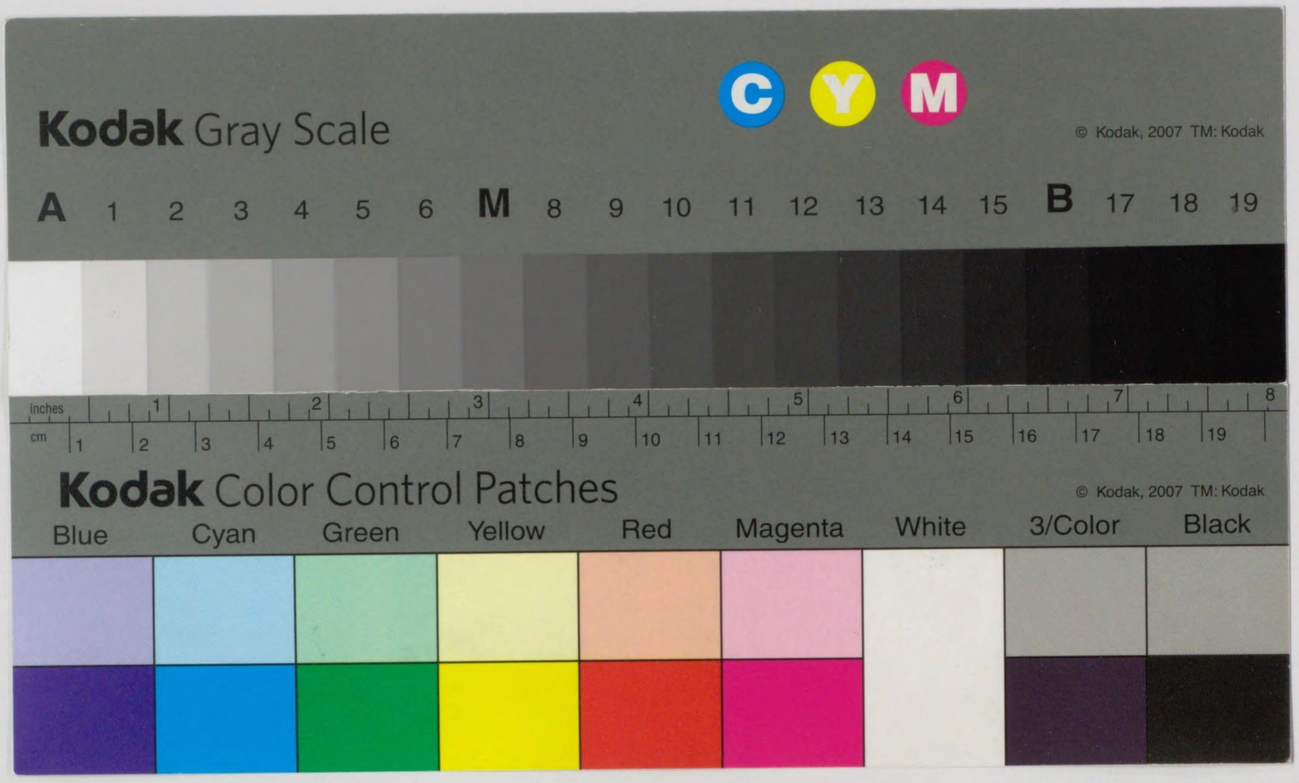
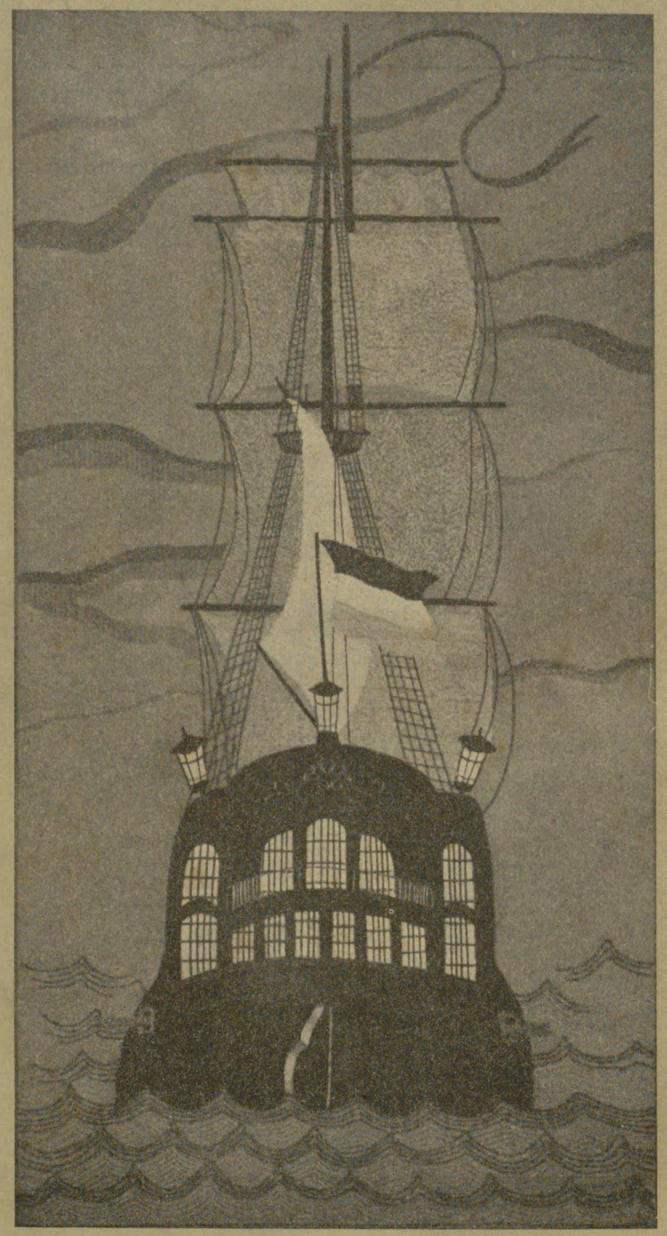


576 205

576-205
12005015202 65

31. 5. 30

臺灣史料集成



臺灣文化三百年記念會

臺灣史料集成

發行所寄贈本

昭和七年寄贈

576-205

臺灣文獻叢刊

愛花市寺調本

茲に臺灣文化三百年記念會開會式に臨み、一言所懷を述ぶるは誠に欣快とする所なり

回顧するに本島往古の史實は貌として其の詳細を知るに由なし、近古西歐諸國人の來りて東洋に通商の路を拓かんとするや、此の地を根據と爲さんとするもの漸く多く就中和蘭人は南部地方に占據して力を島民文化の開發に注ぎ成績頗る見るべきものあり、我が邦人亦相前後して渡航し來り、一時恰も東西文化の接觸地たるの觀を呈したり、爾後幾變遷を經て帝國の治下に入るに及び奎運興隆交通に產業に面目一新し、住民悉く堵に安じ、生を樂むに至れり、想ふに溫

古知新は處世の鍼言にして、又經世の要諦たり、今や改隷後三十有五年島内遍く皇澤に霑ひ住民擧つて聖代を謳歌するの時本島文化史上由緒甚深き此の地を擇びて本會を開催し、各種記念事業を營み、以て往事を偲び將來に資する所あらんとす、是れ時、處其の宜しきを得たるものといふべく文化の進歩に寄與し、皇國の進運に裨益する所蓋し尠なからざるものあらん、希くは本會の趣旨をして、徒爾ならざらしめんことを

昭和五年十月二十六日

臺灣總督從三位勳一等　石塚英藏

本會の組織

本昭和五年は和蘭陀人が臺灣に渡來して安平にゼーランヂヤ城を築いてから恰度三百年に相當すると云ふので、此の間に於ける臺灣文化の變遷の跡を温ね、現下の產業、敎育、衞生其他の狀況を一般に紹介して、尙ほ將來の進步發達に資したいと云ふ趣旨の下に、十月二十六日から十一月四日までの十日間、臺南市に於て臺灣文化三百年記念會を開催することゝなつたので、總裁以下を左の諸氏に依囑それ〴〵承諾を得た。

總裁　臺南州知事　名尾良辰

會長　臺南市尹　堀内林平

副會長　富地近思　許廷光　松尾繁治

顧問　磐原坦　村上直次郎　西澤義徵

栗山俊一　野口敏治　山中樵

谷河梅人　稻垣孫兵衞　尾崎秀眞

連雅堂

相談役　内海忠司　尾佐竹堅

評議員　岩松義雄　福村光直　津田毅一

石橋省吾　古川房次郎　筒井清良

石川誠一　藤川寅三　坪内利八

茨木嘉一　藤川三良
伊藤岩松　中村事
長谷川貞成　許清江
橋本源太郎　桐山繁雄
畠中德次郎　宮本一學　中島貫一
二宮儀之助　宮原佐尙　中島修二
本田忠男　清水七郎　永野種伊
渡邊順四郎　辛西淮　樂滿金次
鹿沼留吉　柴田稔　牛田純一　村上玉吉
川上八百藏　廣松良臣　野村精策
川崎二三　石秀芳　野田兵三
田中義雄　土居美水　黃欣
田中友二郎　劉茂雲　陳鴻鳴　幸田嘉吉
高橋隆　劉明哲　出澤鬼久太
田村武七　劉揚名　青木赳夫
高嶋鈴三郎　劉青雲　有井竣造
高城萬七　小形留吉　荒卷鐵之助
谷口實行　荒池忠吉
栗山新造　大塚正　阿波種次郎
越智寅一　佐々木紀綱

式典部

山本七五三洲　王開運　佐藤三之助
松井晟千代　大津山周藏　里見四郎
松平治郎吉　乙咩安佐彥　蔡培庭
眞志田逸良　和田二三松　小出平左衞門
松崎翠　曾景星　吳森玉
蔡培礎

行事部

長

祭典奉贊係長　黃欣
式典係長　陳鴻鳴
部　和田二三松

部

史料展覽會係長　津田毅一
講演會係　村上玉吉
敎育展覽會係　本田忠男
衞生展覽會係　清水七郎
產業展覽會係　野田兵三
水族館係　劉茂雲
野球大會係　清木赳夫
庭球大會係　荒卷鐵之助
蹴球大會係長　小形留吉
花卉展覽會係長　エドワード バンド
鹿沼留吉

庶務部長　荒卷鐵之助

庶務係長　松尾繁治

接待及宣傳係長　川上八百藏

設備係長　葉山石雲

電飾係長　谷口實行

警備係長　宮原佐尙

衛生係長　野田兵三

救護係長　柳沼午二

賣店及入場券係長　阿波種次郎

經理部長　佐々木紀綱

經理係長　越智寅一

會計係長　長谷川貞成

催物部長　宮本一學

煙火係長　田中政太郎

競馬係長　南弘

扒龍船係長　辛西淮

變裝係長　高島鈴三郎

諸藝及手踊係長　二宮儀之助

臺灣芝居係長　許清江

店頭裝飾競技會係長（內地人側）　山本壽太郎

店頭裝飾競技會係長（本島人側）　張江攀

音樂係長　中島修二

弄龍及十三音係長　石秀芳

南管係長　謝群我

北管係長　城再發

活動寫眞係長　王開運

廣告行列係長　田中政太郎

大弓係長　芝沼榮作

次で本記念會の大宗とも云ふべき、史料展覽會の係委員を左の如く組織した。

係長　村上玉吉

係委員　石橋慧空　今枝繁三郎　別府文助　陳鶴鳴

陳鴻鳴　陳明沛　陳碧如　趙鐘麒

林登庸　林振基　梁瑞圖　大里七郎

小川廣吉　鹿沼留吉　笠井助治　風野鐵吉

梶原龍　金丸市策　管虎吉　郭樹榮

高瀨喜一　園田善龜　上野茂　上村一仁

野田八平　松本賴光　胡丙申　手島俊雄

鄭老得　酒井清十郎　木村秀男　木村繁

桐右馬太　邱冊洲　湯川鹿造　白井朝吉

芝原仙雄　エドワードバンド　廣松良臣　廣瀨幸太郎

斯くて史料展の會場を、特に官幣中社臺南神社內北白川宮殿下御遺跡所に定め、豫定の十日間開會したが、何分觀覽者殺到、到底充分の研究も出來ないので會期延長の希望默止し難く、他の總ての行事終了後、獨り史料展のみ三日間の日延を決行し十一月七日迄開場した。

石陽睢　鈴木萬吉　鈴木章良　杉田恕平

史料展の特色

史料展覽會は臺灣に於ては始めての試みであること云ふまでもないが、これを內地の例に求むれば前例必ずしもない譯ではない、先づこれに類する展覽會としては、明治三十九年の五月に東京帝室博物館が嘉永以前西洋輸入品及び參考品を蒐集して特別展覽會と云ふのを催したのと、幷に明治四十四年五月に長崎縣廳舍落成記念の爲め、長崎縣主催の下に長崎史料展覽會と云ふを開き、更に昭和四年三月に大阪朝日新聞創刊五十年記念として、同社主催開國文化展覽會と云ふを開いた此の三つである、而かもこの三つの何れを見ても總目錄の上で本史料展のやうな特色がない、即ち和蘭陀關係の書籍若くは文書等の分量に於て本史料展が第一位を占めて居る、これは全く臺北帝國大學や、總督府圖書館の後援的出品が然らしむる處に相違ないが、その結果に於て確に本史料展の一特色であつた、又他の史料展は唯だ集つたものゝみを陳列したに過ぎないがそれでは臺灣での史料展は成功しないと云ふ見地から、系統的に歷史を敎へんとの熱心で、豫め會自身が出品物の製作を敢てして、拓本、寫眞、模型、風俗人形等を補足したばかりでなく、此の機會に於て隱れたる史蹟史實の新發見に努め、幸に多少の功果的收穫を得た、即ち皇明墓地の搜索、不注意の爲め閑却されありし碑碣、得んと欲して得る能はざりし學術的史料等々、寧ろ偶然とは思はれぬ程の參考品を蒐集し得たのを

誇りとし喜びとする。

殊に各方面より本史料展を成功せしめんとする手段として總る應援的方法を講ぜられ、新聞雜誌は元より或は歷史的講演に、或は記念出版に、或は繪葉書の發行に其の萬全を盡されたるを感謝せずには居られない、今少しくその內容を細說すれば、先づ臺灣日日新報は文化三百年記念會開會以前の紙上に、谷河主筆譯『閑却されたる臺灣』及び幣原大學總長の鄭氏三代に關する記事、並に村上文學博士の赤崁城築城に關する史話及び栗山土木技師の赤崁樓建築に關する研究等を連載し、臺南新報は新村文學博士指導の『臺灣文化の發祥史を辿る』及び板澤學習院敎授の『蘭人の臺灣占據と其敎化事業』幷に宮原醫學博士の『和蘭の南支南洋活躍＝臺南市の文化的建設』等を連載し、其他臺灣新聞及び月週刊雜誌等擧つて呼應的記事を滿載して後援の實を示めされた。

尙ほ會期中左の三回に分つて、記念講演を臺南公會堂に於て開催した、その講師諸先生と演題は次の通りである。

第一回　十月二十六日

和蘭人と臺灣文化　村上臺北帝國大學敎授

安平城址と赤崁樓に就て　栗山總督府技師

第二回　十月二十七日

臺灣三百年の史料　山中總督府圖書館長

清朝時代の臺灣文化　尾崎總督府囑託

第三回　十一月一日

鄭氏時代の文化　本會顧問連雅堂氏

以上何れも熱心な聽衆に滿され、稗益する處多大であつたが、其講演集は左の記念出版物と共に『續臺灣文化史說』として刊行した。

閑却されたる臺灣　和蘭臺灣大守　ヨイエット原著
臺灣日日新報主筆　谷河梅人譯編

臺灣文化史說　（內容左の如し）　文學博士　幣原坦
一、國史より見たる三百年記念
二、ゼーランヂヤ築城史話　文學博士　村上直次郎
三、蘭人の蕃社教育　同
四、臺灣蕃語文書　同

續臺灣文化史說　（內容左の如し）　臺灣總督府技師　栗山俊一
一、安平城址と赤崁樓に就て　臺灣總督府圖書館長　山中樵
二、臺灣三百年の史料　史蹟名勝天然記念物調査會委員　連雅堂
三、鄭氏時代の文化　臺灣史料編纂員　尾崎秀眞
四、清朝時代の臺灣文化

史料展覽會記念繪葉書（內容左の如し）
(一)新港文書　(二)臺南附近の古圖　(三)ゼーランヂヤ城古圖

臺南名所繪葉書　（內容左の如し）
(一)官幣中社臺南神社　(二)赤崁城　(三)赤崁樓　(四)臺南運河安平船溜　(五)臺南運河臺南船溜
(六)臺南公園　(七)臺南市大正街鳳凰木並樹

臺南市景觀（表面鳥瞰圖、裏面名所寫眞）

爰に特記すべきは本文化三百年記念會開催に際し、最も緣故深き駐日和蘭公使バプスト氏が態ざ來臺せられたことで、同公使は親しく開會式にも臨まれ、且つ式後祝宴會場に於ては懇切叮嚀なる祝辭を述べられ、本會に對し意義ある光彩を添へられた、而かも其後ち本國政府に稟申せられたものか、本會々長堀內林平氏に和蘭國政府より『コンマンドール、ド、ロルドル、ドランジュ、ナッソー』勳章を贈られたのは、是れ全く和蘭文化の研究と、其遺跡保存に努めたる功勞を表彰せられたるものとして、確かに本會の成功を旁證した譯である。

最後に臨みて一言したきは、此の史料展の出品目錄を『臺灣史料集成』として編纂永く記念すると共に、臺灣文化三百年記念會の爲め直接間接援助を賜りし諸彥、並に史料展覽會出品者各位に、謹で感謝の意を表する次第である。

臺灣文化三百年記念會

(1) 有史以前　先住民時代　約三千年

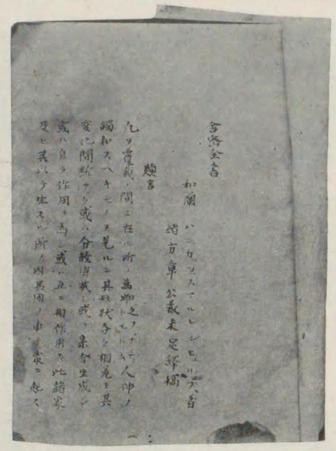
(2) 日本甲螺時代　高砂期　約七百年

(3) 和蘭占據時代　フヲルモサ期　三十八年間

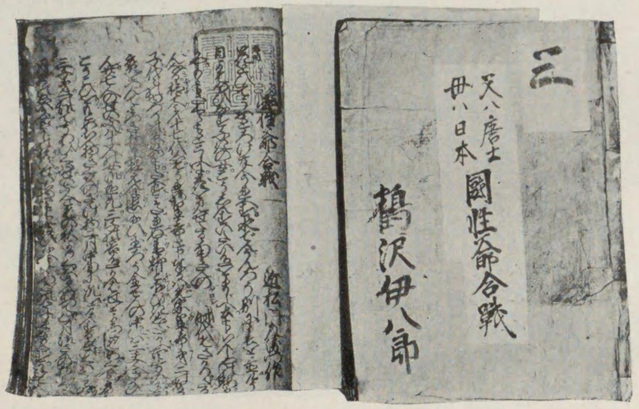
(4) 鄭氏三代時代　東都、東寧期　二十四年間

(5) 清國領有時代　臺灣前期　二百十二年間

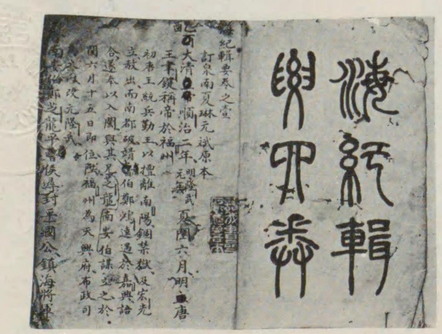
(6) 日本領臺後　臺灣後期　今三十六年間



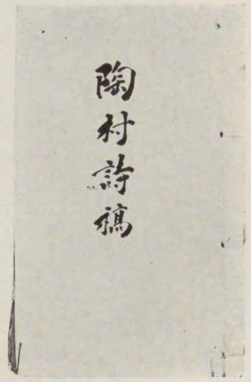
舍密全書　臺北　西撫仙氏藏



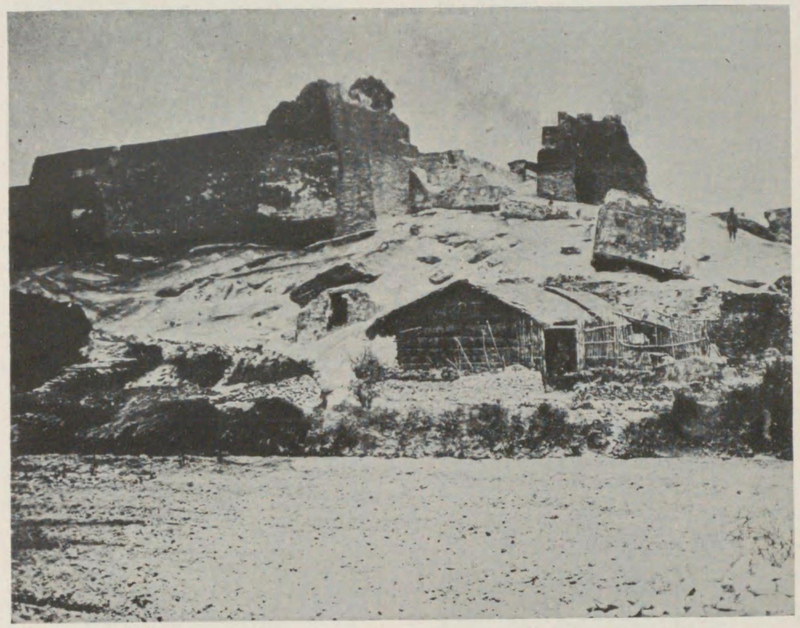
國姓爺合戰　臺灣總督府圖書館藏



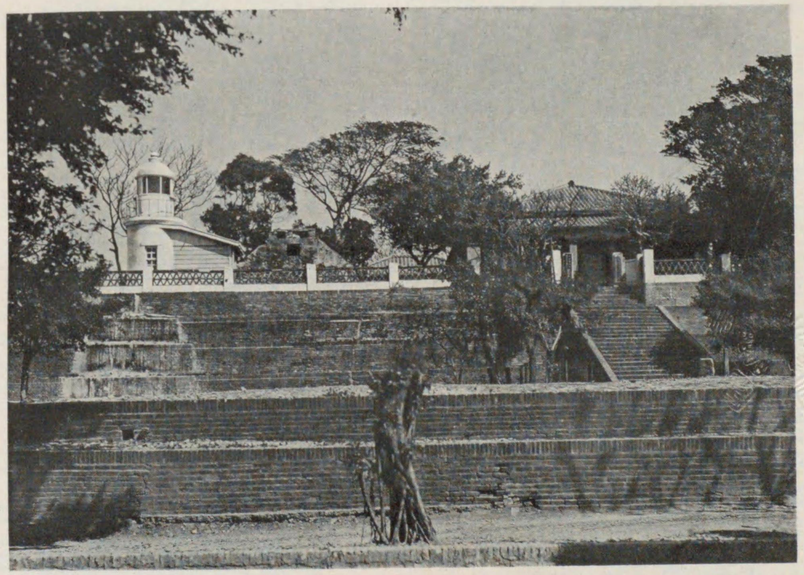
海紀輯要　臺北　連雅堂氏藏



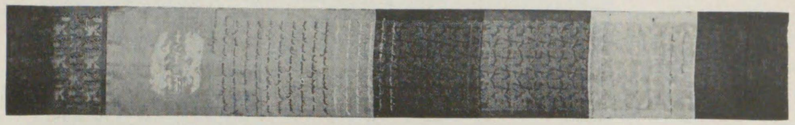
陶村詩稿

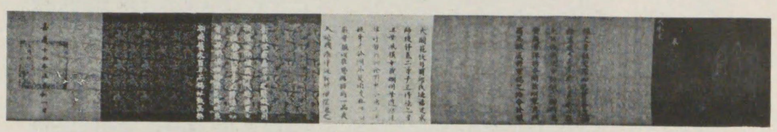


改隸前の「ゼーランヂア」城趾（寫眞）　臺北　幣原坦氏藏



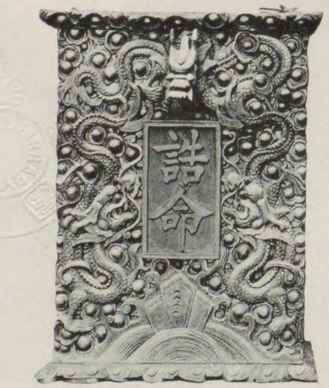
現今の赤崁城址（寫眞）　本會藏



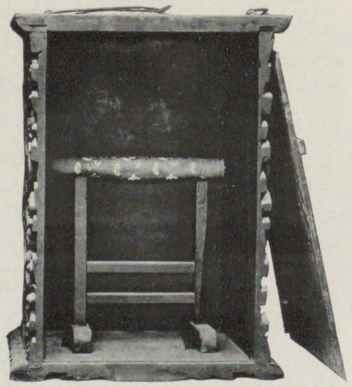


奉天誥命二卷　　臺南　鄭戊戌氏藏

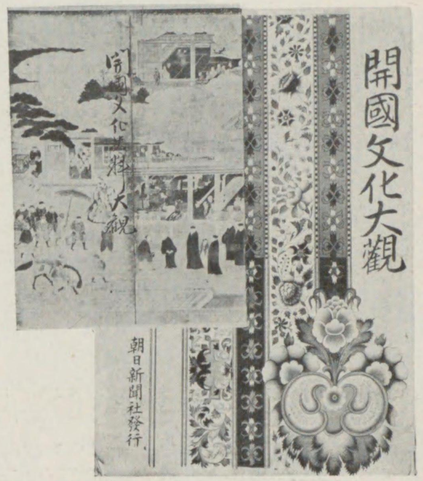
王得祿叙爵賜品　　嘉義　王一家藏



臺南新報社藏



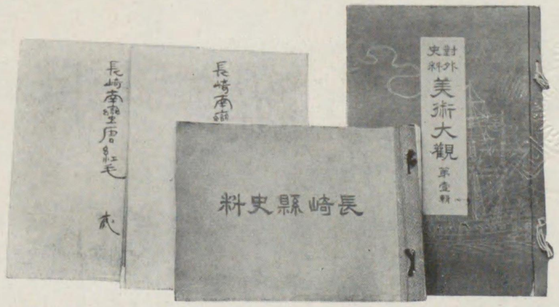
誥命函



開國文化大觀　臺北　稻垣孫兵衛氏藏

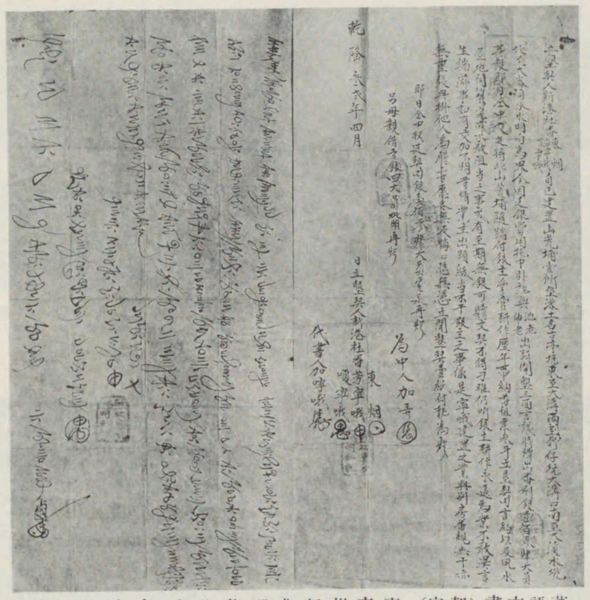
臺灣土產寫眞帖　　北白川宮御遺跡寫眞帖

臺南　村上玉吉氏藏　　臺南　臺南神社藏

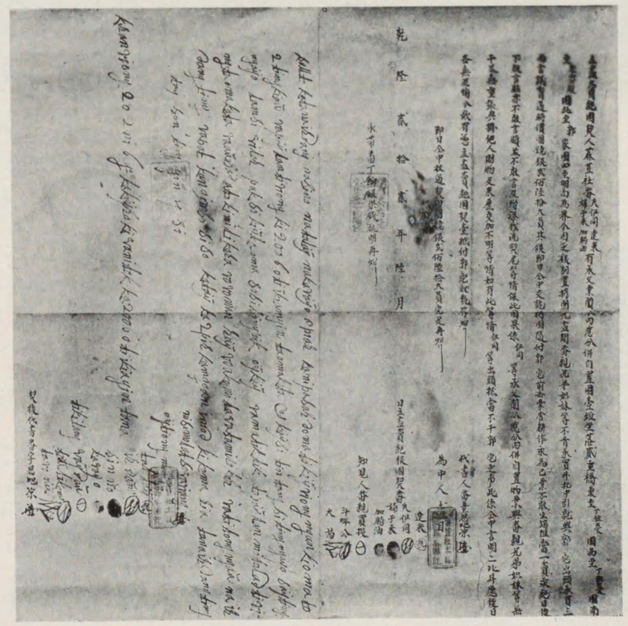


長崎南蠻唐紅毛　　料史縣崎長　　長崎美術大觀

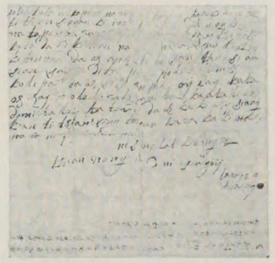
臺北　稻垣孫兵衛氏藏　　臺北　西撫仙氏藏



蕃語文書（契字）臺南州新豐郡龍崎庄余辛丑氏藏

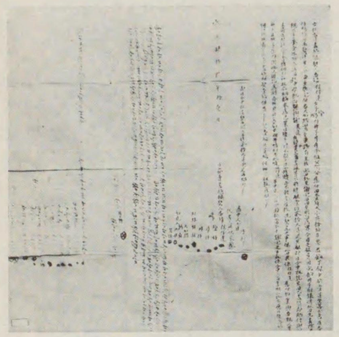


蕃語文書（契字）臺南州曾文郡下營庄黃清淵氏藏

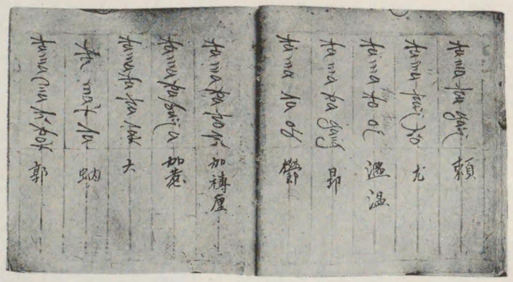


蕃語文書（字契）
臺南州曾文郡麻豆鄭漢氏藏

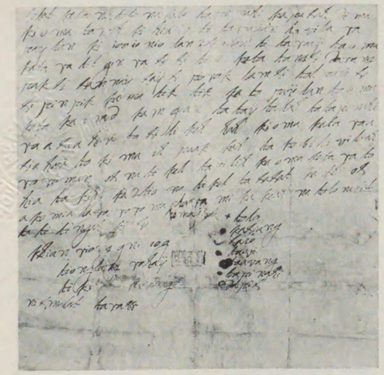
蕃の契字土　臺灣總督府博物館藏



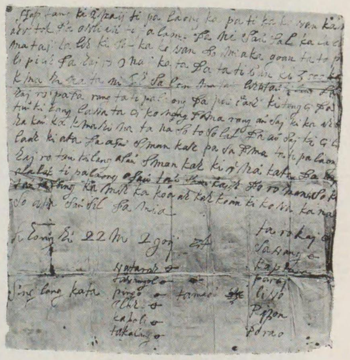
蕃語文書（字契）
臺南州曾文郡麻豆鄭漢氏藏



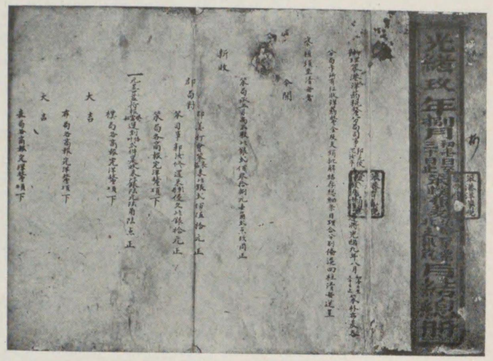
蕃語物價表　臺灣總督府博物館藏



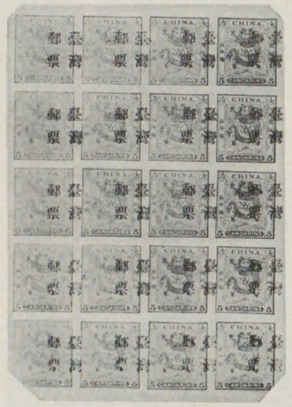
蕃語文書（字契）
臺南州曾文郡麻豆鄭漢氏藏



蕃語文書（字契）
臺南州北門郡佳里謝麟謀氏藏

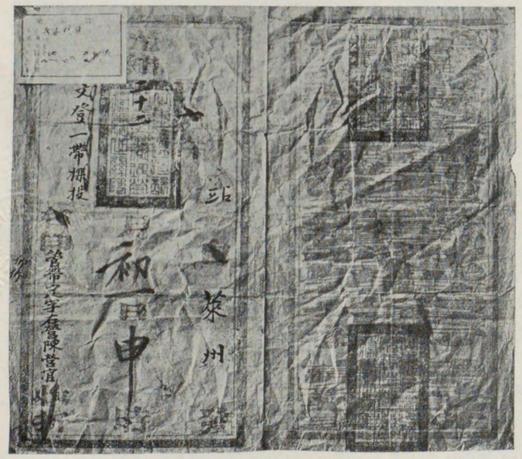


光緒年間の關稅書類
臺南　石陽睢氏藏

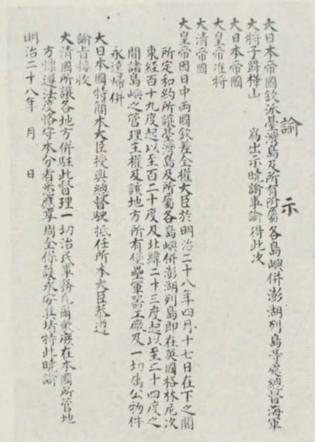


領臺前臺灣切手
臺灣總督府交通局藏

領臺前の郵政商票
臺灣總督府交通局藏



清政府時代官用文書狀袋
臺灣總督府交通局藏



諭示

大日本帝國欽差全權大臣於明治二十八年四月十七日在下之間
大清帝國日中兩國欽差全權大臣所定和約所讓渡臺灣島及所屬各島嶼併澎湖列島永遠割與
大日本帝國
大皇帝陛下
大將子爵樺山
為出示曉諭事諭得此次
東經百十九度起以至百二十度及北緯二十三度起以至二十四度之間諸島嶼之管理主權及該地方所有堡壘軍器五歲及一切屬公物件
永遠歸併
大日本國特簡本大臣授與總督職抵任所本大臣恭遵
諭旨接收
大清國所讓予地方併駐此管理一切治民事務凡商業應在本國所管地方遵法令各守本分有恭順寧謐公保義務永安其堵特此曉諭
明治二十八年　月　日

領臺當初の總督諭示文　臺北　尾崎秀眞氏藏

今回勅命ヲ以テ貴官ヲ簡拔シ授クルニ臺灣總督兼軍務司令官ノ重任ヲ以テセラレタルハ深ク貴官ノ材能果決ニ信倚セラルルトニ由ルヲ以テ今更ニ項目ヲ臚列シテ詳細示教スルノ要キカ如シト雖モ敢メテ諸般ノ政治ヲ新領土ニ施クニ當リ必ス先ツ其要旨ヲ概定セサルヘカラス殊ニ事ノ外交ニ涉ルモノニ至テハ貴官ト締盟各國領事官ト直接應對セルモ知ルヘカラス貴官ハ先ツ右ノ要項ニ基キテ庶政ヲ施キ且ツ詳細調査報告セラルヘシ政府ハ其報告ニ準據シ之カ為ニ要スル人員ヲ派出シ將來永遠島地ニ恰當スルノ制度ヲ定メントス

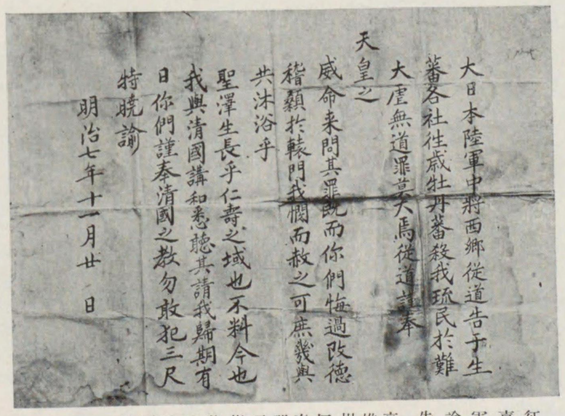
右及訓令候也

明治二十八年五月十日

内閣

臺灣總督兼軍務司令官伯爵伊藤博文

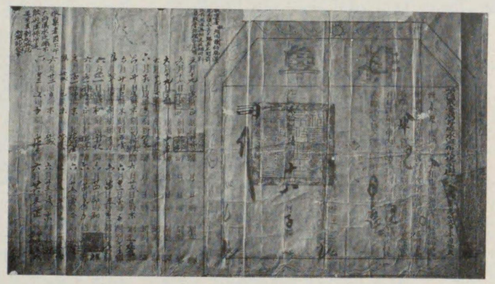
伊藤總理大臣訓令書　臺北　尾崎秀眞氏藏



大日本陸軍中將西鄉從道告于生蕃各社往歲牡丹蕃殺我琉民於難
大虐無道罪莫大焉從道謹奉
天皇之
威命來問其罪既而你們悔過改德稽顙於轅門我憫而赦之可庶幾與共沐浴乎
聖澤生長乎仁壽之域也不料今也我與清國講和悉聽其請我歸期有日你們謹奉清國之敎勿敢犯三尺
特曉諭
明治七年十一月廿日

征臺軍諭告　高雄州恒春郡頂茄芝茄萣社目頭
パトガトンヤジントラマツト氏藏

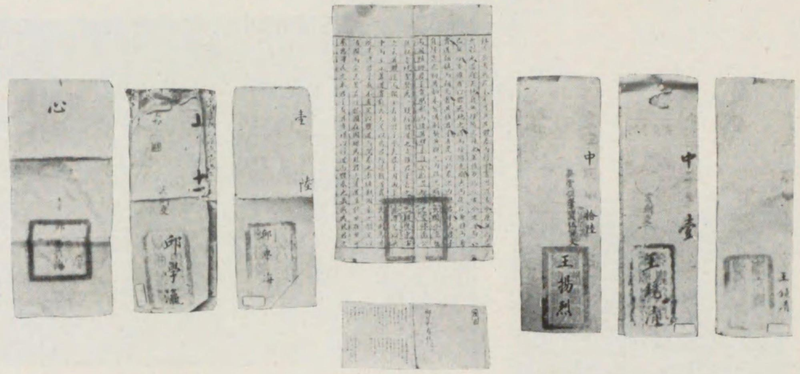
功牌用紙　臺南　陳明沛氏藏



家稅收單　臺南　陳明沛氏藏

清政府時代軍票　臺南　蔡津涯氏藏

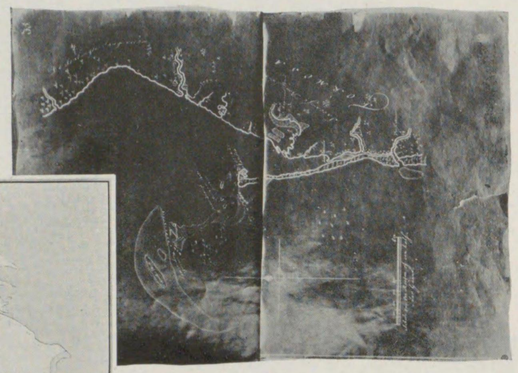
清政府時代軍票　臺南　蔡津涯氏藏



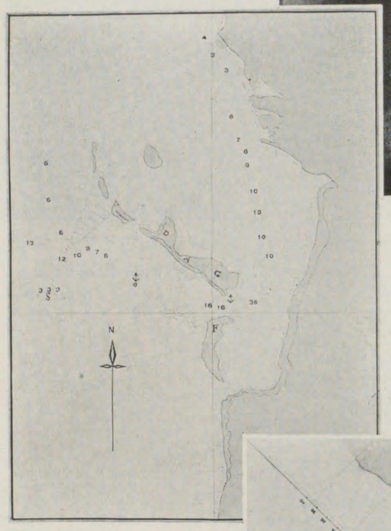
秀才試驗答案　臺南　石陽睢氏藏
臺南　陳鴻鳴氏藏

秀才式帽　臺南　梁瑞圖氏藏

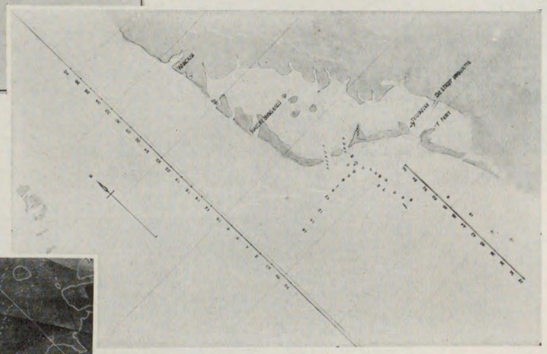
府學捷報　臺南　梁瑞圖氏藏



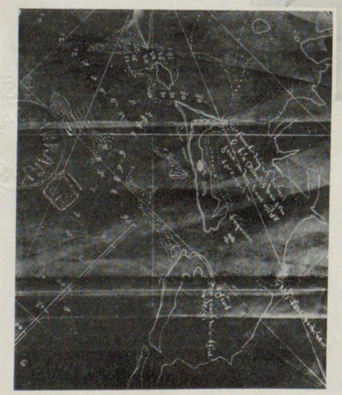
安平地圖（寫眞）　臺北帝國大學藏



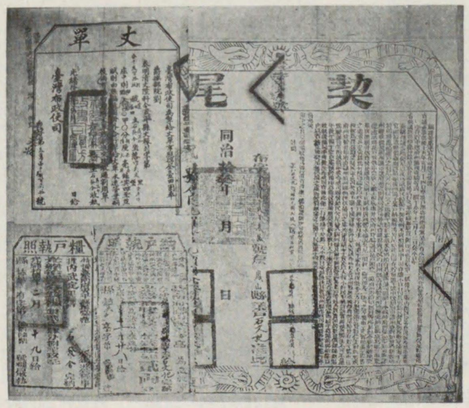
安平地圖（寫眞）
臺北帝國大學藏



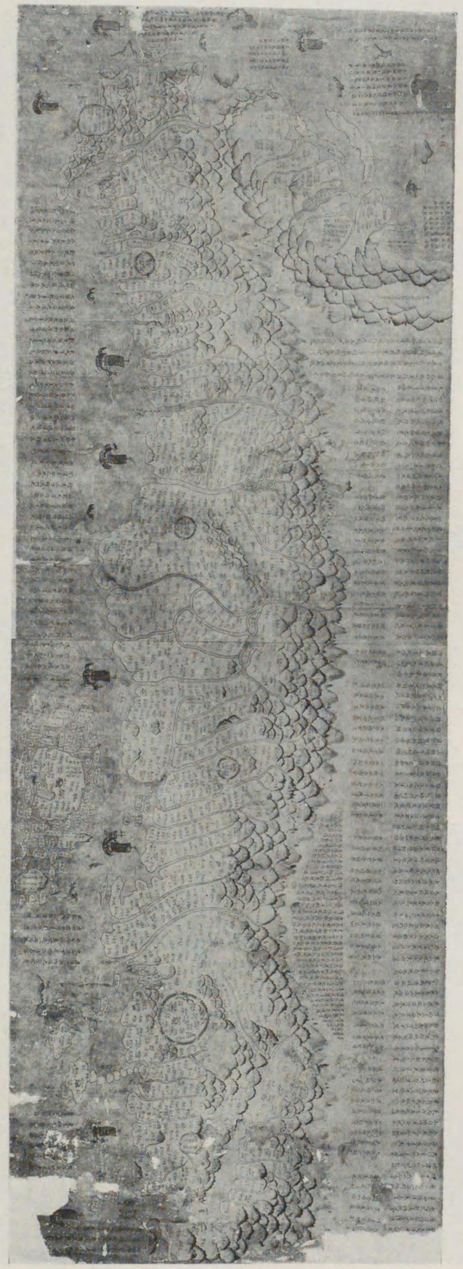
臺南及安平地圖（寫眞）　臺北帝國大學藏



臺南及安平地圖　臺北帝國大學藏



土地に關する古文書　臺南　石陽雎氏藏



臺南古城圖　藏廟家姓梁南臺

ゼーランヂヤ城古圖
臺灣總督府圖書館藏

和蘭時代臺灣地圖　臺灣總督府圖書館藏

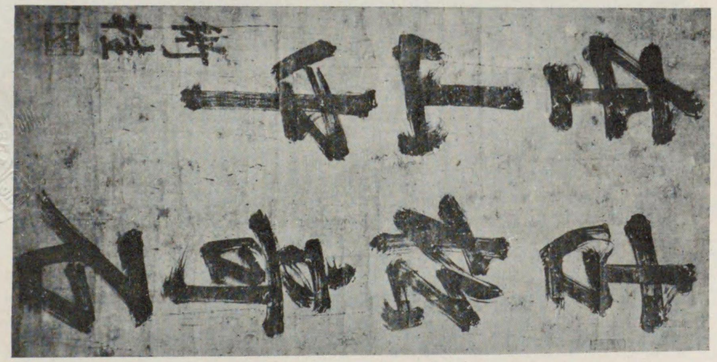
領臺當時の臺南圖　臺南村上玉吉氏藏

臺灣古圖　臺南梁姓家廟藏

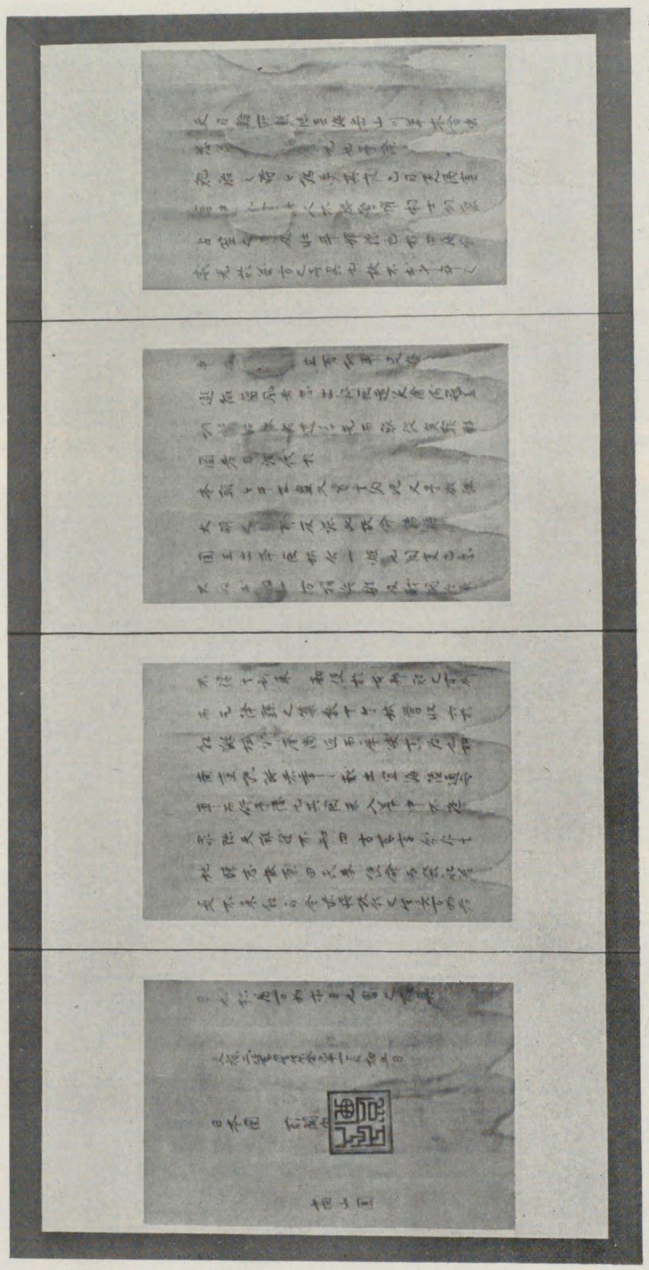
臺灣古地圖（寫本）　臺灣總督府博物館藏

鄭靖王書軸　臺北林雅光氏藏

鄭靖王書軸　臺南辛西准氏藏

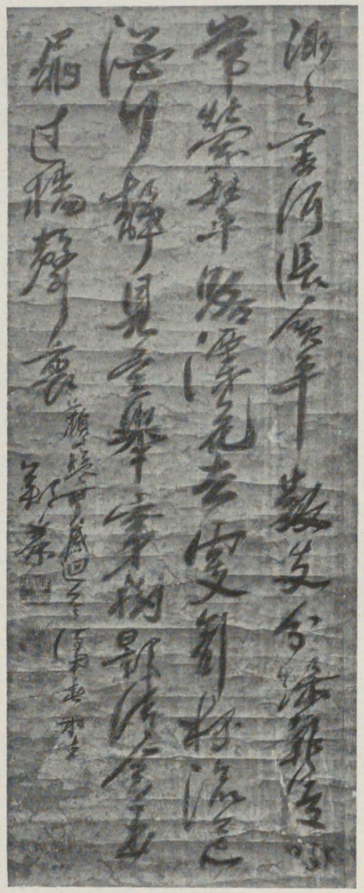


鄭靖王書軸　臺南石秀芳氏藏



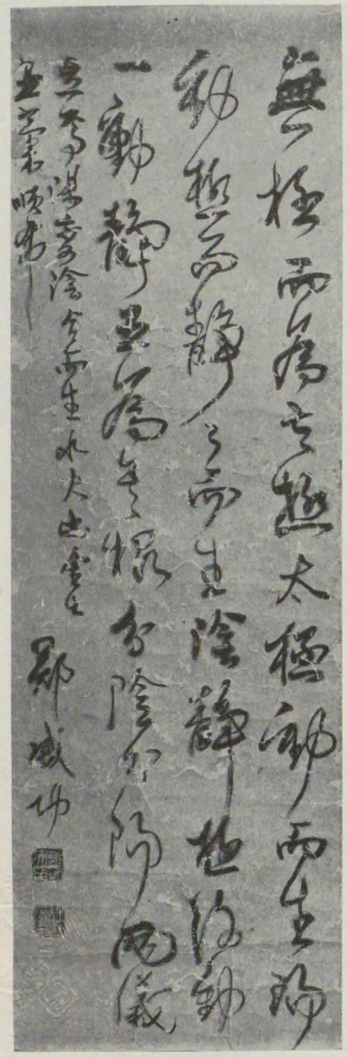
張降勳國山高の圖大豊

藏氏思近地富南臺



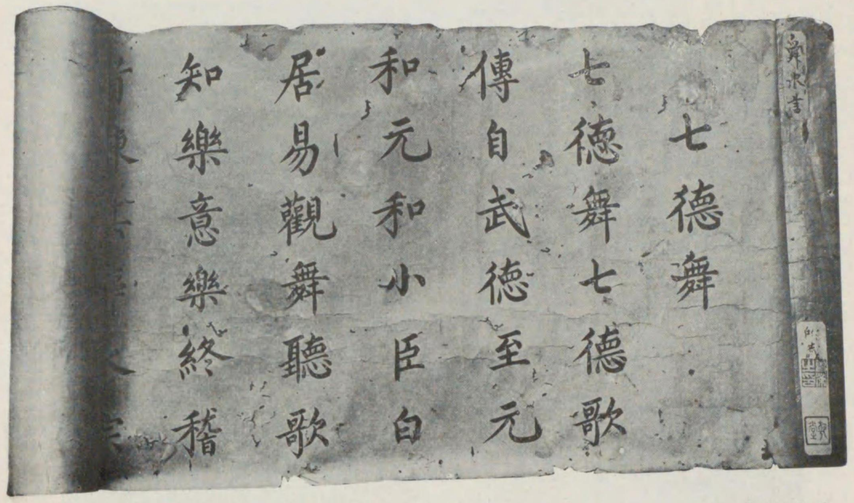
鄭成功書軸

新竹張開蘭氏藏

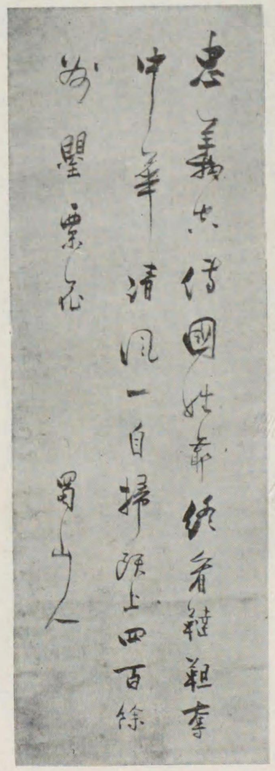


鄭成功眞蹟

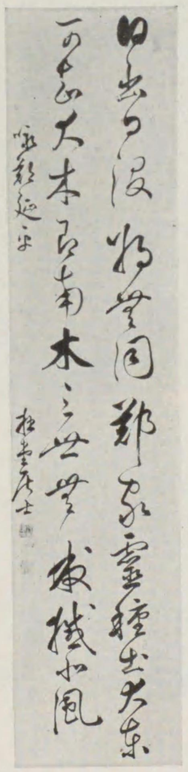
臺南開元寺藏



朱舜水書卷　臺北　杉田英氏藏



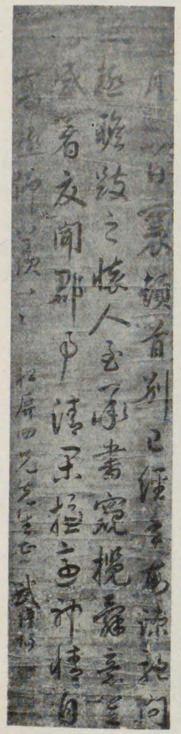
蜀山人鄭成功の詩書　臺南　津田毅一氏藏



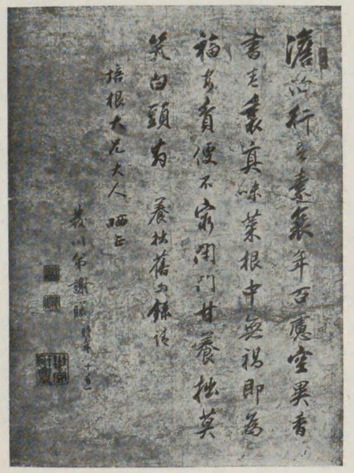
捫堂の鄭成功詩書　臺北　稻垣孫兵衛氏藏

黄道周の書軸　臺南　黄啓祥氏藏

陳永華書軸　臺南　陳鴻鳴氏藏

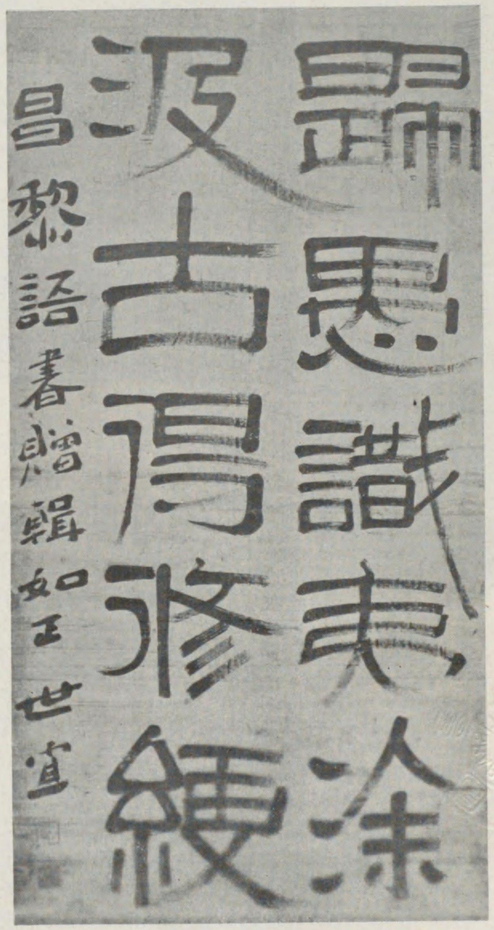


武隆阿の書軸　高雄州岡山郡　超峯寺藏

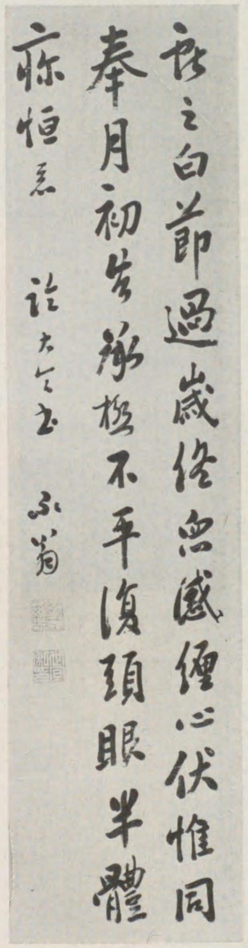


謝曦の書軸　臺南州新營郡塩水　陳宗能氏藏

林占梅の書（拓本）　臺北　尾崎秀眞氏藏

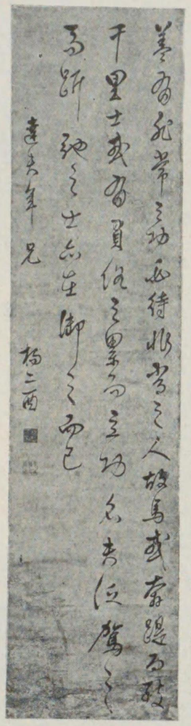


呂西村隸書　臺北　尾崎秀眞氏藏



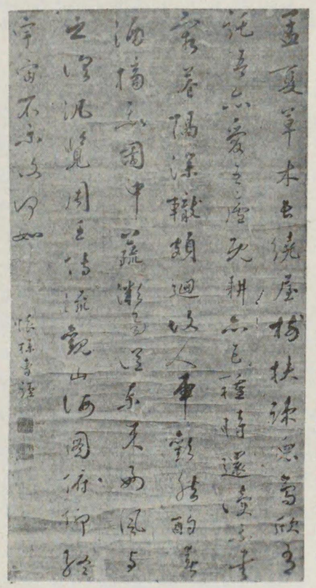
呂西村行書　高雄　楠田金之亟氏藏

林朝英書　高雄　楠田金之亟氏藏



楊二酉書　高雄　楠田金之亟氏藏

黃檗木庵書軸　臺南　鹿沼留吉氏藏



曹謹の書　高雄州　曹公水利組合藏

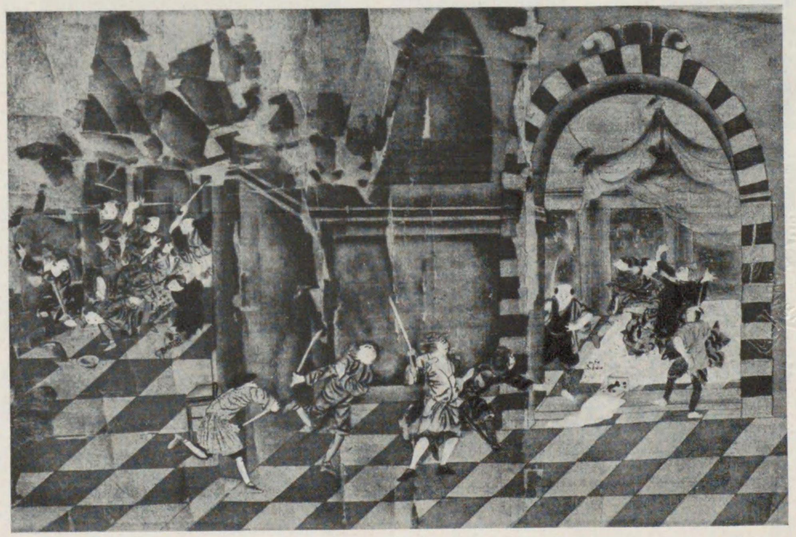
蘭人と鄭成功談判の圖
臺灣總督府博物館藏

ゼーランヂヤ城攻略の圖
臺灣總督府博物館藏

蘭人澎湖上陸の圖　臺灣總督府博物館藏

濱田彌兵衛討入日本画
臺灣總督府圖書館藏

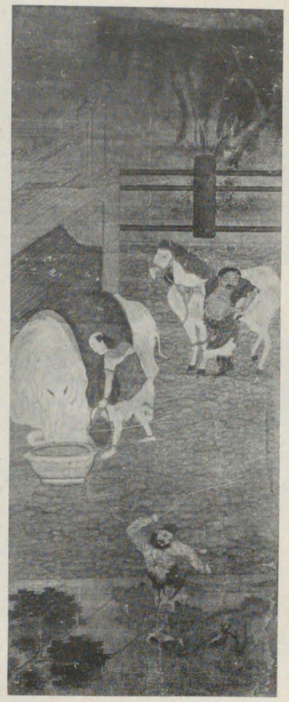
濱田彌兵衛太守ヲイツに迫るの圖　臺灣總督府圖書館藏



濱田彌兵衛武勇の圖　臺灣總督府圖書館藏

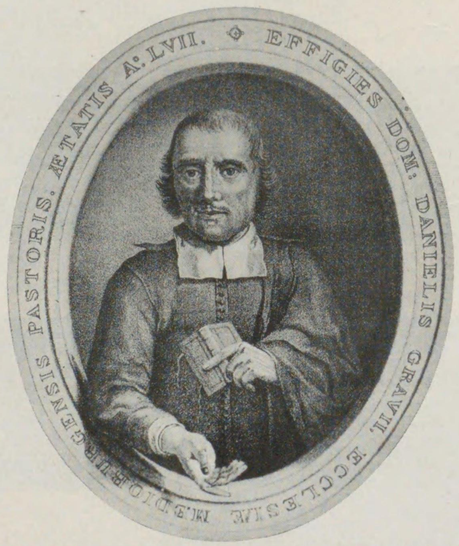
和蘭人の圖

臺北　稻垣其外氏藏



丁雲鵬画軸

臺南　陳明沛氏藏

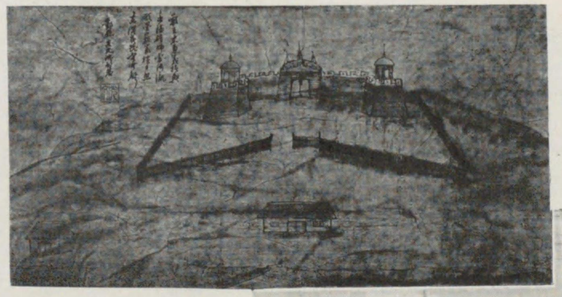


和蘭宣教師ゲラヴイウスの像（馬太福音傳全書より）

臺南　坂本寫眞館原版

アントニウス,ハンプルータ（悲劇臺灣の圖）

臺灣總督府圖書館藏



沈斯庵赤崁城扁額

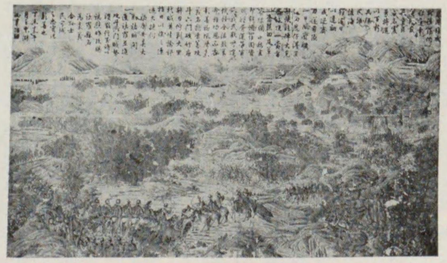
臺南　陳明沛氏藏

ゼーランヂヤ城の圖

臺灣總督府圖書館藏

馬武督大山圖　　臺北林佛國氏藏

諸羅縣誌　　臺灣總督府圖書館藏

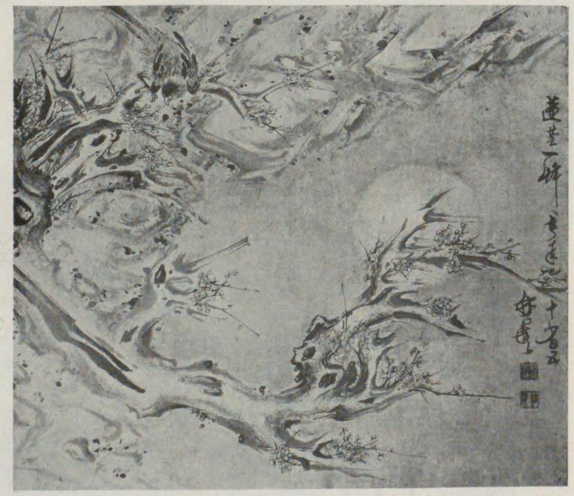


清國臺灣土匪征討圖　　臺灣總督府圖書館藏

圖俗風社蕃灣臺

藏館物博府督總灣臺

劉永福画軸　臺南陳明沛氏藏



林朝英画軸　臺南冨地近思氏藏

謝琯樵画

高雄　楠田金之亟氏藏

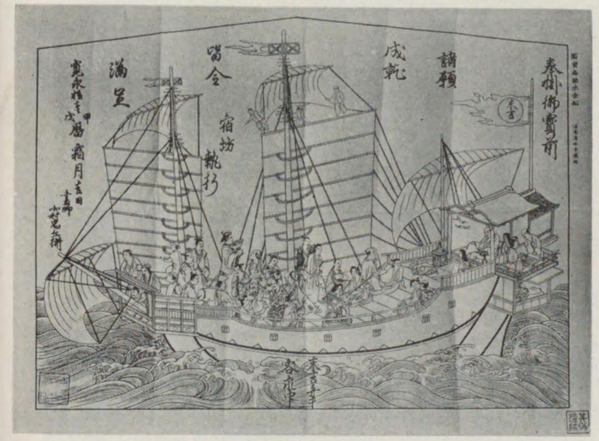
王霖　山水及花鳥

臺北　尾崎秀眞氏藏

周凱山水畫　臺北　尾崎秀眞氏藏

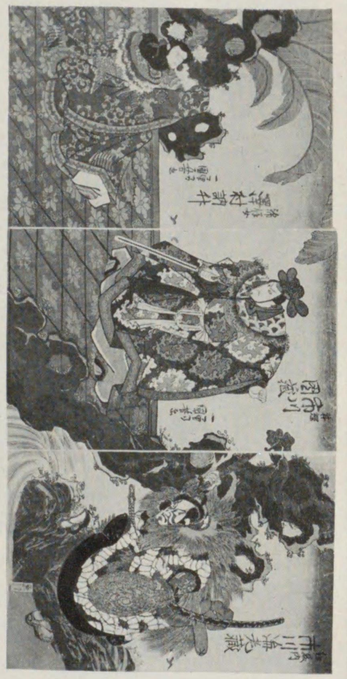
阿蘭陀船入津之圖

唐船の圖　　臺北 稻垣其外氏藏



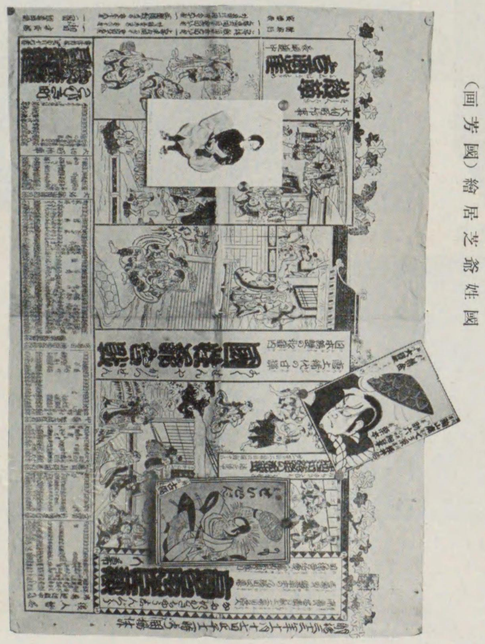
御朱印船繪　　臺北 稻垣其外氏藏

日清戰爭錦繪媾和談判之圖　　臺北 宮嶋龍華氏藏

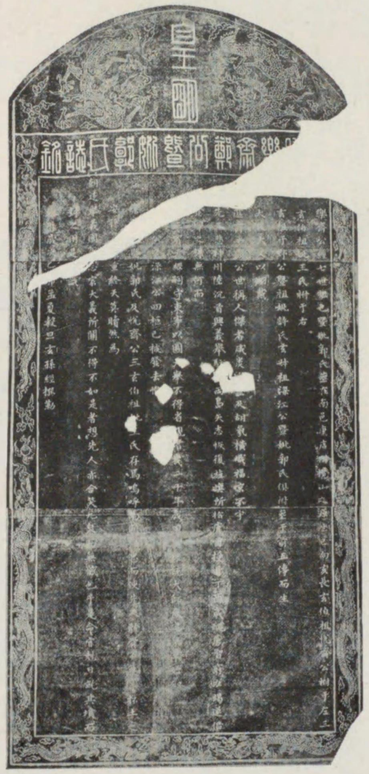


國芳國〉繪居芝爺姓國　　藏館書圖谷比日京東

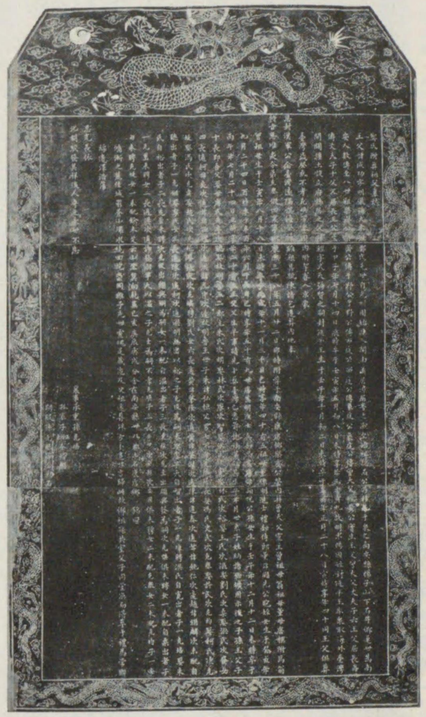
附番繪戰合爺姓國　　藏氏華龍嶋宮 北臺



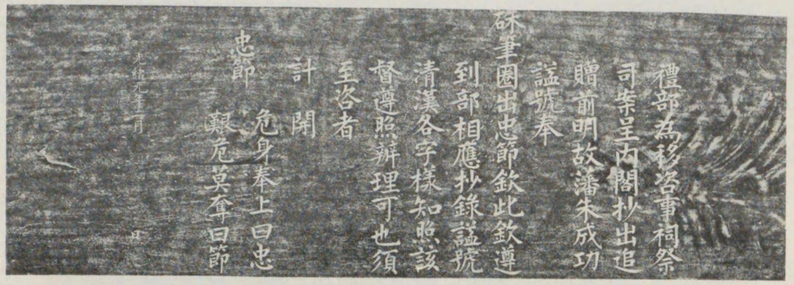
附番繪戰合爺姓國　　藏氏華龍嶋宮 北臺



皇明樂齋鄭公碑　臺北　西澤義徵氏藏

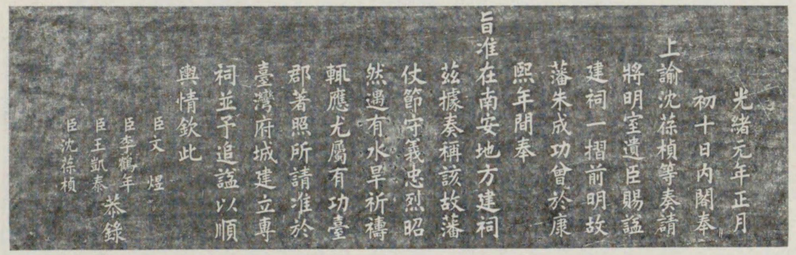


鄭家歸葬碑　臺北　西澤義徵氏藏



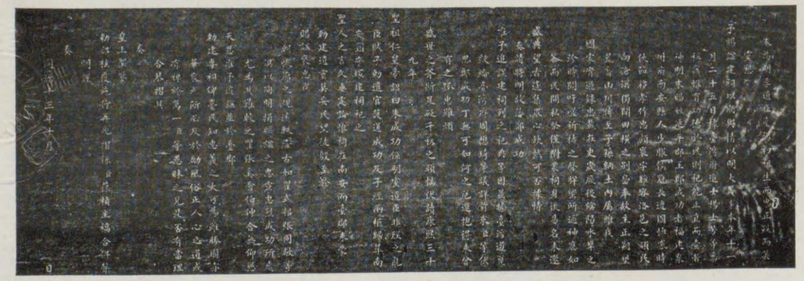
禮部為移咨事祠祭
司案呈內閣抄出追
贈前明故藩朱成功
謚號奉
欽筆圈出忠節欽此欽遵
到部相應抄錄謚號
清漢各字樣知照該
督遵照辦理可也須
至咨者
計開
忠節　危身奉上曰忠
艱危莫奪曰節

謚號忠節の額　臺南開山神社藏



光緒元年正月
初十日內閣奉
上諭沈葆楨等奏請
將明室遺臣賜謚
建祠一摺前明故
藩朱成功曾於康
熙年間奉
旨准在南安地方建祠
仗節守義忠烈昭
然邁有水旱祈禱
輒應尤屬有功臺
郡著照所請准於
臺灣府城建立專
祠並予追謚以順
輿情欽此
臣文煜
臣李鶴年　恭錄
臣王凱泰
臣沈葆楨

沈葆楨の奏文　臺南開山神社藏

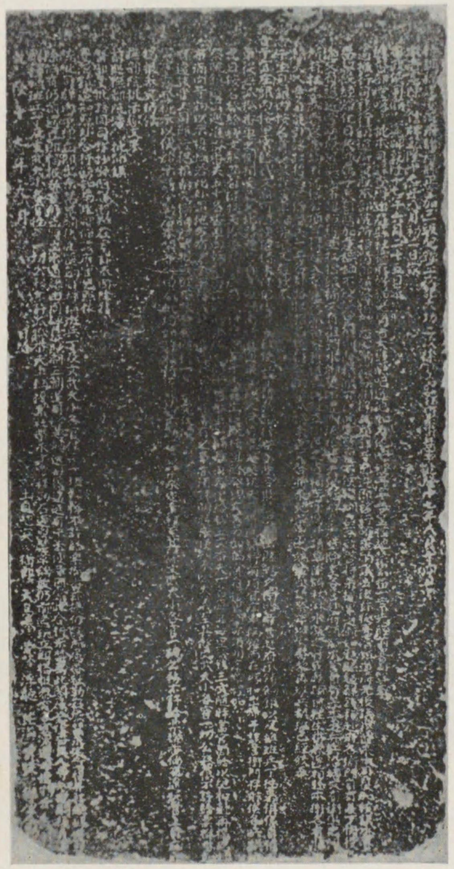


專祠勅許　臺南開山神社藏

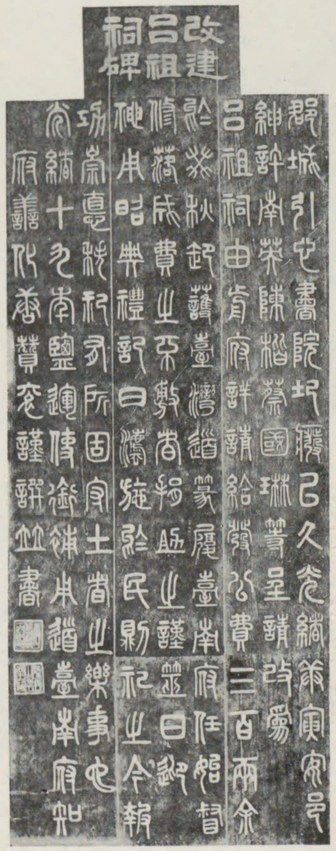
明の寧靖王像（寫眞）　本會藏

五妃の像（寫眞）　本會藏

鴻指園の記（拓本）　本會藏



蔣入告示碑　臺南　坂本寫眞館藏



臺南　呂祖祠碑　臺北　尾崎秀眞氏藏

國聖媽及國聖公像　厦門　曾厚坤氏藏

鄭成功畫像　厦門　曾厚坤氏藏

鄭芝龍の銅像（寫眞）　本會藏

臺南開元寺安置鄭成功（寫眞）　本會藏

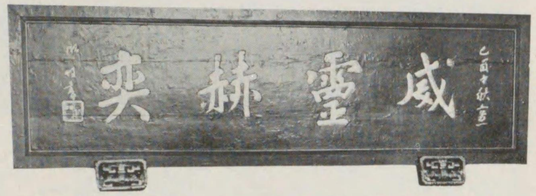
鄭成功之銅像（寫眞）　本會藏

安平鄭成功の像（寫眞）　本會藏

鄭成功畫像

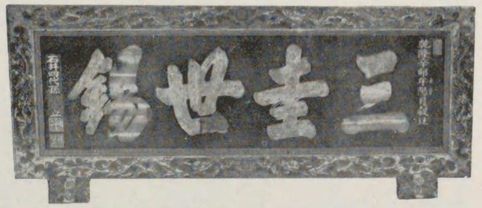
臺南　開山神社藏

額納奉の督總山樺　　藏社神山開　南臺



寧靖王の書額（寫眞）　　藏會本

扁額小南天（寫眞）　　藏會本



鄭姓家廟の扁額（寫眞）　本會藏

額扁殿山華　　岡山郡竹滬庄　寧靖王廟藏

像塑華永陳　南臺　　藏廟家姓陳

像音觀　南臺　鄭長康氏藏

二王廟祭神（寫眞）　本會藏

像の春茂季（寫眞）　本會藏

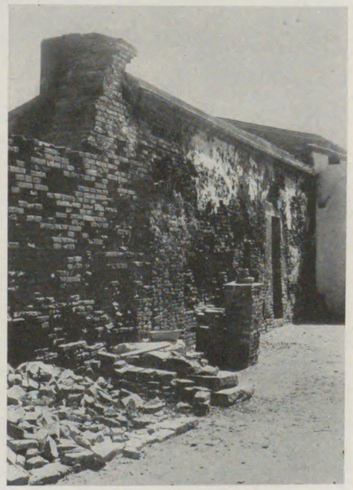
像の英吳（寫眞）　本會藏

像琅施廟琅施湖澎（寫眞）　本會藏

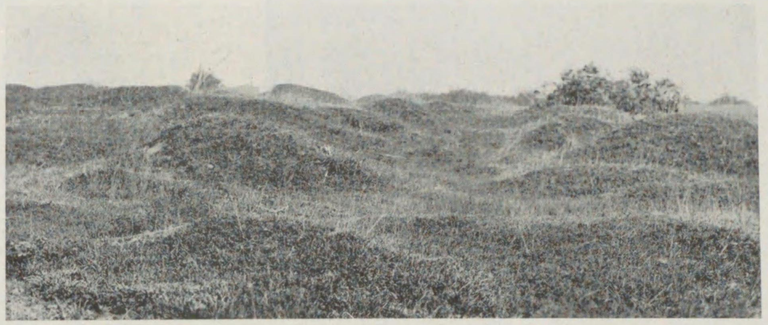
紅木埕の城趾　　澎湖廳藏

和蘭人の墓址（寫眞）　　本會藏

梳粧樓址（寫眞）　本會藏



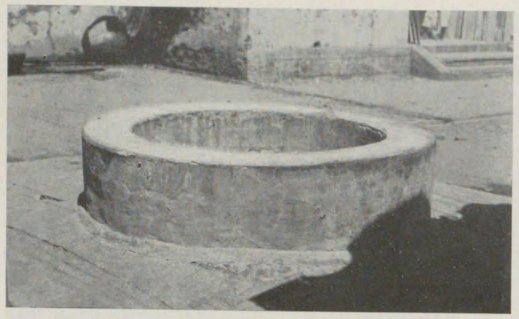
和蘭梳粧樓址（寫眞）　本會藏



蘭人遺跡（寫眞）　　本會藏

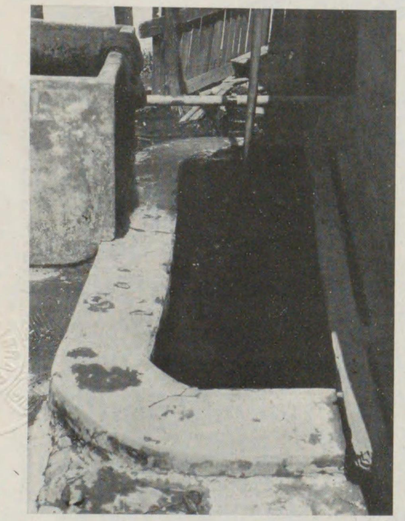
蘭人遺跡（寫眞）　　本會藏

蘭人遺跡（寫眞）　　本會藏

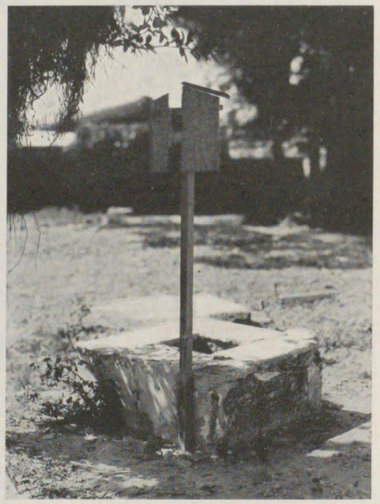


安平の紅毛井（寫眞）　本會藏

嘉義紅毛井（寫眞）　嘉義市役所藏

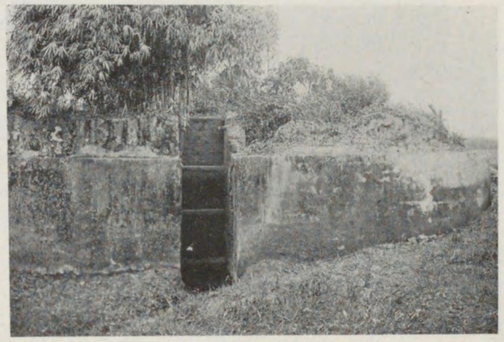


臺南小西門外蘭人發掘井（寫眞）　本會藏

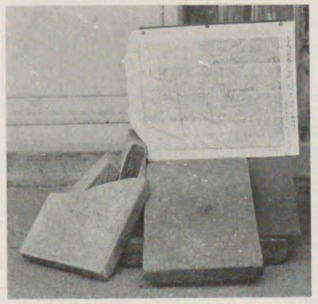


安平　和蘭井（寫眞）　本會藏

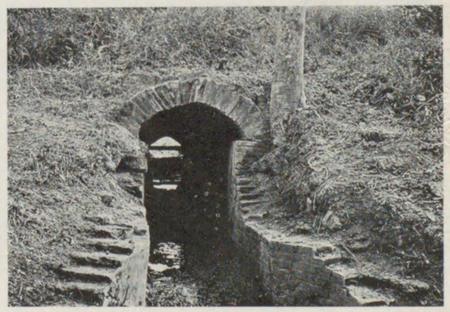
小琉球嶼の烏鬼洞（寫眞）　高雄州東港郡役所藏



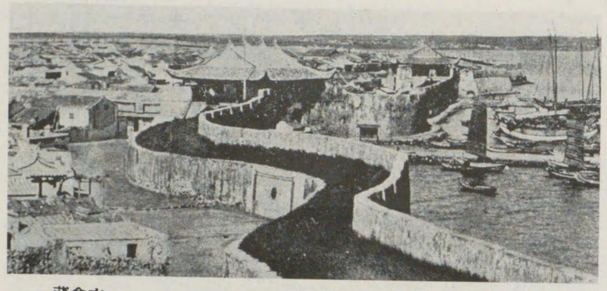
和蘭三脚埠（寫眞）　嘉南大圳組合藏



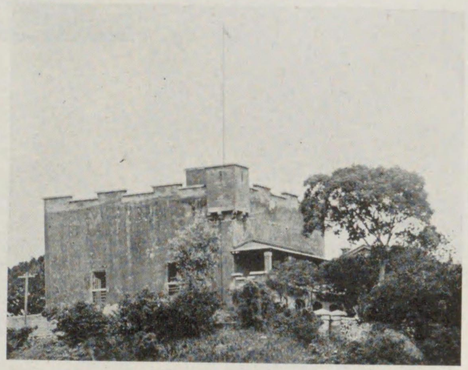
和蘭三脚埠用古煉瓦　嘉南大圳組合藏



和蘭三脚碑（寫眞）　嘉南大圳組合藏

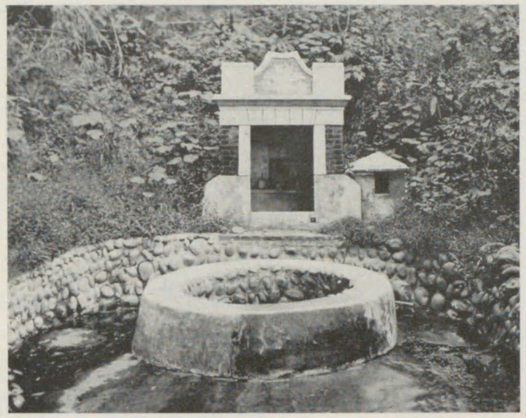


領臺當時の澎湖島の一部（寫眞）　本會藏

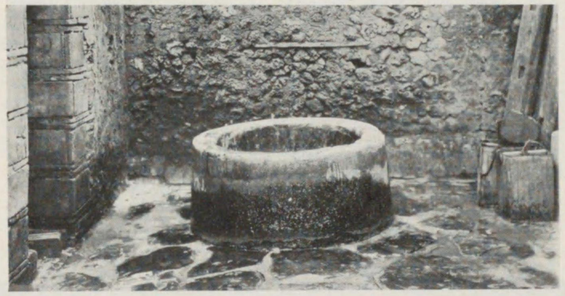


サンドミンゴ城址（寫眞）臺北州淡水街役場藏

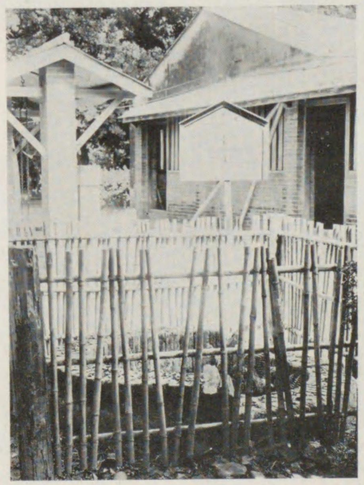
蕃人と漂流洋人との混血兒（寫眞）　花蓮港廳藏



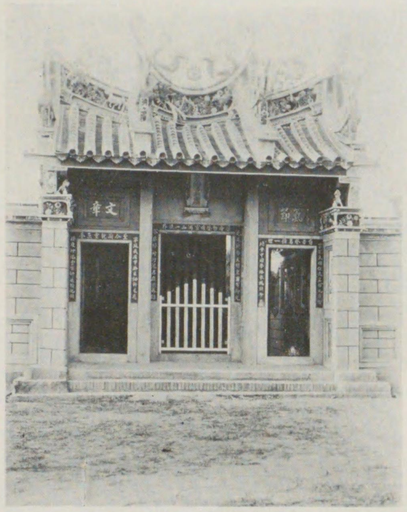
彰化紅毛井（寫眞）　臺中州彰化街役場藏



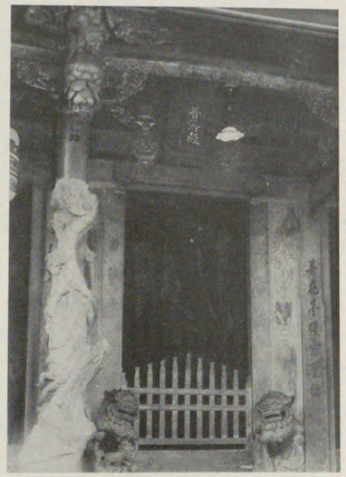
彰湖萬軍井（寫眞）　澎湖廳



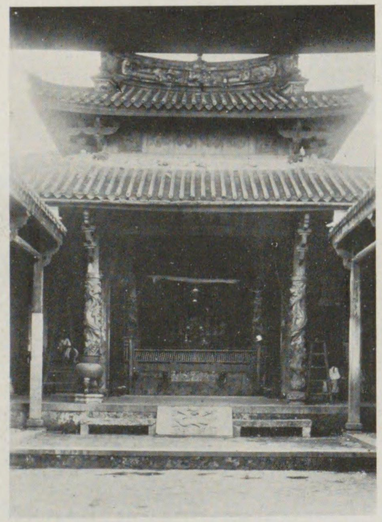
臺南開元寺內鄭經井（寫眞）　本會藏



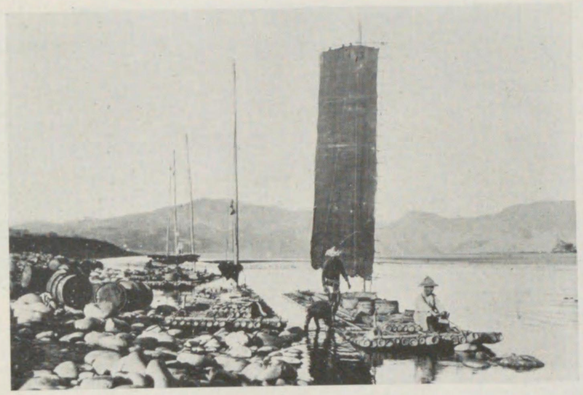
寧靖王廟（寫眞）　本會藏



普濟殿（寫眞）　本會藏

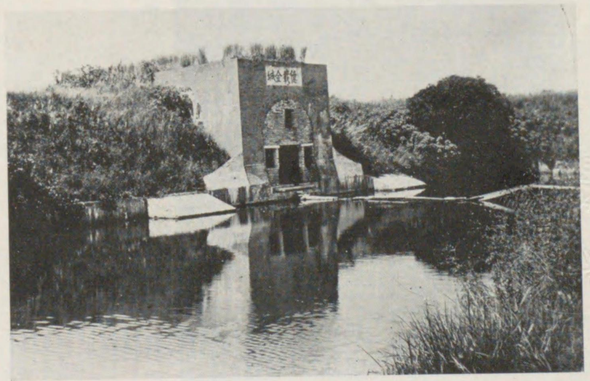


宗人府朝見所（寫眞）　本會藏



鹿耳門の上流（寫眞）臺南坂本寫眞館藏

領臺當時糖廍（寫眞）臺南坂本寫眞館藏



安平　億載金城（寫眞）　本會藏

花蓮港の鄭成功廟（寫眞）　花蓮港廳藏

鄭氏廟（寫眞）臺南州斗六街役場藏

國姓井と鄭成功廟（寫眞）臺中州大甲郡外埔庄役場藏

湖山岩觀音廟（寫眞）臺南州斗六街役場藏

赤山龍湖巖廟（寫眞）臺南州曾文郡役所藏

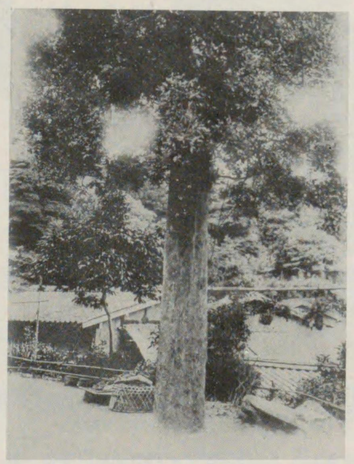
保安宮廟（寫眞）臺中州大甲郡清水　黃汝舟氏藏

臺南開元寺（寫眞）本會藏

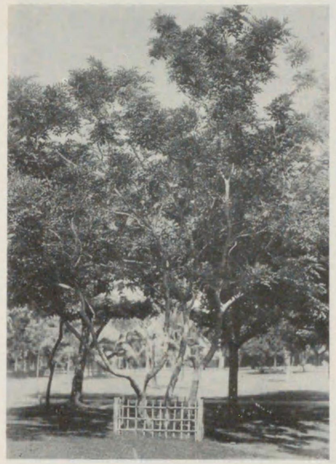
鄭成功慶誕碑所在（寫眞）　本會藏

千里ヶ濱兒誕石（寫眞）　本會藏

鄭成功殖手植の椎樹（寫眞）　本會藏



鄭芝龍遺址の竹柏樹（寫眞）　本會藏



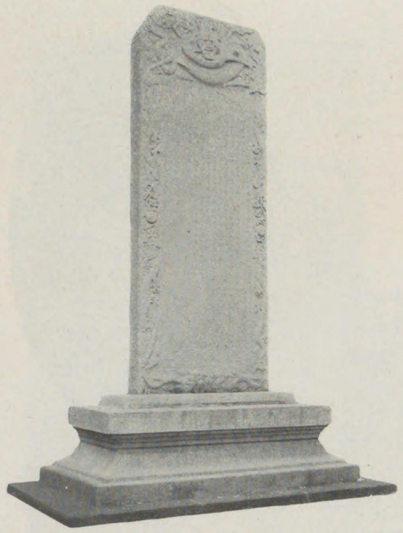
臺南公園藏　樹チカイサ變南

臺南州曾文郡官佃庄　樣仔の並木(寫眞)本會藏

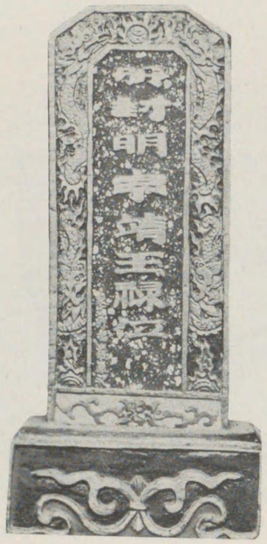
波羅蜜樹(寫眞)高雄州旗山郡旗山街役場藏

烏山頭の南ばんさいちかい樹　曾文郡役所藏

和蘭遺跡茄芝樹並木（寫眞）　高雄州屏東郡里港庄役場藏

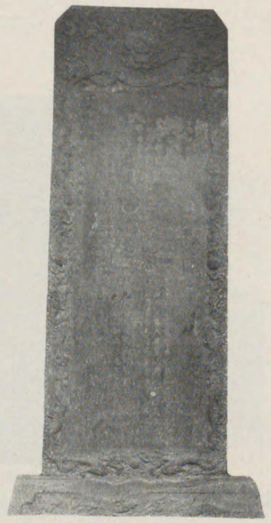


澎湖廳藏　　施公清臺碑

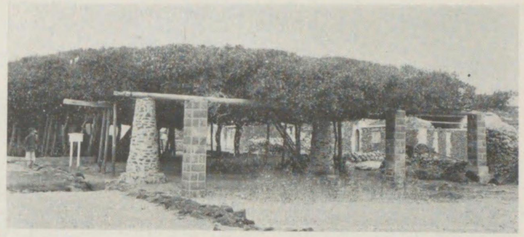


藏會本　（寫眞）位祿王靖寧

藏會本　　（寫眞）墓王靖寧

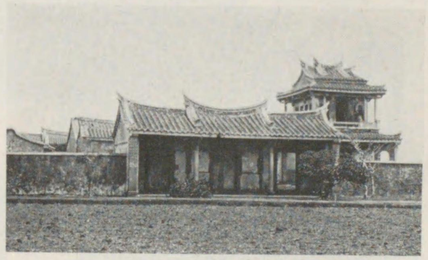


藏會本　（寫眞）碑文撰琅施

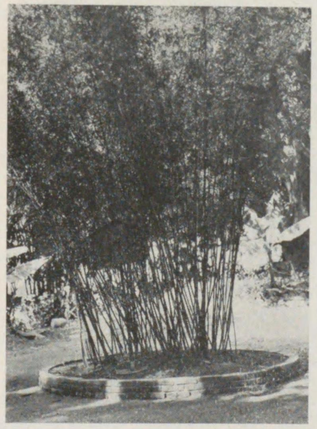


澎湖廳　　（寫眞）樹榕の梁迎

澎湖廳　　（寫眞）亭　藤　嘉



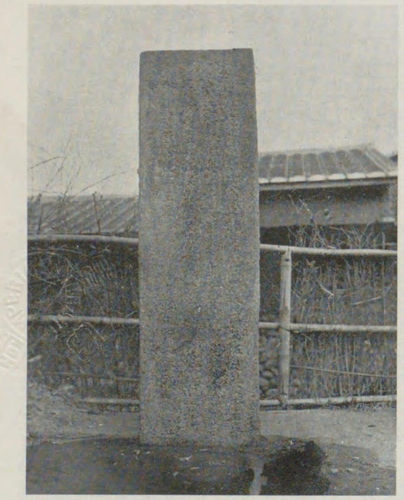
澎湖廳　　（寫眞）院書石文湖澎



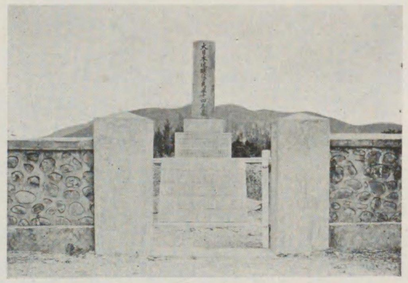
藏會本　（寫眞）竹結七內寺光開南臺

琉球藩民の墓碑　高雄州恒春郡役所藏

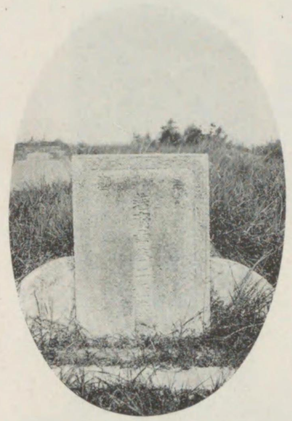
伏見宮貞愛親王殿下御上陸記念碑
（寫眞）臺南州東石郡役所藏



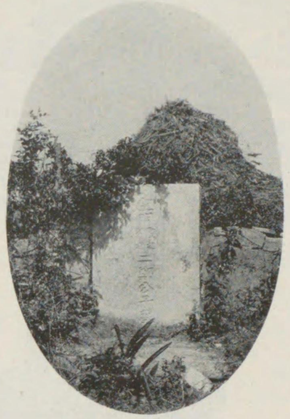
民蕃地界碑（寫眞）臺中州東勢郡石岡庄役場藏



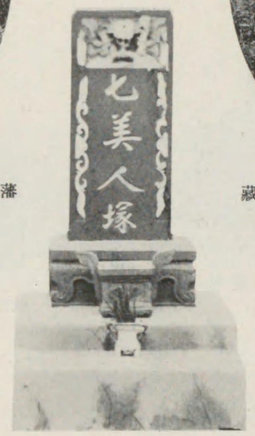
琉球藩民の墓　高雄州恒春郡役所藏



藩府曾蔡二姬之墓（寫眞）　本會藏



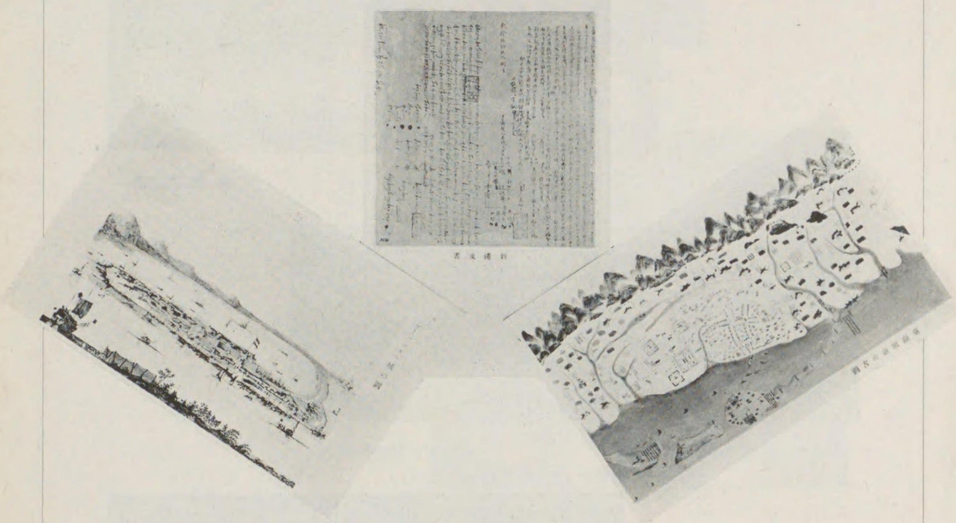
鄭二公子之墓（寫眞）　本會藏



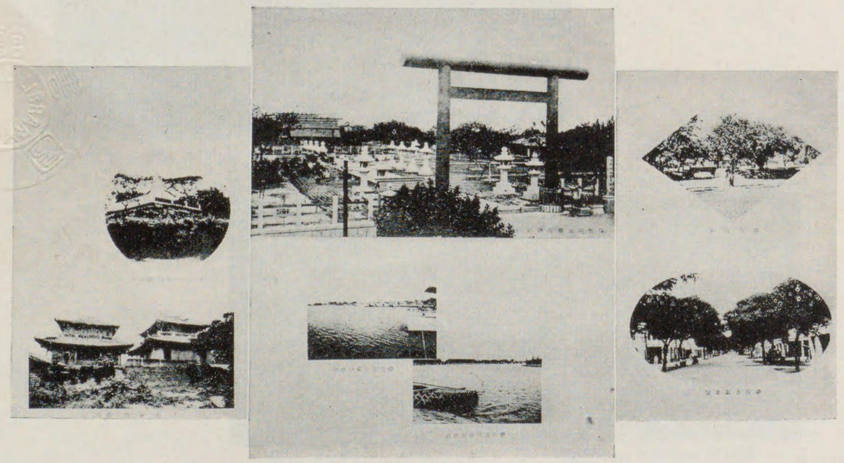
七美人の墓　澎湖廳藏

八卦山蔣國公の墓（寫眞）臺中州彰化街役場藏

八卦山鄧國公の墓（寫眞）臺中州彰化街役場藏

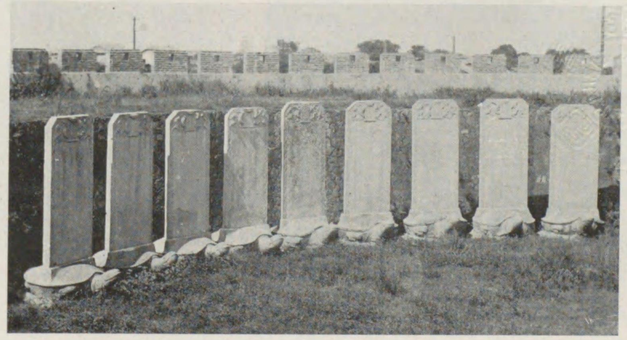


文化三百年記念繪葉書　本會藏

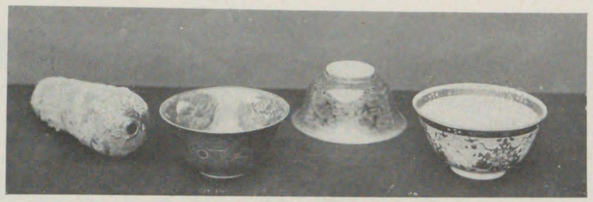


萬年享衞碑（寫眞）　臺中州竹山郡鹿谷庄役場藏

鴻指園の石額（寫眞）　本會藏



福康安の生祠（寫眞）　本會藏

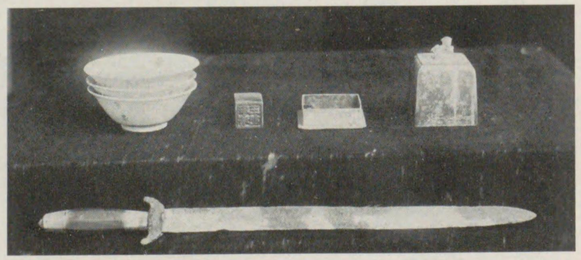


國聖瓶
古磁碗

厦門　曾厚坤氏藏
臺南　開元寺藏

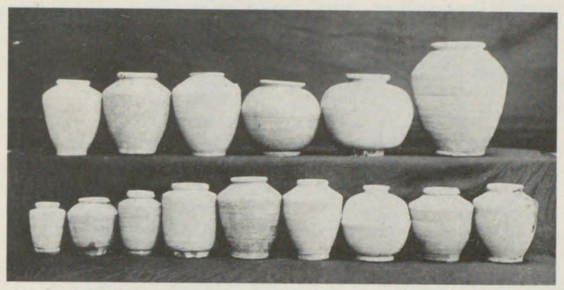
珍奇舶來品
「和蘭醬油壺」
「和蘭練藥壺」「領臺前のランプ」等
臺北稻垣孫兵衛氏、西撫仙氏其他藏

ギヤマン器　員林　桑原政夫氏其他藏



寧靖王の古劍と出土茶碗
王印及び鐸の容器

臺南　林清泉氏藏
高雄州　寧靖王廟藏



臺南　鹿沼留吉氏藏
同　桐右馬太氏藏

磁製出土壺

北臺　稻垣孫兵衛氏其他藏

西洋陶磁器（古渡）

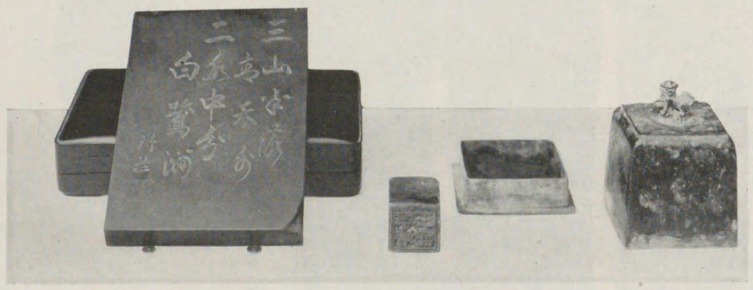
臺南　鹿沼留吉氏其他藏

和蘭陀陶器

高雄　楠田金之亟氏其他藏

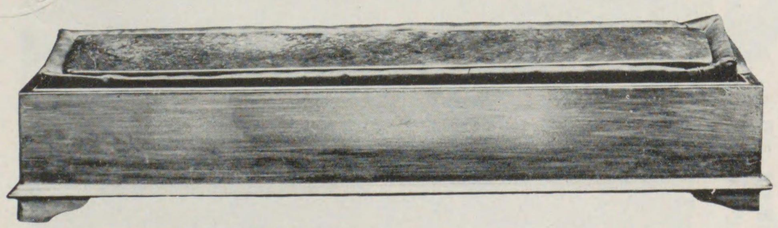
平戸燒陶磁器

銅製雲板　　臺南　長谷川貞成氏藏

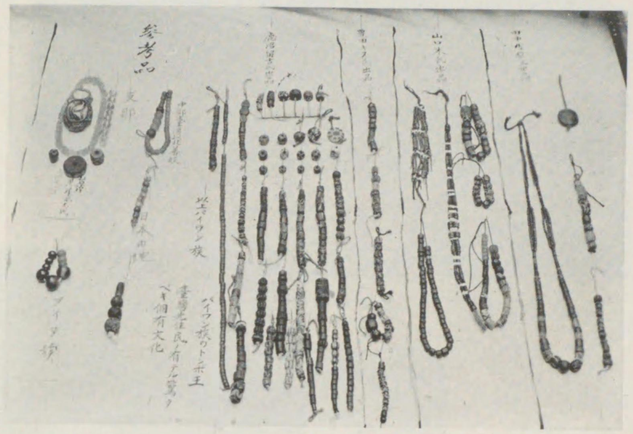


寧靖王遺愛の硯
同王印及び鐸の容器

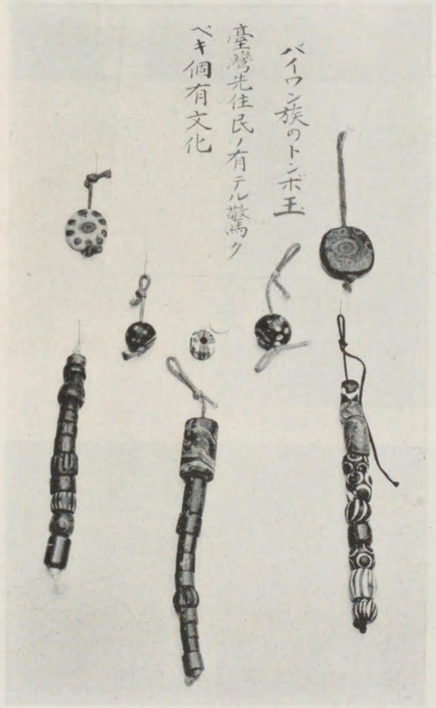
臺南　開山神社藏
岡山郡竹濃庄王廟藏



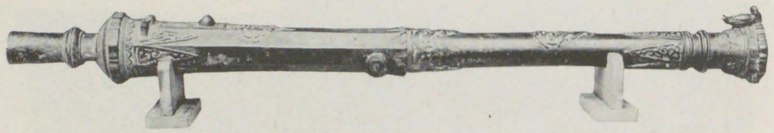
寧靖王の玉奏板　　臺南　三郊組合藏



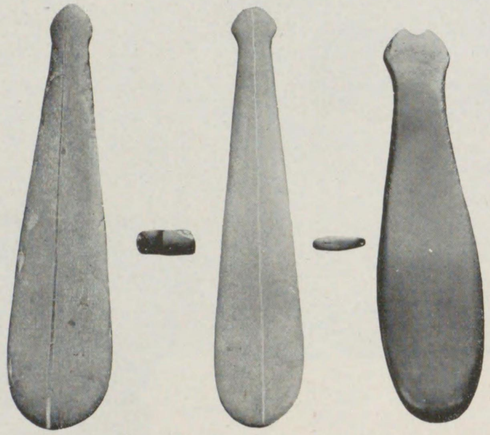
臺灣蜻蛉玉　　臺南　田中吉雄氏外四名藏



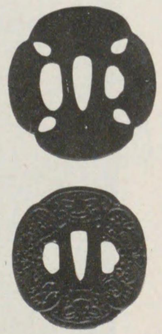
蜻蛉玉　　臺南　鹿沼留吉氏外壹名藏



火砲々身　臺南　教育博物館藏



石劍　臺南　胡丙申氏外二名藏

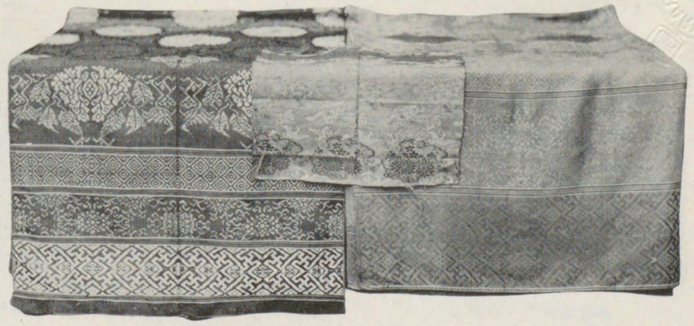


長崎鍔　臺南　桐右馬太氏藏

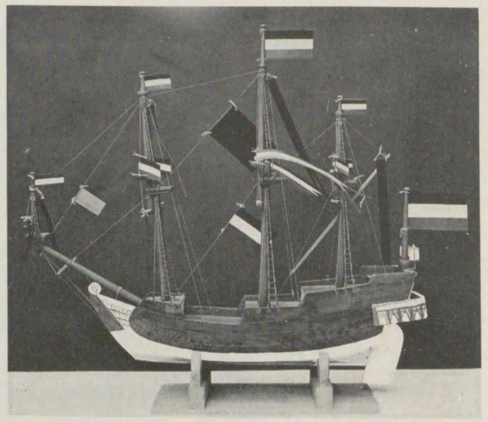
武秀才用力石　臺南　陳明沛氏藏

秀才夏禮服　臺南　林英心氏藏
式服用肩章　臺南　梁瑞圖氏藏

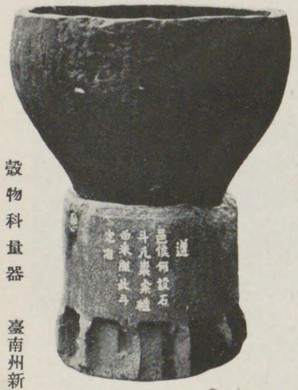
和闐陀更紗　臺南　桐右馬太氏藏



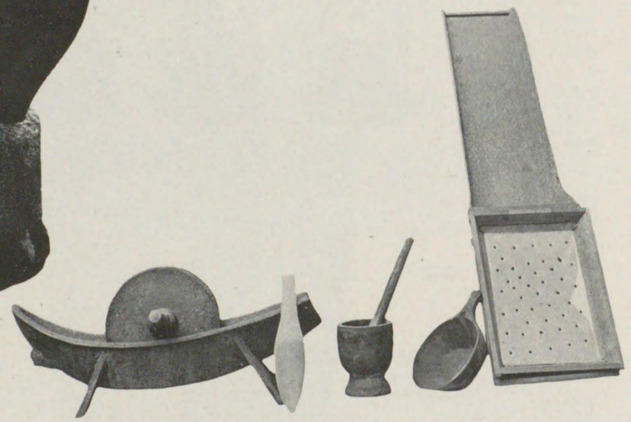
雲錦々地大小　臺南　林英心氏藏
同　臺南　陳明沛氏藏



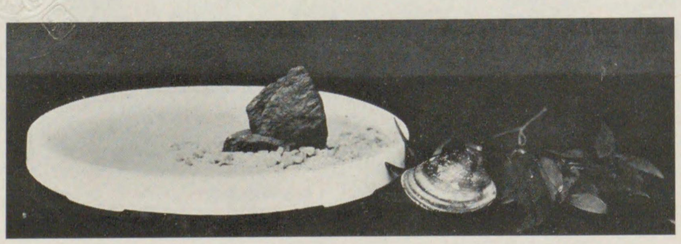
和蘭陀船模型　本會藏



穀物科量器　臺南州新營郡役所藏

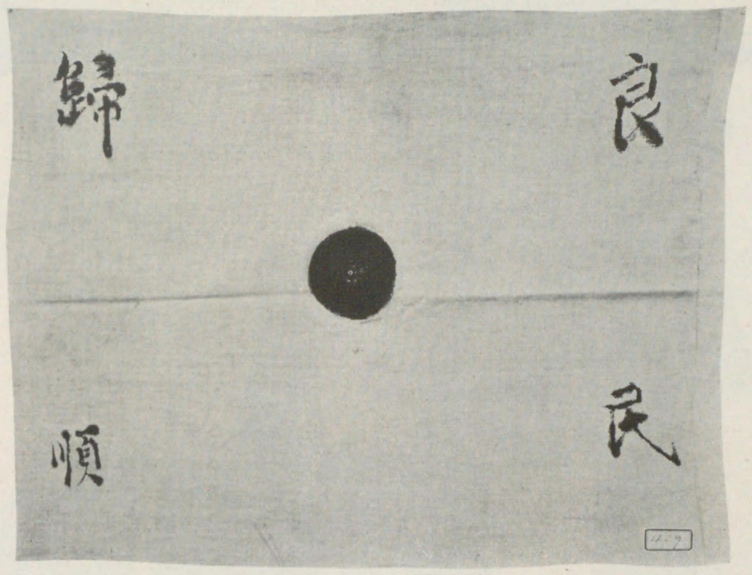


鑛業用搗鑛器及選鑛

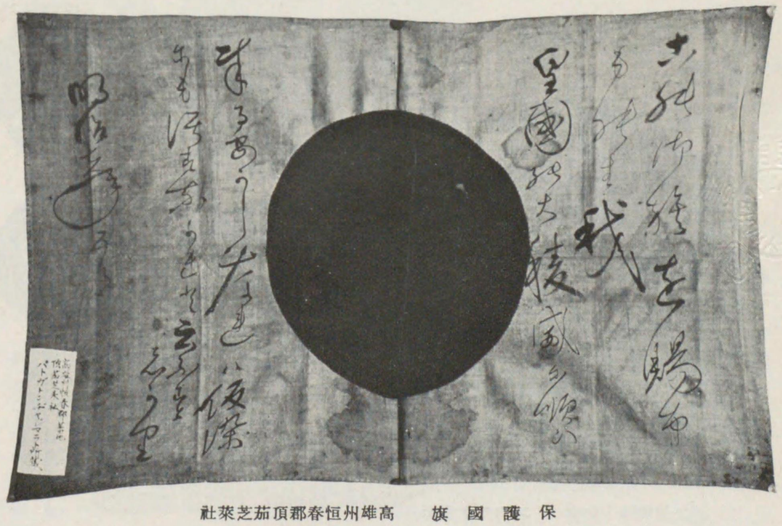


「樹柏竹」「蛤の濱里千」「石誕兒」

臺北　稻垣孫兵衛氏藏



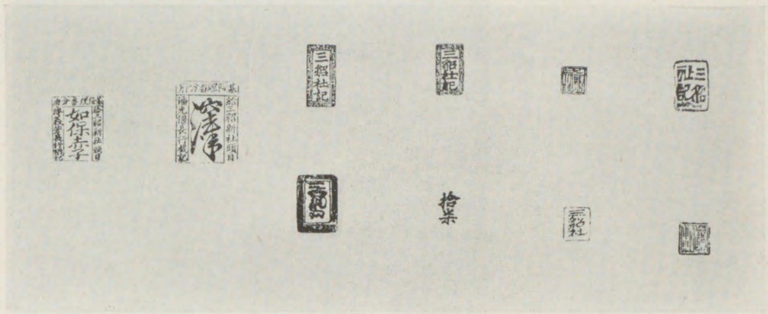
歸順良民旗　臺南　村上玉吉氏藏



保護國旗　高雄州恒春郡頂茄芝茶社
頭目バトガトンジャジマラツト氏藏

臺陽鑛業株式會社藏　基隆

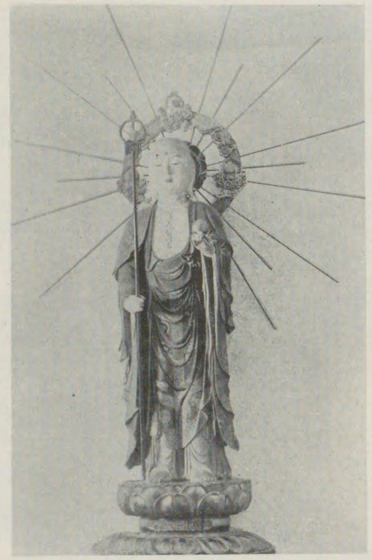
藏氏郎八武里大　中臺　　像彫木飾首船



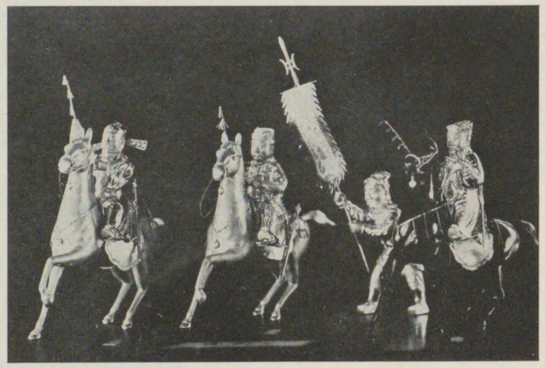
藏氏眞秀崎尾　北臺　　判印の目頭蕃埔平

藏氏仙樵西　北臺　　印　糸　崎　長

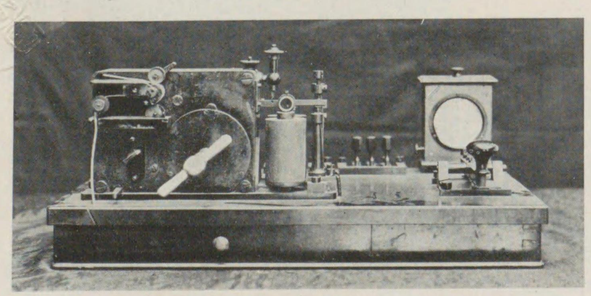
藏氏太馬右桐　南臺　　印　糸　平　安



北白川宮殿下地藏尊（寫眞）　臺北淨土宗別院藏



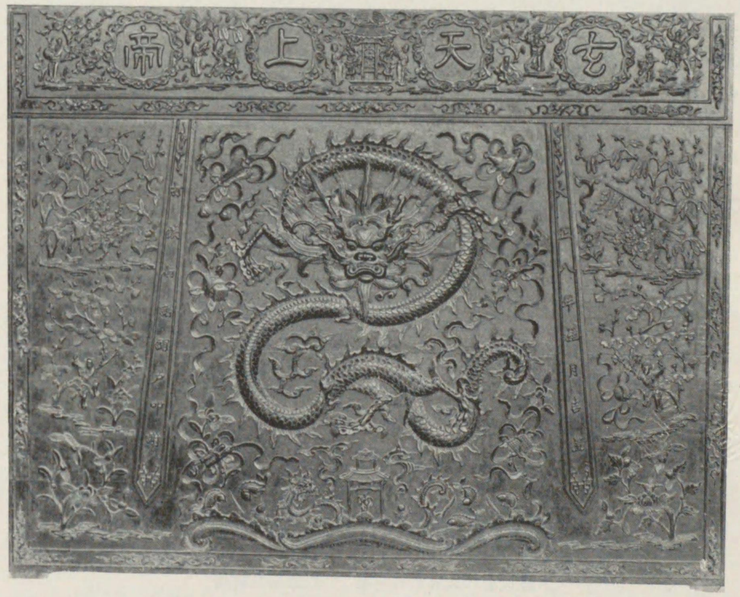
國姓爺征臺上陸銀像　臺南州斗六街　方姿氏藏



クリード自働電信機　臺灣總督府交通局藏

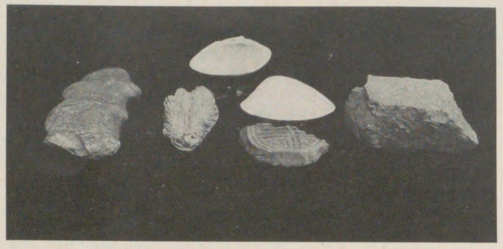
臺南　佐々木紀綱氏藏

嘉義交趾燒



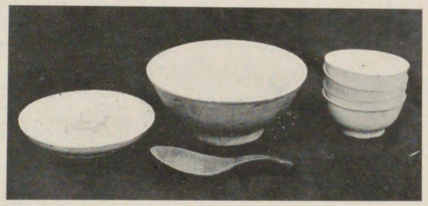
臺南　北極殿藏

瑞寶埋木細工卓

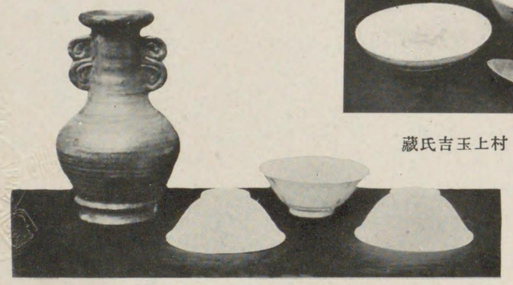


書石文」「蛤の塚貝」「瓦煉古の墓王靖寧」
「石化の竹」「貝石化の溪文曾」「瓦古の院
藏氏吉玉上村　南臺

藏寺經妙宗蓮日　南臺　品土出地墓發

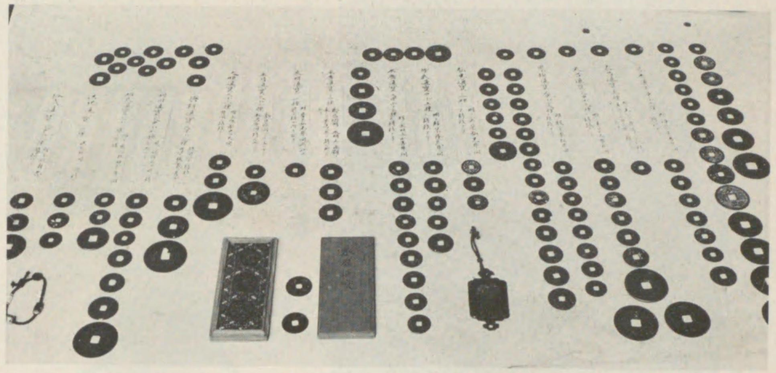


藏氏吉玉上村　南臺　器陶の船沒沈



藏氏涯津蔡　南臺　瓶花色青燒素
藏氏泉清林　南臺　碗茶土出

藏氏桃鄭　豆麻郡文曾州南臺　品土出



藏他其氏亟之金田楠　雄高

明朝古錢

股份票

臺南　張振樑氏藏

目次

一、書冊の部……1
洋書、和書、漢書、寫本、記錄等
二、文書の部……20
公用文書、私文書、文書斷片等
三、地圖、海圖の部……23
印刷圖、手寫圖、寫眞圖等
四、書の部……25
肉筆、印刷等
五、畫の部……29
繪畫、肖像畫、版畫等
六、拓本の部……33
石印、木版等
七、寫眞の部……42
人物、風景、建物等の寫眞及繪葉書等
八、陶磁器及硝子器の部……55
和漢洋陶磁器及ギヤマン類
九、器物の部……56
家具什器、文房具、衣服、布帛等
十、雜の部……61
武器、武具、模型、機械、印版、彫刻物、古錢、出土品等

書冊の部

アンバウ・ユアール臺灣誌
(Ile Formose, histoire, et description.)

著者　アンバウ・ユアール
(Imbault-Huart)

一冊　臺灣總督府圖書館藏

著者は佛人にして一八七八年飜譯官として支那に入り其後佛國領事として上海、漢口、廣東等に在勤すること多年、官務の傍意を支那研究に注ぎ本書の外多數の著述あり

發行所　巴里
發行年　一八九三年
解題　本書には臺灣の歴史及地誌を記述し多數の地圖及圖畫を挿みて之が説明を助く
支那書史の著者「コールダエ」(Cordier)は本書に於て其著者を紹介するの外臺灣に關する書史を本書に載せて讀者に便せり
本書は米國領事として臺灣に在留せる「ダビッヅソン」(Davidson)の舊藏書なり

和蘭治下の臺灣
(Formosa under the Dutch.)

著者　キャンベル
(Rev. William Campbell)

一冊　臺灣總督府圖書館藏

著者は英國人にして明治四年宣教師として臺灣に來り在留約五十年其間傳道に盡瘁せる傍屢所見を新聞雜誌に發表し或は著書を公にして臺灣を世界に紹介し併せて外人の妄を辨じ誤解を正し其功績大なるものありしを以て大正四年始政記念日に當り勳五等に叙し瑞寶章を授けらる其後二年老齢を以て故國に歸臥し一九二一年昇天す

發行所　倫敦
發行年　一九〇三年
解題　本書第一編は「フアレンタイン」の「新舊東印度諸國誌」より抄譯せるものに「カンヂヂウス」の「臺灣略説」を加へたるもの
第二編は著者自らの蒐集及「ゲローテ」の「和蘭傳道史料」中より譯出せるもの
第三編は C. E. S. の「等閑視せられたる臺灣」を譯し之に關する文書を掲載し附錄には西班牙人の追放外數章を載す
本書卷末に臺灣關係書目を揭ぐ

ダビッヅソン臺灣誌
(The Island of Formosa, past and present: history, people, resource s, and commercial prospects.)

著者　ダビッヅソン
(J.W. Davidson)

一冊　臺灣總督府圖書館藏

著者は臺灣に於て多年米國領事たりし人本書は其在職中の著述なり

發行年　一九〇三年
解題　本書は臺灣の歴史及産業を叙述し其現況を略説す著者は改隷以前より在留せしを以て當時の事情を記すること詳かなり
本書は臺灣文庫の舊藏にして同文庫主菅藤田嗣章氏逝別記念圖書の一なり

カンヂヂウス臺灣畧説
(A short account of the Island of Formosa.)

著者　カンヂヂウス
(Rev. G. Canidius)

一冊　臺灣總督府圖書館藏

著者は一六二七—三一、一六三三—三七の兩度約十箇年間在臺せる和蘭宣教師なり
一七四四年
カンヂヂウスの著せる臺灣略説は臺灣の土人の風俗、習慣、宗教等に關する歐人最初の記述にして一六四九年「フランフルト・アム・マイン」に於て出版せらる
(Frankfort am. main)

發行年
解題　陳列せる英譯は右に依りたるものにして一七四四年出版の「チヤールス航海叢書の一部ならん又本書の佛譯は「東印度商會關係航海記全集」に收錄せらる

アントニウス・ハンブルーク　一冊　臺灣總督府圖書舘藏

(Anthonius Hanbroek, of de belegering van Formosa, treurspel.)

著者　ノムス
(Nomsz)
發行所　アムステルダム
(Amsterdam)
發行年　一七七五年
解題　本書は「ゼーランヂャ城が國姓爺に攻圍せられたる際和蘭宣敎師「ハンブルーク」の示せる崇高なる行動を「ノムス」が脚色して出版せるものなり

等閑視せられたる臺灣　一冊　臺灣總督府圖書舘藏

('t verwaerloosde Formosa.)

著者　コエット
(C. E. S. — Coyett. Et. Socii)
發行所　アムステルダム
發行年　一六七五年
解題　本書は蘭領時代に於ける臺灣の實情を詳述し國姓爺との交渉に失敗し遂に蘭人の退去を餘儀なくせしめたる顚末を記載したるものにして扉繪の外七枚の挿繪あり又本書の著者名 C. E. S. とあるは Coyett. Et. Socii の畧字にして執筆者は最後の和蘭領事「コエット」ならんと云はる

サルマナツツアル臺灣誌　一冊　臺灣總督府圖書舘藏

(An Historical and Geographical Description of Formosa.)

著者　サルマナツツアル
(Psalmanazar)
著者は「文壇の僞り者」として有名なる自稱日本人なり
發行所　倫敦
發行年　一七〇四年
解題　著者が其生ひ立及經驗談を「ラテン語」にて記したるを「オスワルド」之チ英譯し一七〇四年倫敦にて出版せるものなり其内容の大部分は荒唐無稽なるに拘らず翌年之が再版を見更に又獨譯、佛譯も出づるに至れり
陳列せる三種の内
(イ)は一七〇五年倫敦出版の再版もの
(ロ)は一七六四年倫敦出版のもの
(ハ)は一七〇八年「アムステルダム」出版の佛譯もの

和蘭傳道史料（臺灣編）　一冊　臺灣總督府圖書舘藏

(Archief voor de Geschiedenis der Oude Hollandsche Zending. Vols. 3 and 4.)

著者　グローテ
(L. A. Grothe)
發行所　ウトレヒト
發行年　一八八六年—一八八七年
解題　本書は Grothe の編纂にかゝる一八八六年ウトレヒト發行の第三卷及翌年發行の第四卷を合本したるものにして一六二八年より一六六一年に至る間の臺灣に於ける和蘭人の布敎に關する史料を集錄す
本書は Campbell の舊藏にして同師が之を英譯出版せんとしたる計畫は書中に遺れる筆蹟により窺知せらる

臺灣布敎の成功　三冊　臺灣總督府圖書舘藏

(An account of missionary success in Formosa.)

著者　キャンベル
(Rev. William Campbell)
發行所　倫敦
發行年　一八八九年
解題　キャンベルが一六五〇年倫敦に於て出版せる「臺南布敎の成功」卽ち「シベリウス」の著述にして「エツセイ」の飜譯せる「ユニウスの力に依る臺灣島内東印度人五千九百名の改宗」を復刻し之に同師の臺灣近什三十章を附し一八八九年倫敦に於て出版したるもの

ファボラン蕃語 和蘭、英語對譯 基督敎義書　a　一冊　臺灣總督府圖書舘藏

(The articles of Christian instruction in Favorlang-Formosan, Dutch and English.)

著者　キャンベル
(Rev. William Campbell)
發行所　倫敦
發行年　一八九六年
解題　本書はファボラン社の敎化に當りし和蘭宣敎師「フエルクレフト」が一六五〇年編纂の「ファボラン」和蘭對譯の稿本に「キャンベル」更に英語を加へ「サルマナツツアル」の日臺人對話及「ハツパルト」のフアンボラン語彙を附錄とせるもの

ファボラン蘭語字典　一冊　臺灣總督府圖書舘藏

(Woord-boek der Favorlangsche taal.)

著者　ハツパルト
(Rev. G. Happart)
發行所　バタヴイヤ
發行年　一八四二年
解題　本書はもと一六五〇年和蘭宣敎師「ハツパルト」が臺灣に於て編纂したるものにして後に至り「フーフエル」が其稿本を「バタヴイヤ」の敎會書庫に發見し一八四二年之を印刷したるもの

馬太福音傳全書（臺灣蕃話新港腔）　一冊　臺灣總督府圖書舘藏

(The gospel of St. Mathew in Sinkang-Formosan.)

著者　キャンベル
(Rev. William Campbell)
發行所　倫敦
發行年　一八八八年
解題　本書は一六六一年在臺の和蘭宣敎師「グラヴイウス」(倪但理) が和蘭語と新港蕃語とを以て對譯出版したるものに「キャムベル」が更に英語を加へたるもの

マツカイ臺灣事情　一冊　臺灣總督府圖書舘藏

(From far Formosa: the island, its people and missions)

著者　マツカイ
(Rev. Dr. D. L. Mackay.)
著者は明治四年「カナダ」の「プレスビテリアン」派の宣敎師として臺灣に來り翌年淡水に上陸し爾來同地を根據として本島人及蕃人間に布敎し一方男女傳道者の養成竝に醫療事業に力を注ぎ在留二十三年、明治二十六年一旦歸國せしも二十八年再び來臺し明治三十四年淡水に於て昇天す
發行所　紐育
發行年　一八九六年
解題　本書は著者が歸國中稿本を「マグドナルド」に託して編纂せしめ一八九五年(明治二十八年)紐育に於て出版せる「遠き臺灣より」の再版なり
明治三十年松島剛、佐藤宏共編の臺灣事情は大體本書を譯したるものなり

レヒテレン東印度紀行　一冊　臺灣總督府圖書舘藏

(Journael ghehouden op de Reyse ende Wederkomste van Oost Jndien.)

著者　レヒテレン
(Zeyger van Rechteren)
發行所　アムステルダム
發行年　一六四六年
解題　本書は一六二八年より一六三二年に至る著者の紀行にして書中臺灣に關する記事を收め「ゼーランヂャ城」の圖を附す
本書は「スクラム」提督の東印度紀行と合綴せらる或は一六四六年アムステルダム發行「コムメリン」編纂の「和蘭東印度商會の起原及發達」の第二卷ならんか

マンデスロー波斯東印度旅行記　一冊　臺灣總督府圖書舘藏

(Voyages celebres. et remarquables, faits de Perse aux Jndes orientales.)

著者　マンデスロー
(De Mandelslo)
著者は一六三六年ホルスタイン公差遣の使節に伴はれて波斯に入り一六三八年之と別れ東印度各地を巡歷せり
發行所　ライデ
發行年　一七一九年

解　題　本書は著者が波斯東印度各地を巡歴せる際の紀行にして「ウイツフォル」之を佛譯し一七一九年「ライデ」にて出版したるもの
書中第二卷に日本臺灣（五二九―五四九頁）及支那の記事を載せ又臺灣及支那の圖を挿入せり

ボルト支那及臺灣沿岸航海記　一　册　臺灣總督府圖書館藏

著　者　ボルト
著者は一六六二年より一六六四年迄「コンスタンチン・ノーブル」の使者として福建に派遣せられたる和蘭人
發行所　アムステルダム
發行年　一六七〇年
解　題　著者がコンスタンチン・ノーブルの使者として福建に派遣されたる時の紀行にしてこれを「クラーメル」が韻文とせるものなり
本書今三五、三六、四五、四六の四頁及挿繪二枚を缺く
本書に基隆、澎湖本島、厦門の圖及金門攻撃、海戰等の圖を掲ぐ

ヘルボルト東印度畧説　一　册　臺灣總督府圖書館藏
(Eine kurze Oost-indianische Reiss-Beschreibung.)
著　者　ヘルボルト
(Herport van Bern.)
發行所　ベルン
發行年　一六六九年
解　題　本書中「フォルモサ及タイワン」に關する記述と題し七十二頁に亘りて之を詳述し「ゼーランヂヤ」城及同城攻撃の圖を掲ぐ

ヘルボルト東印度旅行記　一　册　臺灣總督府圖書館藏
(De beschryving der Oost-inlische reizen.)
著　者　ヘルボルト
(Herport van Bern.)
發行所　アムステルダム
發行年　一六七〇年
解　題　本書中臺灣に於ける蘭人及其の驅逐並に國姓爺に關する記事を載す

フアレンタイン新舊印度諸國誌　二　册　臺灣總督府圖書館藏
(Oud en Nieuw Oost-Indien.)
著　者　ファレンタイン
F. Valentyn.)
著者は和蘭人にして兩度通じて十二年間布教のため「アンボイナ」等に在留せり
發行所　アムステルダム
發行年　一七二四年―一七二七年
解　題　本書第四卷下册には臺灣誌、第五卷下册には日本誌を收む臺灣誌には濱田彌兵衛「ゼーランヂヤ」城に於て和蘭領事「ヌイツ」を捕へ死を宣告する圖其他二圖挿入せり

增補航海旅行記全集　二　册　臺灣總督府圖書館藏
(Navigantium atque itinerantium bibliotheca.)
著　者　ハリス
(J. Harris)
著者は神學及科學の大家として知られ一六九六年王立科學協會員に列せらる
發行所　倫　敦
發行年　一七四四年―一七四八年
解　題　本書全二册は一七〇五年「ハリス」が英、羅、佛、伊、西、蘭、蘭等歐洲諸國語を以て記述せる六百の原著を集成し東西兩大陸各地の事情を詳記出版したる航海旅行全集に其後四十年間に於ける各地實業發達の狀況其他の記事を增補し倫敦の十五書肆が共同出版したるものなり
臺灣に關する記事は第一册和蘭東印度商會及第二册支那の部に記載せられたるものゝ外各所に散見せらる

ベニオウスキー自傳と紀行　二　册　臺灣總督府圖書館藏
(Memoirs and travels.)
著　者　ベニオウスキー
(Count de Benyowsky)
著者はハンガリーの貴族にして七年戰役に從ひ又ポーランドの對露同盟に參加し捕へられカムチャツカに流されしが同四二十八名と共に露西亞の一巡洋艦を奪取し一七七一年南下して日本の近海を經同年八月臺灣の東岸に著き上陸して探險を試み臺灣拓殖の計畫を樹て一七七二年佛蘭西に歸著してより佛國或は英國に對し其計畫を示して拓殖の献策をなしたるも用ひられず後佛國のため「マダガスカル」植民地の建設をなせしも成功を見ずして死せり
發行所　倫　敦
發行年　一七九〇年
解　題　本書は著者が自傳を述べ併せて紀行を記したるものを英譯したるものなり
臺灣に關する記事は第二卷二五―七〇頁にあり

マルチニ支那地圖　一　册　臺灣總督府圖書館藏
(Novus atlas Sinensis.)
著　者　マルチニ
(M. Martini)
著者は伊太利の人にして耶蘇會の宣教師として十七世紀に支那に在留し歸國後本書及其他の著あり
發行所　アムステルダム
發行年　一六五五年頃
解　題　本書はアムステルダムの「ブロー」書肆出版に係る輿地圖第六卷なり
本書には支那の外日本に關する記事をも收め地圖を挿入す臺灣に關する記事は福建の内一三〇―一三一頁に掲げ地圖は卷頭の總輿圖及一二〇頁福建圖の内に見らる

モンタヌス支那事情　一　册　臺灣總督府圖書館藏
(Atlas Chinensis.)
著　者　モンタヌス
(A. Montanus.)
發行所　倫　敦
發行年　一六七一年
解　題　本書はモンタヌスが一六六九年アムステルダムに於て出版せる原書をオギルビーの之を英譯し更に多數の挿畫を加へ倫敦に於て出版したるものなり
本書は支那の事情を叙述せる外國姓爺對蘭清兩國の交渉顚末を詳述す
臺灣の風土に關する記載は三九頁以下にあり三八―三九頁のゼーランヂヤの圖は類中最も詳密なるものなり

ヅー・ハルド支那誌　四　册　臺灣總督府圖書館藏
(Description de L' Empire de La Chine.)
著　者　ヅー・ハルド
(J. B. Du Halde)
著者は巴里の人にして耶蘇會に在りて海外布教に關する事務に當り本書の外に異國傳道書翰集の著あり
發行所　巴　里
發行年　一七三五年
解　題　本書は當時支那に關する詳細精密なる第一著述と稱せらる
臺灣に關する記事は一六一―一七二頁にあり又地圖につきては一五二―一五三頁の福建省圖及卷頭の支那全圖を見よ

カロン日本帝國誌　一　册　臺灣總督府圖書館藏
(Wahrhaftige Beschreibungen Zweyer machtigen Königreiche Jappan und Siam.)
著　者　カロン
(Francois Caron.)
著者は和蘭人にして日本平戸商館に在りし者なり
發行所　ニユールンベルヒ
發行年　一六六三年
解　題　著者は一六四八年アムステルダムに於てこの原書を出版せしが本書は其獨譯に「ショーテン」の「シヤム國誌」を加へて出版したるものなり
本書「日本帝國誌の末尾に「ゼーランヂヤ」開城の顚末を記し臺灣及同城の圖を掲ぐ
本書は元英公使サトー氏の舊藏たり

日支開港場案内　一冊　臺灣總督府圖書館藏
『メーヤース』等の叙述を『デンニース』の編纂し一八六七年（慶應三年）香港に於て發行したるもの本書臺灣府の章に『ゼーランヂヤ』城に關する記事を載せ遺跡の見取圖を掲ぐ

新港語蘭英語對譯馬太傳　一冊　臺北帝國大學藏

新港語集　一冊　臺北帝國大學藏
一八四二年刊行

蠻語聖典集　一冊　臺南長老教中學校藏
（The articles in Formosa）
著者　故ウイリアムキヤムベル
（Rev. William campbell）
發行所　倫敦
發行年　一八九六年
解題　蘭人宣教當時宣教師ヴアートレヒトの手に或る信仰問答書祈禱書のローマ字蠻語に蘭英對譯を附し聖書の蠻語譯を數篇錄し又當時の宗教問題を日臺人の會話せる形にして記し最後に蠻語の語彙集を收錄せり

臺灣　一冊　臺南長老教中學校藏
（The island of Formosa）
著者　ヂエイムズダヴイドソン
（J. W. Davidson.）
發行所　倫敦
發行年　一九〇三年
解題　蘭領以前より此書出版當時迄の臺灣の歷史を討究しその殖産工業に迄言及し紹介す

和蘭治下の臺灣　一冊　臺南長老教中學校藏
（Formosa under the Dutch.）
著者　故ウイリアムキヤムベル（英國長老教會宣教師）
（Rev. William Campbell）
發行所　倫敦
發行年　一九〇三年
解題　蘭領當時の臺灣を概說し蘭人宣教師の書簡を錄し統治の狀況を詳述し鄭成功の占領にて終結す

臺灣府城教會報　第一本　臺南長老教中學校藏
（Tâi-oân-hú-sia" Kàu-hoē-pò. Tē it pún）
發行所　長老教臺南出版部
發行年　一八八五年
解題　現今の教會報と異る所なし
但し該品は東洋に於ける最古の教會報ならん

臺灣布教の成功　上、下、二冊　臺南長老教中學校藏
（Missionary success in Formosa.）
著者　故ウイリアム・キヤムベル
（Rev. William Campbell）
發行年　一八八九年
解題　蘭領時代より基督教宣教師の布教殉教並にその貢績を或は書簡に依り或は記錄に依り詳述す

鄭將軍成功傳碑　刊本一冊　臺灣總督府圖書館藏
此の碑文は當時平戶藩の儒臣たりし朝川善庵が藩公松浦乾齋公の旨を承けて草せしものなり　今附錄として善庵隨筆に收む現存せる碑文は善庵の歿後葉山鎧軒の改作せしものに係る

臺灣割據誌　一冊　臺灣總督府圖書館藏
本書は水戶公の命を承け彰考館總裁川口長孺の纂修に係り明天啓元年より清の雍正元年に至る凡そ一百有三年に亘る鄭氏並に臺灣治亂盛衰を錄せしものなり

國姓爺合戰　（丸本）十一行本一冊　臺灣總督府圖書館藏
近松門左衞門作本編が初めて竹本座に上演せられしは正德五年十一月にして今より二百十五年前乃ち鄭成功の歿後四十四年に當れり

萬國新話　（初編）刊本卷首共五冊　臺灣總督府圖書館藏
森島中良の編輯にして寛政元年の出版亞細亞洲の雜說奇聞を載す內

臺灣關係の二章『裏に居る者歌舞する圖說』『濱田兄弟智勇の事并圖はフアレンタインに據る

鄭成功　全一冊　臺北　稻垣孫兵衞氏藏
稻垣其外の著にして昭和四年一月三日臺灣經世新報社の發行に係る

鄭成功　活字本　臺北　稻垣其外氏藏
宮崎來城の著書にして明治三十六年十月の發行に係る

鄭成功　活字本　臺北　稻垣其外氏藏
丸山正彥の著書にして明治二十八年十一月の發行に係る
著者は平戶の人なり

明清軍談　活字本　臺北　稻垣其外氏藏
秋雨仙史の著書にして明治十九年發行鄭氏時代より朱一貴の亂に及ぶ

臺灣陣　活字本　臺北　稻垣其外氏藏
加藤紫芳の著書にして臺灣鄭氏三代に涉る

臺灣誌　活字本　臺北　稻垣其外氏藏
足立栗園の著書にして領臺以前の地理、歷史を叙す

臺灣島史　活字本　臺北　稻垣其外氏藏
獨人リース原著吉岡藤吉譯述にして明治三十一年の發行に係る

臺灣紀要　活字本　臺北　稻垣其外氏藏
村上玉吉の著書にして明治三十二年二月東京警眼社の發行に係る

臺灣事情一班　活字本　臺北　稻垣其外氏藏
土屋重雄の編にして明治三十一年七月臺灣事務局の出版に係る

臺灣史料　活字本　臺北　稻垣其外氏藏
江馬逢三郎の著書にして明治二十八年十二月其の第一編を發行せしもの

日臺の連鎖　活字本　臺北　稻垣其外氏藏
伊能梅陰の著書にして大正七年六月の發行なり

臺灣事情　活字本　臺北　稻垣其外氏藏
松島剛、佐藤宏の共著にして明治三十年二月の發行に係る

臺灣統治誌　活字本　臺北　稻垣其外氏藏
竹越與三郎の著書にして明治三十八年九月の發行に係る

國姓爺後日物語
附　紅涙史　活字本　臺北　稻垣其外氏藏
鹿島櫻巷、鷹取岳陽の共著にして大正三年一月愛國婦人會臺灣支部より發行せしものに係る

臺灣諸島誌　活字本　臺北　稻垣其外氏藏
小川琢治の著書にして明治二十九年二月地學協會の發行なり

明清闘記　和書全十二冊　臺北　稻垣其外氏藏
前園仁左衞門の著書にして發行年月不明なるも寛文元年の序文あり記事も鄭成功が臺灣に入りし處にて筆を止めたれば當時のものに疑ひなし我邦に於ける鄭氏に關する著書の最初のものならん

海外異聞　和書　全一冊　臺北　稻垣其外氏藏
齋藤拙堂の著書にして山田長政、濱田彌兵衞、鄭成功三人の傳記なり嘉永三年の刊行

國姓爺合戰　和書　全二冊　臺北　稻垣其外氏藏
正德五年近松門左衞門作の淨瑠璃丸本にして大坂竹本座に上演し三年間打續けたりと云ふ

臺灣鄭氏記事　和書　全三冊　臺北　稻垣其外氏藏
川口長孺の著書にして水戸藩藏版文政十一年の發刊に係る

臺灣軍談　和書　全五冊　臺北　稻垣其外氏藏
著書萍水敬人とあるも何人なるや不明なり序文に享保癸卯とあるは享保八年に當る太田南畝の半日閑話に依れば靖臺實錄に據れる由なり

滿清史略　和書　全二冊　臺北　稻垣其外氏藏
增田貫の著書にして明治十三年の出版なり

蕃地所屬論　和書　全二冊　臺北　稻垣其外氏藏
本多政辰の編にして明治七年征臺役に就ての論著なり

臺灣事略　和書　全二冊　臺北　稻垣其外氏藏
東條保の編にして明治七年牡丹社蕃討伐に就ての著述なり

華夷通商考　和書　全五冊　臺北　稻垣其外氏藏
西川如見の著書にして寶永五年の發刊に係る

長崎夜話草　和書　全五冊　臺北　稻垣其外氏藏
西川如見の著書にして享保五年の發刊に係る

紅毛雜話　和書　全五冊　臺北　稻垣其外氏藏
桂川中良の著書にして天明七年の刊行に係る

澎湖島史　手記　全一冊　臺北　稻垣其外氏藏
明治二十九年臺南守備隊より澎湖守備歩兵第五聯隊第三大隊に派遣されし姓不詳春雄と云ふ兵士の自著自書に係る

鄭成功傳　漢書　全二冊　臺北　稻垣其外氏藏
清國には刊本なきも大坂の蒙霞堂が明和八年刊本せしものなり

長崎南蠻唐紅毛史蹟　二冊　臺北　稻垣孫兵衛氏藏
長崎史蹟探究會の編纂に係り長崎自身の有つ對外關係史蹟と和蘭、支那及び西班牙の史料とを蒐錄したるものにして第一輯は昭和二年第二輯は同四年發行したるものなり

開國文化大觀　一冊　臺北　稻垣孫兵衛氏藏
昭和四年大阪朝日新聞創刊五十年記念として主催せし開國文化展覽會の出品中其の重なるものを蒐輯したる寫眞帖なり

開國文化史料大觀　一冊　臺北　稻垣孫兵衛氏藏
大阪朝日新聞主催開國文化展覽會の出品目錄にして開國文化大觀と共に同社の記念出版なり

鄭氏關係寫眞帖　二冊　臺北　稻垣孫兵衛氏藏
稻垣其外氏其著「鄭成功」を編輯するに當り凡そ鄭氏に關係ある寫眞數十葉を蒐集し之れを同書の挿畫に供し更に其原畫を二冊の寫眞帖に製し自家の記念とせしものなり

鄭成功小帖　一冊　臺北　稻垣其外氏藏
故田川辰一郎氏所藏法帖の寫眞なり

臺灣大年表　全一冊　臺北　稻垣孫兵衛氏藏
臺灣經世新報社發行
領臺より大正十四年六月十七日まで三十年間の年表にして領臺前を附錄とす

北白川宮　一冊　臺南　石陽睢氏藏
明治三十六年發行龜谷天尊、渡部星峰の合著にして故宮殿下の御一代を記述したるものなり

臺灣開創鄭成功　全一冊　臺南　石陽睢氏藏
明治二十八年發行丸山正彥の編述に係る

鄭成功廟誌　一冊　臺南　陳明沛氏藏
大正四年四月縣社開山神社改築落成に際し臺南廳の記念出版にして廳屬山田孝使の編纂する處に係る

生蕃討伐寫眞帖　一冊　臺南　陳明沛氏藏
佐久間總督の討蕃五年計畫終了當時記念の爲め出版せし寫眞帖なり

北臺灣の古碑　一冊　臺南圖書館藏
石坂莊作の編著にして大正十二年四月臺北に於て發行したる和書なり
サーベント等の記念彫刻　基隆仙洞々內にあり（西曆一八六六年）
パーク等の記念彫刻　基隆仙洞々內にあり（西曆一八六〇年）
關字洞　基隆社寮島巖洞內に彫刻（西曆一八一七年、一八七一年、一八七三年、一六六四年、一六六七年、一六六八年、一七六六年、一八七七年、一八八四年等）
北蕃有史以前の遺物　石鎗、石斧、石刀、礪石、石矢
圓山の大砥石　圓山臨濟寺內に在り
等々有益なる好古學の參考資料を記載す

臺灣通史　一冊　臺南圖書館藏
武內貞義の編著にして昭和二年十一月臺北に於て發行したるものに係る

臺灣通史　三冊　臺南圖書館藏
連雅堂の著書にして上中下三卷より成り大正十年四月臺北に於て發行し全篇漢文なり

臺灣名勝舊蹟誌　一冊　臺南圖書館藏
杉山靖憲の編著にして大正五年四月東京に於て發行したるものなり

長崎縣史料　一冊　臺北　西樵仙氏藏
明治四十四年長崎縣にて史料を蒐集して展覽會を開きたる時の出品目錄にして中に臺灣關係の史料少なからず殊に長崎皓臺寺に所藏せる鄭成功の遺墨寫眞あり參考に資すべし

長崎美術大觀　一冊　臺北　西樵仙氏藏
長崎及び對外史料中美術に關するものを蒐集して一冊の寫眞畫帖を作り出版したるもの蓋し明治四十五年開催の長崎史料展覽會の副產物ならん

北白川宮御遺跡寫眞帖　一冊　臺南神社藏
臺灣製督府にて編輯されたる北白川宮殿下御遺跡の寫眞帖にして目次左の如し

明治二十八年　五月卅一日　澳底　御露營
同　六月　一日　頂雙溪鍛冶何慶方御宿營
同　六月　二日　瑞芳舊砂金局　同
同　六月　三日　基隆舊統領營　同
同　六月四日より六日間　基隆舊海關　同
同　六月十日　水返脚蘇樹森方　同
同　六月十一日より四十八日間　臺北舊布政使署　同
同　七月二十九日　桃仔園蔡路方　同
同　七月三十日　中壢仁海宮　同
同　八月三十一日より八日間　新竹爽吟閣　同
同　八月八日　中港陳汝厚方　同
同　八月九日より四日間　後壠盧錦山方　同
同　八月十三日より九日間　苗栗將軍山　同
同　八月十四日　通霄楊江文方　同
同　八月二十二日　大甲文昌廟　同
同　八月二十三日より二日間　牛罵頭蔡仁鄉方　同
同　八月二十五日　大肚磺溪書院　同
同　八月二十六日　崁仔脚　御露營
同　八月二十七日　彰化舊知府　御宿營
同　八月二十八日より三十六日間　南港西庄陳有光方　同
同　十月三日より三日間　北斗許丁錦方　同
同　十月　六日　莉桐巷林本方　同
同　十月　七日　打猫劉秋方　同
同　十月　八日　嘉義北門外舊中軍營　同
同　十月九日より九日間　安溪寮王大高方　同
同　十月十八日　果毅後張朝陽方　同
同　十月十九日

同　　十月二十日　灣裡林匏方　御宿營
同　　十月二十一日　大目降鐘鏡清方　同
同　　十月二十二日　臺南安海街張桂芬方同
同　　十月二十三日　臺南莊雅橋吳汝祥方同

南部臺灣之教育　一冊　臺南　胡丙申氏藏

澎湖を古今に涉りて　一冊　澎湖廳藏
大正十四年四月澎湖三十周年招魂大祭擧行の際時の廳長杉山靖憲が記念出版として編著せしものなり

澎湖事情　一冊　澎湖廳藏
澎湖案內記として同廳の編述したるものに係る

臺灣土產寫眞帖　一冊　臺南　村上玉吉氏藏
明治三十四年臺北に於て發行せし臺灣に於ける最初の寫眞帖にして書中今は撮影禁止となり居れる基隆、澎湖等の全景寫眞挿入しあるを珍とすべく卷尾に村上玉吉編「臺灣說略」なる附錄あり

南部臺灣　一冊　臺南　村上玉吉氏藏
明治四十四年一月臺南、嘉義、阿緱三廳合併の南部物產共進會開催の際村上玉吉が同協賛會の依囑に應じ編纂したる三廳下の案內記なり

臺灣全誌　八冊　臺南　村上玉吉氏藏
臺灣經世新報社發行
臺灣府誌其他本島の官撰邑誌計八部を飜刻したるものなり

臺南縣誌　四冊　臺南　富地近思氏藏
甫め明治三十年乃木總督時代の行政區劃たる臺南縣卽ち淸政府時代の安平縣區域內の沿革及び制度の部三冊を著し更に三十一年兒玉總督の制度改正に伴ひ臺南縣の管轄濁水溪以南全帶に擴大せらるゝや追加として沿革の部一冊を出版したるが其後二年を出ずして全島を二十廳に細分せられし爲め爰に縣誌の編纂を打切り端本として存置するに至れるものなり

長崎縣史料　一冊　臺北　驪塚勝之氏藏
明治四十四年五月長崎縣廳舍新築落成を記念する爲め物產、衞生の各展覽會と共に長崎縣主催史料展覽會を開會せし際の總目錄なり

澳底御上陸事蹟　一冊　臺北州基隆郡貢寮庄役場藏
日淸戰役に於ける北白川宮殿下澳底御上陸の事蹟を詳細に記述せしものなり

鄭成功傳　刊本　臺灣總督府圖書館藏
著者黃宗羲は略鄭氏と時を同くし明の亡びんとするや義兵を率ひて轉戰し明の滅亡後は故山に歸り專ら著述に從へり嘗て明軍の使として我長崎に來り援兵を乞ひし事あり本書の外尙ほ數種の鄭氏關係の著作あり

賜姓始末　刊本　一冊　臺灣總督府圖書館藏
黃宗羲の著に係り編年體とし鄭氏の事歷を簡略直截に叙す亦貴重なる資料に屬す

東南紀事　刊本全十二卷二冊　臺灣總督府圖書館藏
本書は明末に於ける唐王聿鍵以下五十四名の事蹟を筆錄せるもの一、二卷に亘り鄭芝龍並に成功の詳傳を收む著者は浙江省餘姚の人邵廷采なり

閩海紀要　刊本　一冊　臺灣總督府圖書館藏
本書は隆武元年より永曆三十七年に至る凡そ三十八年間鄭氏三代の事蹟を編年體に記せしもの泉南夏淋の著連雅堂の校刊に係る

小腆紀傳　刊本全六十五卷　臺灣總督府圖書館藏
本紀七卷列傳五十八卷より成る著者徐才鼎は江蘇省六合縣の人にして道光の進士なり書中鄭氏其他臺灣關係の記事多し本書は光緒十三年の刊行にして承禮の補遺を附せり

福建通誌　刊本全六十四卷　臺灣總督府圖書館藏
福建省に於ける通誌の纂修は康熙以後同治に至る迄前後四回に及べ

るが本書はその第一回乃ち淸國の領臺直後康熙二十三年の編纂に係り福建巡撫金鐵等の監修する處にして卷首には特に臺灣府三縣圖を載せ又各類に臺灣府の項を加へ記載する處ありて實に官撰誌に臺灣を記する最初のものに屬す

重修臺灣府誌　刊本全二十五卷　臺灣總督府圖書館藏
本書は乾隆十二年（延享四年）の刊本にして巡臺御史六十七及同范咸の共修に係る傳本甚だ稀にして今容易に見る能ざる貴重資料なり

續修臺灣府誌　刊本全二十六卷　臺灣總督府圖書館藏
臺灣府知府余文儀の主修に係り乾隆二十九年（明和元年）初刊次で同治十一年楊承藩之を補刻し光緒十四年李鴻銘更に之を監刻せり後明治三十二年新に刻板の足らざるものを補ひ總督府刊行せり本書は其の同治十一年楊承藩の補刻本なり

各地採訪冊　寫本　臺灣總督府圖書館藏

新竹縣採訪冊	寫本	全六冊
雲林採訪冊	同	全五冊
嘉義管內採訪冊	同	全一冊
鳳山採訪冊	同	全六冊

重修臺灣縣誌　刊本　全十五卷　臺灣總督府圖書館藏
本書は乾隆十七年（寶曆二年）臺灣縣知縣魯鼎の纂修に係るもの傳本甚だ少く又稀觀の一史料なるが同館出品本は最後の二卷を缺く

續修臺灣縣誌　刊本　全八卷　臺灣總督府圖書館藏
本書の初刊は嘉慶十二年（文化四年）にして知縣薛志亮總裁となり謝金鑾及鄭兼才の編纂せるものなるが後道光元年鄭兼才は之に增補改刪を加へ大に面目を改めて再刊其後道光三十年に及び臺灣縣敎諭薛錫熊は黃生應と共に之が校讐をなし資を捐して刊刻せり本書はその嘉慶十二年の初刊本なり

重修鳳山縣誌　刊本　全十二卷　臺灣總督府圖書館藏
乾隆二十九年（明和元年）鳳山縣知縣王瑛曾の重修せるもの康熙五十八年版の初修鳳山縣誌は既に散佚して見る能ざるものに屬し臺灣に於ける唯一の稀觀資料たり

彰化縣誌　刊本　全十二卷　臺灣總督府圖書館藏
主として前彰化縣知縣周鍾瑄の纂修に係る錄する處置縣の草創より道光十五、六年の事に及べり

淡水廳誌　刊本　全十六卷　臺灣總督府圖書館藏
本書は同治十年（明治四年）の刊本にして淡水同知陳培桂の纂修に係るもの翌十一年に成りし林豪の淡水廳誌訂譌は本書と併せ見るべき一誌料なり

噶瑪蘭廳誌　刊本　全八卷　臺灣總督府圖書館藏
噶瑪蘭は今の宜蘭の舊名本書は原と陳淑均の私撰に係り後同地通判董正官其の誌稿を採り更に增損を加へ刊行せり
本書はその初刊（咸豐二年）本なり

澎湖廳誌　刊本　全十四卷　臺灣總督府圖書館藏
本書は林豪の稿本に基き通判藩文鳳が刪補せるものを更に臺灣通誌總局に於て改訂を加へ光緒二十年澎湖文石書院より刊行せるものなり

臺灣隨筆　（昭代叢書本）　臺灣總督府圖書館藏
著者徐懷祖は康熙三十四年の春臺灣に來遊す本書は當時の見聞を錄せるもの一小篇なりと雖も亦貴重なる資料たるを失はず

裨海紀遊　（昭代叢書本）　臺灣總督府圖書館藏
本書は浙江仁和の人郁永河の著一名采硫日記と稱し採硫の爲めに康熙三十六年來臺西海岸一帶に涉り踏破せし折の詳細なる記錄にして當時未開の情勢を知るべき最も有力なる資料なり

番境補遺　（小方壺齋輿地叢抄本）　臺灣總督府圖書館藏
郁永河の著裨海紀遊の中特に土番に關する事項を補足せるもの又當時の平埔蕃の情勢を知るべき重要なる資料なり

臺海使槎錄　刊本　全八卷　臺灣總督府圖書館藏

著者黃叔敬は康熙六十一年巡臺御史に任ぜられ親く臺灣を視察し從來臺灣に關する諸書の記載疎略不備にして眞を失へるもの多きを慨し乃ち本書をなせり赤崁筆談、番俗六考、番俗雜記の三部より成り錄する處の山川風土民俗等頗る詳細を極め殊に蕃族の情勢を記すこと最も詳しく彼の郁永河の裨海紀遊と竝び稱せらるる好著なり本書は乾隆の原刊本にして雍正二年の自序及び乾隆元年の魯曾煜の序あり

海國聞見錄　（昭代叢書本）　臺灣總督府圖書館藏

一名瀛海形勢錄と稱す著者陳倫炯は福建泉州府同安縣の人幼より父に從ひ外洋に往來し海上の形勢を知ること甚だ詳し康熙二十一年施琅の臺灣を征するや倫炯その機密に參し獻替する處多し雍正十年澎湖水師副將より臺灣水師副將に補せられ乾隆七年寧波水師提督に陞り在官五年厦門に歿す本書は上下二卷に分ち上卷は彼が平素見聞する處の支那沿海臺灣南洋等の山川風物等に就き略記し下卷は右に關する地圖を載せたり

皇清職貢圖　刊本　全九卷　臺灣總督府圖書館藏

乾隆十六年（實曆元年）時の經筵講官董誥等が高宗帝の勅命により撰修せしもの本書の第三卷に收むる臺灣府各縣に分屬する生熟蕃の繪圖は各男女の狀を描き以て衣冠、性情、習俗等を示し且つ解說を附せり當時の蕃俗を知るべき好個の資料なり同館本は乾隆の原刊に係るもの

海東札記　刊本　全四卷　臺灣總督府圖書館藏

著者朱景英は湖南常德府武陵縣の人乾隆三十四年より六年に至る間臺灣海防同知たり本書はその在任中自ら見聞する處を錄せしもの正誌の補足となるもの多し尙ほ本書の筆者謝曦は能書を以て名あり

東瀛識略　刊本　全八卷　臺灣總督府圖書館藏

著者丁紹儀は江南無錫の人道光二十七年來臺彰化に留ること八閱月本書は其間の見聞を錄せしもの同治十年（明治四年）の刊本なり

臺陽見聞錄　刊本　全三册　臺灣總督府圖書館藏

光緒年代に於ける臺灣の文物制度を記するもの甚だ少し臺灣通誌四十卷有りと雖も素之れ未定の稿本にして諸事盡さざるもの多し本書は光緒十七年（明治二十四年）の刊本にして當時臺南府知府たりし唐贊袞の撰に係り通誌の不備を補ふもの尠からず

臺游日記　（金陵叢書本）　臺灣總督府圖書館藏

著者藩師轍は臺灣通誌の總纂官として巡撫邵友濂の聘に依り光緒十八年に來臺せし人本書はその在臺二月より九月に至る間の詳細なる日記にして主として彼が通志纂修の資として校閲せし臺灣關係の文獻に付き錄せるものなり

欽定平定臺灣紀略　刊本　全七十卷　臺灣總督府圖書館藏

本書は乾隆五十三年の勅撰に係り本島中南部に蜂起せし逆賊林爽文莊大田等の征討に關する批答奏章を輯め月に分ち其の始末を編排せり林亂史料としては第一に推さるべきもの

東槎紀略　刊本　全五卷　臺灣總督府圖書館藏

著者姚瑩字は石甫安徽桐城の人嘉慶十三年の進士道光元年噶瑪蘭通判となり後臺灣道に陞る本書は道光九年に成り著者平素の論著中臺政に關するもの二十四篇を蒐錄せるものなり

聖武記　刊本　全十四卷　臺灣總督府圖書館藏

道光二十四年（弘化元年）の刊本清の開國より道光に至る迄の征討に關する紀事にして魏源の撰に係る本書卷八に收むる康熙戡定臺灣記は鄭氏征討を康熙重定臺灣記は朱一貴の亂を乾隆三定臺灣記は林爽文の亂を記述す各梗概を記せるも其始末一貫して條理整然たるもの本書の特色となす

治臺必告錄　刊本　全八卷　臺灣總督府圖書館藏

同治六年（慶應三年）の刊本丁曰健の編輯に係る本書は徐宗幹が臺灣在官中の撰に成り後丁曰健分巡臺灣兵備道に任ぜらるゝに及び即ち本書の稿本を授け以て治臺の主泉となさしむ曰健之を取て更に自ら作る處の平臺藥言等二十四篇を加へ以て之を板行せしものなり

東瀛紀事　刊本　全二卷　臺灣總督府圖書館藏

咸豐十一年の末より同治の初年に及び戴萬生の亂あり其の害乾隆の林亂より烈しと云はる本書の著者林豪は當時竹塹（今の新竹）なる林占梅の邸に寓居し自ら兵燹の跡を尋ね或は故老に聞き以て同治五年本書二卷をなせり戴亂に關するもの本書の外治臺必告錄及び戴案紀略等あり本刊本は光緒六年版にして例言を缺き別に寫本一部を藏す

訓番俚言　刊本　一册　臺灣總督府圖書館藏

本書は彼の書房に使用する初等教科書『三字經』に倣ひ五字句として綴り蕃俗の陋を改め文明の化に嚮ふべき要旨を說けり光緒二年清朝蕃人撫育の廷議に基き當時の欽差大臣沈葆楨及び巡撫王凱泰鑒修の下に編せらる理蕃資料として價値あるものなり

大清律例會通　二十四册　臺灣總督府高等法院藏

支那法律の解釋書とも見るべく判決例とも見るを得べき書籍なり

欽定大清會典　二十四册　臺灣總督府高等法院藏

清政府時代の法律書にして舊慣其他の參考に資せらるゝ書籍なり

大清律　二册　臺灣總督府高等法院藏

清政府時代の法律書なり

東西洋考　漢書　全六册　臺北　稻垣其外氏藏

明の張燮の著書にして明と貿市を通ぜる東西諸國の紀畧なり其第五卷には臺灣、第六卷には日本及び和蘭を記す

臺灣紀畧　漢書　全一册　臺北　稻垣其外氏藏
臺灣雜記

即ち臺灣紀畧は林謙光、臺灣雜記は李馥光の合著にして兩書とも臺灣に於ける最初の地理其他の記錄なり（說鈴中より抽出す）

合本

南疆繹史摭遺　漢書　臺北　稻垣其外氏藏

李子玉の著書にして南疆繹史の拾遺なり第十卷に鄭氏を傳す

明史　漢書全四十册　臺北　稻垣其外氏藏

張延玉等清帝の勅を奉じて撰む處總じて三百三十六卷康熙十七年編纂に著手し乾隆四年完成す

明記事本末　漢書全十八册　臺北　稻垣其外氏藏

谷霖苔の編する處に係る

香祖筆記　漢書　全六册　臺北　稻垣其外氏藏

王士愼の編にして書中臺灣に關する記事少なからず

平臺紀略　漢書　全一册　臺北　稻垣其外氏藏

藍鹿洲の著書にして康熙六十年朱一貴を平定したる始末錄なり

東征集　漢書　全三册　臺北　稻垣其外氏藏

鹿洲藍鼎元の著書にして朱一貴討伐の爲め渡臺せし際の文集なり

續修臺灣府誌　卷十四至十七一册　臺北帝國大學藏

一肚皮集　全一册　臺灣臺灣史料編纂會藏

吳子光字は北閣廣東嘉應の人後臺に來り中路に流寓して徐家幹の知遇を受け廳誌の編纂に從事し著述多し光緒初年沒す

正字略揭要　一册　臺北　尾崎秀眞氏藏

咸豐元年臺南の府政使衙門にて出版したるもの時の府政使徐家の序文あり試驗に用ゆる標準字劃を示せる書なり

書帶草堂詩鈔　全二卷　臺北　尾崎秀眞氏藏

乾隆中福州詩人鄭廷莅の著はす所にして當時有名なる書家謝曦の筆に成れる善本なり臺灣の歷史に關係ありし謝金鑾の題跋あり

臺灣雜詠　全一册　臺北　尾崎秀眞氏藏

光緒元年の駐在官として莅任したる王凱泰及何徵の合著にして詩數十首を收む

臺灣思慟錄　全一册　臺北　尾崎秀眞氏藏

光緒丙申の年福州に於て刊行せる所にして思痛子の著はす所なり領臺當時臺灣に在りて割讓に反對し事破れて福州に逃れ時局に憤慨して著はしたるものゝ如し

臺陽集 全一冊 臺北 尾崎秀眞氏藏

光緒十七年臺南府知府として來臺し四年間在職したる唐贊袚の著はす所にして詩數百首を收む

愛吾廬題跋 全二冊 臺北 尾崎秀眞氏藏

道光中板橋林本源家に寄寓したる呂西村の著述にて林家にて出版したるものなり

詩詞選集 全一冊 臺北 尾崎秀眞氏藏

咸豐中福州に於ける杞菊軒社瓊春軒詩社白雲詩社等の詩詞を集めたる者にて臺灣の布政使たりし徐家幹の題字あり

鄭君墓誌銘 法帖 一冊 臺南 石陽脛氏藏

臺灣縣學教諭鄭六亭の墓誌銘拓本の法帖なり撰文は清の嘉慶年間の學者福州人陳壽祺にして書は當時の大家郭尙先なり

臺灣外記 小本 十冊 臺南 石陽睢氏藏

清の康熙四十三年福建人江日昇著す處に係る卽ち鄭成功一代の歷史小說なり

六亭文集 全四冊 臺南 石陽睢氏藏

清の嘉慶年間臺灣縣學校教諭鄭兼才號六亭の著書なり內容は蔡牽の亂、文廟の修築、臺灣地方有益施設其他の議論文集なり

澎湖廳誌 全十冊 臺南 石陽脛氏藏

清の光緒十九年林豪の編する處に係り臺灣八部地方誌中の一にして而かも官撰誌書の最後のものなり

臺灣詩薈 一部 臺南 陳明沛氏藏

連雅堂臺南に在りし當時發行せし詩薈誌にして雅堂の史觀及び沈斯庵の詩等を雜錄に載す

臺灣外記 十冊 臺南 陳明沛氏藏

本書は清人江日昇が康熙五十二年に福州に於て編著出版したる鄭氏三代の戰記なり

陶村詩稿 八卷 全一冊 臺北 連雅堂氏藏

彰化陳肇興の著なり肇興は咸豐時代の擧人にして教を里中に設けたり同治元年戴潮春の亂肇興は義旅を糾合し克復を謀れり詩中多く其事を詠みたり現在既に絕版の書なり

臺灣通誌 洋裝上中下三冊 三十六卷 臺北 連雅堂氏藏

臺南連雅堂著、大正九年出版、隨代より始まり乙未の改隸に終る、凡そ一千七百餘年の事を叙述して遺す所なし、紀四、志二十四、列傳六十あり、表圖を附載せり

海紀輯要 寫本 全二卷 臺北 連雅堂氏藏

南安夏琳の著、琳は清初の人にして又鄭成功と邑を同うす、鄭氏三世の盛衰を目擊せり、故に其記載十二分に詳し鄭成功の潮王に晋封せられたる如きは諸書の記述ざる所なり

臺灣外記前傳 十五冊 臺南 杉田恕平氏藏

「臺灣外記」を更に小說的にせしものにして繡像明季孤忠五虎閻南京と題し繪入講古本なり

臺灣外記後傳 四冊 臺南 杉田恕平氏藏

民國近刊夏門會文堂の石印本にて小說的の明清鬪記なるが今試みに何斌臺南脫出の條を摘記すれば左の如し

且說揆一王擴船載石鑒沉爲石礁、使大船不能近岸亦是天意那石沉下好似鉄鑄一般、中留一條水路船出入、當從砲臺前經過、另設一暗路不由砲臺可通赤崁城、只有和蘭君臣知道何斌及漢人俱不知情何斌卽執掌大通事、總理買賣、出入錢銀大事、自己又設數名小通事、料理諸事、自己安閑、自此揆一王令夾板船運載五穀土產、往外洋發兌、民人見臺地好景俱移來住甚是闐熱、多有商船赴臺買賣、但揆一若有事務、必問何斌方行、這何斌雖有權柄、不敢作威害人、一味和氣、故番官及軍民欽仰、這何斌每年亦有數萬兩銀入手、不喜娶妻、廣造住宅花園、園中開一漁池眞通鹿耳門、有時尙、與、乘小船到鹿耳門釣魚遊玩家中又造下二座戲臺、又使人入內地買二班官音戲童及戲箱戲服、若遇朋友到家、卽備酒席看戲、或是小唱觀玩至於使喚之人、賞給分明若朋友向其告借、無不承眞、揮金如土、執掌重權十餘年、揆一王只道何斌家資至少亦十餘萬、馬知反侵庫銀十餘萬、幸得遮掩至後、衆官畦知侵欠、因念他和氣故無人奏他、何斌自料使用已慣難以改變、雖償欠項、內中有心腹小通事、名郭平、爲人硬直、每對平曰、吾今侵欠王銀數十萬、并非賭及嫖蕩素爲朋友所累、今用已慣、如何改變、倘欠項若有敗露、性命休矣、今幸故主之子鄭國姓、誓復明朝、坐鎭福建、封王、吾欲請他興兵、襲取臺灣、若從砲臺必不能過、雖有一條暗路、不由砲臺經過奈吾不知路徑、惟幫作事甚密、智能勿嫌勞苦、可駕小船、詐作釣魚、打聽此條暗路、可盡一圖方好引兵入臺、以脫吾之罪、若事成自當重報、郭平曰、養軍千日、用在一朝、平曰既受老爺天大恩某當盡心報答、自此日日駕小船、由鹿耳門出入、詐釣魚、傍人并不知他暗探水路、過了幾日、已探着暗路、一直到赤崁城洲仔尾起岸、將各處石礁畫成圖本、呈上何斌指說明白、但何斌聰明過人、一觀便知、卽同郭平往遊、恰聞鄭王失閩、今屯兵澎湖、大喜、卽與郭議曰、赴令鄭王新敗、又在澎湖、至此只有四隻船、郭平曰、機會雖好、非老爺親往難過鹿耳門、何斌曰、吾當前往郭平曰、公現掌重權、怎能遠離、何斌曰、可知此如此、就能脫身、郭平曰、妙計、時十二月底、何斌出奏曰、臣久沐大恩、無可補報、偶有一事、求狼主賞臉、揆一王曰、何事奏來、孤無不依、斌曰、臣新造花園、略略可觀元旦日欲請狼主及文武、齊往遊要一醉、未知准否、揆一王思鄭王雖是兵敗、況風馬牛不相及、又靠鹿耳門險阻、不放在心、聞奏心喜、又思何斌性好請客、孤又作成他立下大大家督費他一食何妨笑曰、久慕卿善能調度、孤正欲往觀、當同衆官前往一醉以慶昇平、斌謝曰、若得君臣到舍、萬古流芳幸勿失約、王曰怎肯失信、卽傳旨于元旦日早、衆卿同孤齊往何通事府中暢飲、衆官亦喜觀玩、何斌卽同府、備辨珍饈美味張燈結彩到正月初一日早、一王登殿文武朝賀畢、何斌奏曰、望狼主大駕早臨一王曰卿先同朕隨往、何斌先同、揆一王卽上鑾文武隨往、何斌令小通事出府跪接君臣入堂、茶罷、一王令何斌引路觀玩斌引君臣到花園、果然觀之不盡、君臣稱美同到堂上、君臣入席、演戲進酒、一王大笑酒過數巡、何斌雙手忽捧住心胸、縐着雙眉、一王問曰、何故、斌曰、臣向有心氣之疾、不料又發作、疼痛難忍、王曰、卿既有病、可入內安寢調治、斌曰、難得狼主君臣到此、欲一大醉、臣若入內、一則失儀、二則不能盡歡、臣焉能放心、王曰、卿有心請酒、孤當盡歡大醉方休、卿連去調治、何斌卽令小通事小心敬酒、卽入內對郭平曰、事有濟矣、可代吾遮掩卽于魚池內下小船、出鹿耳門、此時守城門之官、亦去飲酒番兵亦去尋友玩耍無人把守、何斌令揭帆、至初更到澎湖、

臺灣孝節錄 一冊 臺南 胡丙申氏藏

式典錄 一冊 臺南 胡丙申氏藏

楊文會策議 一冊 臺南 胡丙申氏藏

西篁薤露集 一冊 臺南 胡丙申氏藏

臨濮堂施氏族誌 一冊 臺南 施琴船氏藏

施琅を祖先に有てる矜持を以て此の族誌を編纂したるものゝ如く肥滿短軀の施琅を挿畫としあり又疑問の定國將軍の墓地の寫眞版も挿入しありて明かに一族たるを證明するも而かも何人なるやの明記を缺く

臺灣外記 六冊 新竹州中壢 黃芳春氏藏

江日昇の臺灣外記に大小の二版あり本書は其大形版の方なり

臺灣外記 三十卷 臺南州曾文郡麻豆 黃恭甫氏藏

臺灣外記は興味本位の著書にして之れを正史に比し杜撰たるを免れず故に世人は動もすれば此書を以て小說に類すと評す

鳳山采訪冊 六冊 高雄州鳳山 林靜觀氏藏

清の光緒一八年鳳山擧人盧德祥、陳白翔、及び秀才盥德嘉、周得經王慶文五人等鳳山知縣李文煜の命を受け鳳山采訪局を說け同時に着手し鳳山縣全管內に亘り地輿、規則、職官、科目、烈傳、烈女、藝文等を悉く各方面より資料を蒐集し光緒二十年十二月に至り采訪を完成して六冊に分ち甲乙部に案由、紀畧、疆域、沿革、各里、莊社、田園、平埔、戶口、路程、諸山、峻嶺、浮嶼、沙汕、暗礁、巖穴、不洞、番社等丙部に諸溪、溝渠、港澳、圳道、深潭、池塘、水窟、魚塭、津渡、橋渠、八景等丁戊己の三部に城池、街市、廨署、

倉厫、營汛、鋪遞、礮臺險隘、番屯、蕃社、義塚、錢糧、學宮、學額、學田、書院、義學、社學、祠廟、寺觀、知縣、縣丞、巡檢、典史、教諭、參將、都司、守備、進士、舉人、恩貢、拔貢、歲貢、優貢等庚辛兩部に官蹟、武功、鄉賢、流寓、孝子、義民、壽考、貞、孝節、烈壽婦等壬部に匾額、碑、碣、兵事、記論等癸部に兵事、七律、五律、五截、七截、古風等を悉く登載し將來臺灣史の資料として編纂したるものな。

北郭園全集 一冊 新竹 鄭神寶氏藏

鄭用錫の著す處、用錫字は在中、祉亭と號す子孫世々新竹に住し北郭園は其邸名なり

大爺奇同官錄 一冊 嘉義 王子景氏藏

出品者の祖先王得祿が伯爵を追贈せられたる當時の官員錄なり

鄉試錄 全一冊 臺南 石陽睢氏藏

清の道光二十三年福建省管内各府縣の秀才福州に於て舉人試驗に及第せし正舉人、副舉人の人名錄及び試驗官の人名錄並に優良作文其他試驗順序等の試錄なり

鄭延平年譜 全一冊 臺南 石陽睢氏藏

大正十五年發行支那人吳與許與基の編にして鄭氏一代を編年體に記述したるものなり

王宮保行述 一冊 嘉義 王子景氏藏

伯爵王得祿の行狀記卽ち叙實的の履歷書の如きものなり

噶瑪蘭誌略 寫本 全十四卷 臺灣總督府圖書館藏

本書は道光十五年（天保六年）噶瑪蘭通判柯培元の私撰に係り遂に刊行を見ずして今日に及びしもの往年臺北連雅堂が稿本の山東省に在るを聞知し卽ち人を派し以て筆寫せしむ本書は同寫本に付き轉寫せしものなり

臺灣通誌 寫本 全四十卷 臺灣總督府圖書館藏

本書は未定稿の儘領臺當初對岸厦門にありしを總督府に於て購入せしものに付謄寫したるものなり

續修臺灣縣誌 寫本 全八卷 臺灣總督府圖書館藏

本書は道光三十年補刻版の寫本なり

重修臺灣府誌 寫本 全十卷 臺灣總督府圖書館藏

康熙五十一年（正德二年）巡道陳璸及知府周元文の共修に係り主として先に成れる高誌を增損せり本書は宮內省圖書寮所藏の原刊本につき影寫したるものなり

重修臺灣府誌 寫本 全二十卷 臺灣總督府圖書館藏

乾隆六年（寬保元年）巡道劉良璧等の纂修に係る本書は帝國圖書館所藏の原刊本に付き影寫したるものなり

臺灣府誌 寫本 二冊 臺灣總督府圖書館藏

全十卷康熙三十三年（元祿七年）巡道高拱乾の纂修に係り臺灣に於ける官撰府縣誌の嚆矢をなすもの本書はその首卷及第一卷にして內閣文庫所藏の原刊本につき影寫したるもの

華夷變態 寫本 五卷 臺灣總督府圖書館藏

本書は明末清初の間長崎に來往せし支那商船所傳の風說にして奉行より幕府に書上げたるものを林家に於て編錄せしもの全三十五卷延寶二年春齊の自序あり書中收むる所の鄭氏關係の記錄は何れも重要なる資料に屬す

(一)鄭氏遺蹟碑御建付書取草案
(二)鄭氏遺跡碑祭式等御達向草稿 寫本 臺灣總督府圖書館藏

右二書は共に平戶藩主松浦伯爵家の收藏に係る稿本につき影寫せしもの前者碑文撰者葉山鎧軒が右遺蹟碑建立につき藩民一般に周知せしめん爲め草したる成功事曆の案文にして後者は專ら遺蹟碑祭典奉行に關する諸事項を記載せるものなり

小琉球漫誌 寫本 全十卷 臺灣總督府圖書館藏

著者朱仕玠は福建邵武の人詩を以て知られる本書は乾隆二十八年著者が鳳山縣學教諭に任ぜしときその赴任の途次及び在鳳中得たる見聞を錄し且つ諸書につき補足を加へ間々自作の詩を挿入し以て十卷となせるもの

澎湖紀畧 寫本 全十二卷 臺灣總督府圖書館藏

本書は乾隆三十一年（明和三年）澎湖通判たりし廣東三水の進士胡建偉の作る處後の道光元年通判蔣鏞の著澎湖續編と共に澎湖に於ける誌書の通鑑と稱せらる

澎湖續編 寫本 全二卷 臺灣總督府圖書館藏

本書は胡建偉の著澎湖紀略の續編をなすもの湖北省黃梅縣の進士蔣鏞の編修に係り紀略と共に後來諸書の依據となるもの多し著者は通判として澎湖に在ること道光元年より前後實に十餘年に及び頗る德望ありし人なり

巡臺退思錄 寫本 全三卷 臺灣總督府圖書館藏

著者劉璈字は方伯闌洲と號し湖南臨洲の人光緒七年より十一年に至る間分巡臺灣道に任ず本書は其の在任中草せる奏疏書稟の類を蒐めしものなり

施案紀畧 寫本 一冊 臺灣總督府圖書館藏

光緒十四年彰化を中心として蜂起せし施九緞匪亂の顚末を錄す元臺灣通誌の資料として編せられしもの筆者吳德功は當時彰化に在りて具に其の始終を目擊せし人施亂に關する唯一の根本資料なり

戴案紀畧 寫本 全三卷 臺灣總督府圖書館藏

本書は著者吳德功が元臺灣通誌の資料として草せしもの東瀛紀事と相俟て載潮春匪亂の眞始末を傳ふものなり

諸羅縣誌 寫本 全十二卷 臺灣總督府圖書館藏

臺灣に於ける縣誌中最古のものに屬し而も特色を有するもの康熙五十六年成稿雍正二年（享保九年）刊行本書の道卷及第一卷は內閣文庫所藏の刊本に依り第二卷以下は故鈴村讓所藏の刊本に據り謄寫したるものなるが殊に首卷に掲ぐる十幅の番俗圖の如きは全く他書に見ざる異彩となすべし

澎湖廳誌 寫本 全十五卷 臺灣總督府圖書館藏

本書は林豪の稿本に付き轉寫せしもの刊本に比し多少の得失異同あり

舍密全書 寫本 一冊 臺北 西樵仙氏藏

和蘭人「ハン、カツツ、スマルレンヒユルフ」の原著を關學者緒方章の飜譯せし未定稿にして專ら醫學用化學を記述せり

柏原太郎左衞門記錄 寫本 全一冊 臺北 稻垣其外氏藏

內容、仕立由來書の事、異國高砂一卷、並に角田政治の柏原太郎左衞門事蹟の演說筆記を添ふ

和蘭公使日本使節紀行 寫本 全一卷 臺北 稻垣其外氏藏

原書及び譯者共に不明

和蘭人臺灣紀行 寫本 全一冊 臺北 稻垣其外氏藏

瀨脇壽八譯とあるも原書不明

石井本宗族譜 一冊 臺南 開山神社藏

延平郡王族譜の寫本にして卷首に「崇禎歲次庚辰年十一月朔日十一世孫芝龍撰」の序あり又卷尾には鄭家の系圖を載す今芝龍、成功兩人に對する記事を摘錄すれば左の如し

鄭芝龍小名一官字曰甲號飛黃崇禎間以軍功授前軍都督收劉香改襲錦衣衛副千戶旋漳州等處總兵官十二年

荷蘭弘光封南安伯隆武封平西侯後進太師平國公投誠封同安侯先娶陳氏繼娶日本翁氏一品夫人後娶顏氏側室陳氏涿出李氏黃氏生男五先崇禎元年間現授海防遊擊寔援左都督子孫散處京都漢軍旗下以名爲姓者衆

鄭成功諱森字明儼號大木明賜國姓名成功掛招討大將軍印總統使康熙二十二年聖祖仁皇嘉其忠貞賜葬南安康店覆船山附樂齊公墓飛黃公長子日本翁夫人出年十五補弟子員旋食餼金陵術士見之驚曰此奇男子骨相非凡命世雄才非科甲中人也飛黃公引見隆武隆武撫其背曰惜無一女配卿卿當盡忠吾家無相忘也賜姓朱改名成功封御營中軍都督賜尙封劒儀同附馬掛招討大將軍印方其諫父不聽被見敕王挾北去又痛母死於非

命乃懼慨謀起師携所著儒巾禰衫赴文廟焚之拜先師仰之曰昔爲孺子今爲孤臣向背去留各有作用謹謝儒服惟先師照鑒之高捐而去又移稱忠孝伯永歷嗣封漳國公延平王繼而晉封延平王壽三十九卒於臺灣妣董氏雷廉道董客先女姬莊氏林氏溫氏蔡氏曾氏蔡氏許氏生男十

アミ族奇密蕃社古話

一冊　花蓮港　瑞穗公學校藏

浦島太郎的サダパンの古話とチ・キラウ、イリキツと云ふ兄弟星になれる古話とを蕃語及び和譯せしもの二篇の手記なり

得正堂雜抄

寫本　臺南　湯川鹿造氏藏

出品者の先君湯川退軒手記する處に係る中に彼の清帝が鄭軍に對する我が援兵阻止の謀書の一條を載す

我が德川氏の初の頃鄭成功が支那の南方に據り大に清廷を憾したる所鄭氏の母は日本人なれば其緣に由り日本の鄭氏を援けんことも測り難しと清廷の有司は懼れを懷き偶々我の漂流者を送還するの序を以て特に一介の使を走せて我皇の祖先は貴國の人にて我皇は實に其後裔なれば爾後は隣交を結び名は兩國の帝なれども誼は兄弟の如くなるべしと文書禮物を供へて幕府に贈り且つ此は我皇祖先の着用せしものにて傳家の寶なれども前言を證する爲めに贈り參らせ候とて古き日本製鎧の草摺一枚を添へ越されたる由其草摺井に文書は久しく幕府の庫中に秘し置かれしが此程今の德川家より宮內省へ献納せられたりと聞く云々

更に明治十六年九月十八日の秋田日々新聞に同地の碩儒小松弘毅の寄せたる清帝源流考を引き清の蔣廷錫の輯勅錄卷の三十の序に「乾隆皇帝述我姓源經裔其先清和姓源故號國清」とあるを證明とせり又同抄中の乘輿追記に左の二詩あり

倭國風俗詩　（遵問錄）

明初時嘗欲征倭國彼遣使嘆哩嘛哈奉表乞降上向倭國風俗如何嘆哩嘛哈以詩答曰

國比中原國人如上古人衣冠唐制度禮樂漢君臣銀甕蒭新酒金刀鱠錦鱗年年三二月桃李一般春

倭人蜀葵花詩　（西野雜記）

成化甲午倭人入貢見欄前蜀葵花不識人間之題詩云花如木槿花相似。葉比芙蓉葉一般。五尺欄杆遮不盡。尙留一半與人看。

御纂春秋

豆本　二冊　臺南　石陽睢氏藏

清時代の文人學者が手寫せし春秋經にして極小細字の楷書にて頗る美術的のものなり

明治七年太陽略曆

一冊　臺南　山本隆造氏藏

牡丹蕃討伐記念品の一なり

採鑛資料

一部　臺北州大屯郡北投庄役場藏

北投硫黃礦の史料を支那浙江省仁和の人郁永河の「稗海記遊」中より摘錄したるものなり

余問番人硫土所產指茅廬後山麓間、明日拉顧君偕往、坐莽葛中、命二番兒操揖入緣溪溪盡爲內北社呼社人爲導轉東行半里入茅棘中勁茅高丈餘兩手排之側體而入矣日蒲茅上暑氣蒸鬱覺悶甚草上一逕逶迤僅容蛇伏從者五步之內已各不相見慮或相失各聽呼應聲爲近遠約行二三里渡兩小溪皆履而涉復入深林中林中蓊鬱大小不可辨名老藤纏結其上若臥龍環繞風過葉落有大如掌者樹上禽聲萬態耳所創聞目不得視其狀涼風襲肌幾忘炎暑復越數坂五六值大溪溪廣四五丈水蕩蕩巉石間與石皆作藍靛色導人謂此水源泉出硫穴下是沸泉也余此一指試之猶熱甚扶杖躡巉石渡更進二三里林木忽斷始見前山又陟一小嶺覺履底漸熱視草色萎黃無生意望前山半麓白氣縷縷如山雲乍吐搖曳青嶂間導人指曰是硫穴也風至硫氣甚惡更進半里草木不生地熱如炎左右兩山多巨石爲硫氣所觸剝蝕如粉白氣五十餘道皆從地底騰激而出沸珠噴濺出地尺許、余攜衣即穴傍視之聞怒雷震蕩地底而驚濤興沸鼎聲間之地復岌々欲動令人心悸、蓄周廣百畝間實一大沸鑊余身乃行鑊蓋上所賴以不陷者熱氣鼓之耳右傍巨石間一穴獨大思巨岩無陷理乃石上附瞰之穴中毒焰撲人目不能視觸腦欲裂、急退百步乃止左傍一溪聲如倒峽即沸泉所出源也還就林小憩循舊路返衣染硫氣累日不散

外遙に開放の所に碇泊致居一朝風波を起すに逢はゞ更に支ゆるものなきに苦む況んや每年六月より九月迄の間は西南風の定節にして激浪高く貨物の積卸等は終始殆んど爲す能はざるの有樣に有之之を灣內水深く大船巨船をして出入を自由ならしめ貨物積卸の簡易を與ふるに於ては其利益の影響する所決して尠少ならざる儀に有之候

右は水堤を築き船渠を設る等の大工事を興すに於ては素より完全の良港と爲すを得べしと雖ども斯の如きは長年月を要する事業到底今日に望むべきにあらざれば玆に一大浚渫船を備へ沙洲を浚渫して先づ通常船舶の出入に便ならしむるは今日の場合最も急務と相考候聞く所に據れば港底は土沙のみにして岩石珊瑚礁等の硬固物は絕て無之と果して然らば浚渫の業は誠に易々たるものに可有之是等は當局の技師を派遣せられ測量を經るに至らば更に分明なる事と存候

當地支廳長西郷菊次郎氏も本件に就而は最も熱心の希望を有せられ技師派遣の事は同氏進んで之に申ると迄申居られ候得共抑々港灣に船舶の出入を主眼とするに就而は取締上は素より諸般の關係稅關最も深し之を以て全然同氏の斡旋にのみ據る可きものにあらずと被相考候

浚渫工事素より多額の費途を要するは勿論の儀に有之候得共竣工の上是より生ずる便益は又決して尠からず況んや舒舟及人足の賃銀のみにても不容易金額を省約し得べきに付直接には貨主を利し間接には一般公共を益す無形に數年ならずして該費を償ふは敢て疑ふ可からざる次第に有之候每年冬季は一定規則の如く海上平穩卽ち今より來年五月下旬に至るの間は右工事に着手する最も好適時節に有之候得は此期を措かず速に技師の派遣を得て浚渫の方法を講究し續て着手の順序に相運度依而別紙圖案相添此段申上候也

明治廿八年　月　　安平稅關
酒井恒輔

關稅課長　野村才二殿

稅關古文書綴

三冊　臺灣總督府稅關藏

明治二八、二九、三十年度の安平稅關書類綴にして內に安平浚渫工事の意見書幷に附圖等添付しあり（附圖略す）

當安平港は本島南部商業界の中心點たる臺南を控へ對岸近く清國に相接し百貨の集散一に之に據らざるを得ざる樞軸の港灣なるは言を俟たざる儀に有之候然るに惜かな本港は灣內水淺く沙洲あつて巨船は素より僅かに二三百噸の船だも泊するに難からしむ不得已悉く灣

文書の部

奉天誥命　二卷　臺南　鄭戊戌氏藏

此聖旨は乾隆帝の功臣鄭其仁に賜ふ處のものなり其仁字は彭年、靜齋と號し臺南の人なり林爽文の亂に際し屢々戰功あり乾隆五十三年大將軍福康安に從ひ轉戰中敵の伏に陷り戰死す年三十有五事上聞に達し都司銜を加へ忠勇と諡し祭を賜ひ京師の昭忠祠に合祀せらる墳墓は現に臺南洲仔尾にあり即ち聖旨の內一卷は賊の毒手に斃れたる鄭其仁の妻林氏に賜ふ處に係る

誥命函　二個　臺南新報社藏

天井なき支那式家屋の梁に特に裝飾を施せる柱を横へ嚴かに格納して吊下する誥命容器なり

嘉慶帝聖旨　一卷　嘉義　王愧氏藏

五色布聖旨を書したる伯爵授與の辭令にして出品者の祖先王得祿に賜ふ處のものなり

王得祿字は百遵、玉峰と號す支那江西南城の人屢々林爽文、蔡牽等の亂に功あり道光二十一年七十二歲を以て薨ず嘉慶帝其功を賞し伯爵を追贈し太子太師銜を加へ果毅と諡す

征臺軍諭告　一枚　高雄州恒春郡役所出品

明治七年十一月凱旋に際し西鄉都督より十八蕃社大會長潘文杰に與へしものなり

因に本告文は潘文杰嗣子恒春郡潮州庄猪勝東潘阿別所藏に係る

大日本海軍中將西鄉從道、告于生蕃各社、往歲、牡丹社蕃、殺我琉球民於難、大虐無道、罪莫大焉、從道謹奉、天皇之威命、來問其罪、既而備等悔過改德、稽顙於轅門、我憫而救之、可庶幾興共沐浴于聖澤、生長仁壽之域也、不料、今也我與清國媾和、悉聽其請、我歸期有日你們謹奉清國之教、勿敢犯三尺、特曉諭

明治七年十一月二十日　西鄉從道

伊藤總理大臣訓令書　一枚　臺北　尾崎秀眞氏藏

明治二十八年五月領臺當初伊藤總理大臣より樺山初代總督に對する訓令書の寫にして石印本なり

今回勅命ヲ以テ貴官ヲ簡拔シ授クルニ臺灣總督兼軍務司令官ノ重任ヲ以テセラレタルハ深ク貴官ノ材能果決ニ信倚セラルトニ由ルヲ以テ今更ニ項目ヲ臚列シテ詳細示教スルノ要ナキカ如シト雖モ粗メテ諸般ノ政治ヲ新領土ニ施クニ當リ必ス先ツ其要旨ヲ概定セサルヘカラス殊ニ事ノ外交ニ涉ルモノニ至テハ貴官ト締盟各國領事ト直接應對セルモ知ルヘカラス貴官ハ先ツ右ノ要項ニ基キテ庶政ヲ施キ且ツ詳細調査報告セラルヘシ政府ハ其報告ニ準據シ之カ爲ニ要スル人員ヲ派出シ將來永遠島地ニ恰當スルノ制度ヲ定メントス

右及訓令候也

明治二十八年五月十日　內閣總理大臣伯爵　伊藤博文

臺灣總督海軍大將子爵　樺山資紀殿

國勢調査曉諭　一幅　臺南　津田毅一氏藏

明治三十八年十月一日第一回臨時臺灣戶口調査を實施するに當り豫め總督府の發したる周達的曉諭にして石印本一枚摺のものに係る蓋し我邦最初の國勢調査にして內地のものに先つ數年爲めに江湖の注意を牽きたり是れ本島定籍の豫備的必要に迫られ敢て此擧に出しものなりと云ふ

領臺當初の總督諭示文　一枚　臺北　尾崎秀眞氏藏

諭示

大日本帝國欽派臺灣島及所有附屬各島嶼併澎湖列島處總督海軍大將子爵樺山爲出示曉諭事諭得此次

大日本帝國

大皇帝准將

大清帝國

大皇帝因日中兩國欽差全權大臣於明治二十八年四月十七日在下之關所定和約所讓臺灣島及所屬各島嶼併澎湖列島卽在英國格林尼次東經百十九度起以至百廿度及北緯二十三度以至二十四度之間諸島嶼之管理主權及該地方所有堡壘器工廠一切屬公物件永遠歸併

大日本國特簡本大臣授與總督駐抵任所本大臣恭遵

諭旨接收

大清國所讓各地方併駐此督理一切治民事務凡爾衆庶在本國所管地方標遵法度恪守本分者悉應享周全保護永安其指特此曉諭

明治二十八年　月　日

漢蕃對譯田地質入證書　一枚　臺北帝國大學藏

乾隆四拾年叁月附

漢蕃對譯住宅及地所質入證書　一枚　臺北帝國大學藏

乾隆四拾五年叁月附

蕃語契約書　一枚　臺北帝國大學藏

嘉慶十年二月附

蕃語契約書　一枚　臺北帝國大學藏

乾隆十三年正月附

蕃語物價表　一枚　臺灣總督府博物館藏

新港蕃語のローマ字綴を以て記載せられたるものなり

蕃語契字　二枚　臺灣總督府博物館藏

一、新港蕃社の契字

蘭人占據の際最初に教化を受けたる臺南の平埔蕃（シライヤ部族）シンカン社蕃人が乾隆又は嘉慶の末葉に於て作製せる典若くは胎の契字にして漢文の外蕃語のローマ字綴をも併記したり蘭人撤退（西曆一六六一年）の後一五〇餘年に及ぶ尙祖先の修得せるローマ字綴を傳へたるは以て蘭人の教化如何に深甚なりしかを察するに足る

二、新港の蕃語のローマ字綴と漢字

土蕃の契字　三枚　臺灣總督府博物館藏

乾隆一通、嘉慶一通、道光一通の各年代に於ける土蕃の田宅の賣典胎等の契字なり

印章として手掌を用ふるもの（乾隆時代のもの）拇印を用ふるもの（嘉慶時代のもの）書判を用ふるもの（道光時代のもの）等あり

蕃語文書（契字）　一枚　臺南州曾文郡下營庄　黃清淵氏藏

清の乾隆二十二年六月蔴豈社蕃に於ける蕃漢對譯の契字にして從來學者の手に蒐集せられたるものは新港蕃社のものにあらざれば下淡水蕃社のものなりしに本史料展に於て始めて蔴豈蕃社の蕃契字を發見するを得たり

蕃語文書（契字）　一枚　臺南州北門郡佳里　謝謀麟氏藏

清の乾隆二十二年二月に於ける蕃人本島人間土地賣買に關する契約書にして單に蕃語羅馬字綴のものなり

蕃語文書（契字）　一枚　臺南州曾文郡麻豆　鄭漢氏藏

清の乾隆十八年正月に於ける蕃漢對譯の蕃契字なり而して此蕃語羅馬字綴は如何に蘭人が蕃人教化に努力せしかを證明する一の左券と見るを得べし

蕃語文書（契字）　一枚　臺南州曾文郡麻豆　鄭漢氏藏

清の乾隆四十六年十一月に於ける蕃漢對譯の蕃契字なり

蕃語文書（契字）　一枚　臺南州新豐郡龍崎庄　余辛丑氏藏

清の乾隆三十二年四月新港蕃社に於ける蕃漢對譯の蕃契字なり

蕃語文書（契字）　一枚　臺南　王臥蕉氏藏

蕃語羅馬字綴の蕃契字にして蔴豈社土目の調印あり

光緒年間の關稅書類　一册　臺南　石陽睢氏藏

光緒九年笨港洋納稅釐分局の月分結算の帳簿なり

土地に關する古文書　一幅　臺南　石陽睢氏藏

清政府時代の田式一班を一幅に收めたるものにして今其の內容を區別せんに按司道璽照は開墾許可證、兵備道執照は土地保存登記證、契尾は土地申告證、丈單は土地臺帳謄本、糧戶執照と納戶執照は地租領收證なり

家税收單　一枚　臺南　陳明沛氏藏
清政府時代の家屋税領收證にして徵收每期書入式となり居れるは妙なり

功牌用紙　一枚　臺南　陳明沛氏藏
清政府時代の行賞辭令の用紙なり豫め主要文を印刷し置き必要に應じて等級を書入るゝ如くなしあり

丈單字　一枚　臺南州新豐郡龍崎庄　余辛丑氏藏
清政府當時の土地臺帳なり

賣契字　一枚　臺南　石陽睢氏藏
清の雍正十年の家屋賣渡證なり

海東書院童生試卷　一通　臺南　石陽睢氏藏
清政府時代臺灣巡道主管の書院所屬の學生が海東書院に於て課題の作文なり

安平縣童生試卷　一通　臺南　石陽睢氏藏
清政府時代地方制度改正せられ臺灣府臺灣縣を臺南府安平縣に革められにる當時學生が安平縣に於て課題の作文答案なり

蓬壺書院童生試卷　一通　臺南　石陽睢氏藏
清政府時代臺灣縣主管の書院所屬の學生が蓬壺書院に於て課題の作文なり

崇文書院童生試卷　一通　臺南　石陽睢氏藏
清政府時代臺灣府主管の書院所屬の學生が崇文書院に於て課題の作文なり

典契文書　一枚　安平　郭成家氏藏
前清時代の典契文書なり

秀才試驗答案　三帖　臺南　陳鴻鳴氏藏
臺南崇文書院の秀才試驗答案なり

臺灣基督布教史年代表　一枚　臺南長老教中學校藏

蕃地統計圖表　五枚　警務局理蕃課藏
蕃害減少、蕃金增加、蕃學童增加、耕地面積增加、納税增加等を統計圖表にて示せるものなり

地圖、海圖の部

安平地圖　一枚　臺北帝國大學藏
原圖は和蘭國立文書館所藏にして正保慶安（千六百四五十年）頃蘭人製作したるものなり
圖中北線尾のゼーブルヒ砦の位置、鯤鯓のゼーランヂヤ城及城下町臺灣本土のプロビンシヤ村等の位置を示す
De stad Zelandia　ゼーランヂヤ町
T Fort　城
Plaat van Baseboij　北線尾
Reduijt Zeeburgh　ゼーブルヒ砦
T Suijder Canaal　南水道
T Noorder Canaal　北水道
De Noorder Rheede　北の外港
T Gat van Laejenue　鹿耳門口
T Noorder Riff　北の洲
Het Vleckje Provincie　プロビンシヤ村
Groendal　綠谷
De Sincans Rivier　新港溪
De Soulangse saag velden　蕭壠耕地

安平地圖　一枚　臺北帝國大學藏
原圖は和蘭國立文書館所藏にして寛永二年（一六二五年）蘭人製作したるものなり
圖中に北線尾及鯤鯓を畫きゼランヂヤ城及び和蘭商館の位置を示す
即ち圖の右に在るは第一鯤鯓即ち今の安平にして、左に在るは北線尾島なり
A　森　D　砂丘
F　ゼランヂヤ城　G　蘭商館

臺南及安平地圖　一枚　臺北帝國大學藏
原圖は和蘭國立文書館所藏にして寛永二年（一六二五年）蘭人の製作したるものなり
圖中北線尾及鯤鯓を畫きゼランヂヤ城の位置及び臺灣本土に於けるプロビンシヤ町の位置を示す
Stadt Provencie　プロビンシヤ町
T Fort　ゼランヂヤ城
Taijowan　タイオワン島

臺灣古地圖　一面　臺灣總督府博物館藏
康熙六十一年巡臺御史黃叔敬（字玉圃順天大興人著有赤崁筆談蕃族六考等）親しく臺灣を踏査して調製したる所にして現に存在せる臺灣古圖中最古のものに屬し地理歷史上唯一の資料たり現に從來臺灣歷史の上に久しく疑問となり居たる北港の地名の如き本圖に於て明かに現在の臺北の位置に記載せられあるは最も有力なる證明なりと云ふべし

ゼーランヂヤ城古圖　一枚　臺灣總督府圖書館藏
和蘭陀人の目測圖に依つて調製せられたるゼーランヂヤ城を主としたる安平古圖にして其傳來を審かにせず

臺灣古圖　寫本　臺灣總督府圖書館藏
本圖は嘉慶、同治間に成りしものなり

蕃族分布圖　一幅　臺灣總督府警務局蕃務課藏
臺灣全島圖にタイヤル族（北蕃）プヌン族、ツォゥ族、パイワン族アミ族、ヤミ族（以上南蕃）の分布を着色にて現し之れを掛軸となせるもの

東洋古地圖　二枚　臺北　鎌田彌彥氏藏
歐人の手に成りし十三世紀頃の東洋古地圖なり
China Veteribus Sinarvm Regio Nunc Lnoolis Tame dicta
A sketch of a Journey from ZHE-HOL in TARTAY by land TO PEKIN and from thence by Water TO HANG-TCHOO-FOO in China

臺灣古圖　一幅　臺南　梁姓家廟藏
構圖の大體は臺灣府誌の總圖に噶瑪蘭廳地輿全圖を添加したる如き

ものなるも彼の總督府博物館所藏の古圖康熙中葉のものに比し地名の記入更に詳密を加へ殊に淡水縣、彰化縣の名を存するより推せば尠くとも百五十年前に描かれしものなるべく本史料展に於ける大收穫物の一なるべし

臺灣輿圖　一枚　臺北　稻垣其外氏藏
光緒五年の官撰なり

先住民文化の遺跡　四枚　臺北　尾崎秀眞氏藏
臺灣全島を四枝の地圖に製し之れに先住蕃人の文化的遺跡を標記したるものなり

領臺當時の總督府地圖　一枚　臺北　尾崎秀眞氏藏
臺灣總督府舊廳舍は清政府時代の道臺衙門なり督府新廳舍の成るに及び漸次取毀し今は其一部を存するのみ

領臺當時の臺南圖　一枚　臺南　村上玉吉氏藏
領臺當時出品者が踏査測圖せしものにして其時代臺南駐屯の工兵隊の手に製圖せし臺南地圖と比較し大同小異なり

平戸道しるべ地圖　一枚　平戸中野村々長川口伊作氏藏
肥前平戸の鄭氏關係名所案内の鳥瞰圖なり

書の部

蘭字雪月花　一枚　臺南　筒井清眞氏藏
用紙は木炭畫用のもの字据りを正すに鉛筆を用ひたる痕あり蓋し明治維新の前後長崎邊の關學者が筆に成れるものなるべし

朱子の豫言　一卷　臺南　陳文玉氏藏
赤崁筆談に曰く宋の朱文公福州の鼓山に登り地脈を占ふて曰く龍滄海を渡る五百年の後海外當に百萬人の郡有るべしと今版圖に歸入す年數適符凞々穰々竟に樂郊と成れり矣
朱文公は今を去る八百年前の人

朱熹の書軸　一幅　高雄州岡山郡　超峯寺　藏
朱子の書幅にして岡山大崗山超峯寺の寺寶なり朱子は卽ち南宋の大儒朱文公の謂ひにして昭和六年を以て生誕八百年に相當す

寧靖王書軸　一幅　臺南　辛西准氏藏
明の太祖九世の孫遼王の子にして字は天球別に一元子と號し鄭氏が清朝に降るの日自殺す大書は王の得意とする處臺南石芳秀氏所藏の「古松奇石在山中」の書は事情あり出品せられざりしも參考の爲め寫眞を掲載し置けり

寧靖王書　一幅　臺北　林態光氏藏
寧靖王衛桂字は天球別に一元子と號す明の太祖九世の孫遼王の後なり永歷十八年鄭成功に奉ぜられて臺に渡り萬年縣竹滬に住し開墾に從ひ頗る成績あり三十二年鄭氏の清に降るに當り我事畢れりと爲し自殺す五妃之に殉ぜり王文學を善くし書尤も遒勁遺墨今尙ほ存ぜり

寧靖王書軸　一幅　臺中州彰化　近藤進之助氏藏
艱辛避海外總爲數莖髮於今事畢矣祖宗應容納とは王が最後の遺言なり

寧靖王書　一幅　臺中州員林　桑原政夫氏藏
忠魂義魄鬼神欽

鄭成功眞蹟　一幅　臺南　開元寺　藏
世上鄭成功の筆蹟と稱するもの尠なからざるも信を置くに足るもの稀なり其中に於て本筆蹟は神韻生動風格非凡眞に鄭成功其人の人格を想像するに足るの逸品なり

鄭成功書幅　一幅　臺南　開山神社　藏
文あり武あり竟に神格あり

鄭成功書軸　一幅　新竹　張開闊氏藏
鄭森と署し成功の若書きなるべし

鄭成功の書軸　一幅　嘉義　劉發氏藏
延平郡王書とあり來歷を詳かにせず

鄭成功書軸　一幅　臺南　黑星東太氏藏
條幅三行物にして延平郡王書とあり

鄭成功書軸　一幅　臺南　小野田三徑氏藏
條幅三行の詩書にして延平郡王とあり

拙堂の鄭成功詩書　一幅　臺北　稻垣孫兵衞氏藏
齊藤拙堂が鄭家三代を楠氏三代の忠義に擬し詠じたる詩書なり
日出日沒將無同。　鄭家靈種出大東。
可知大木卽南木。　三世無散撼北風。

蜀山人鄭成功の詩書　一幅　臺南　津田毅一氏藏
太田南畝が鄭成功を詠ぜし詩にして蜀山人の面目躍如たるものあり
忠義空傳國姓爺。　終看韃靼奪中華。
清風一自掃頭上。　四百餘州墨粟花。

朱舜水書卷　一卷　臺北　杉田英氏藏
明末の學者にして亂を日本に避け水戸家に寄寓し彼の「呼鳴忠臣楠氏之墓」を揮毫せし有名の志士にて鄭成功と水戸家との因縁を結びたるも此人の力多きに居る

陳永華書軸　一幅　臺南　陳鴻鳴氏藏
鄭軍の參軍陳永華の書軸にして出品者は永華の末裔なりと云ふ

黃道周書軸　一幅　臺南　村上玉吉氏藏
黃道周は明末の忠臣にして筆を投じて劍を執り戰に赴き清軍に捕はれ節に死す聞說く其甲場に在りし時書する處の親迹は以て鬼神を泣かしめ火災を禦ぐと云ふ

黃道周書　一幅　臺南　陳明沛氏藏
道周の捕はれて斬に處せられんとするや弟子の飲食を侑むる者あり道周問ふて曰く之れ何物ぞ弟子答へて曰く清茶なりと卽ちこれを棄てゝ曰く明糖は呑むべし清茶は飲むべからずと壯烈此の如し

黃道周の書軸　一幅　臺南　黃啓祥氏藏
明末の忠臣として敬せらる其書に個性あり自から一家をなす始め文に類れ後に武に著はる

武隆阿の書軸　一幅　高雄州岡山郡　超峯寺藏
滿人にして臺灣總鎭たりし武隆阿の書なり

沈斯庵の書軸　一幅　臺南　桐右馬太氏藏
斯庵、沈光文の詩軸なり

何紹基書　對幅　高雄　楠田金之亟氏藏
清朝の大家なり

李玉鳴の書軸　一幅　臺南州新營郡鹽水　陳宗能氏藏
明末の狀元（博士）なり

郭尙先書　一幅　高雄　楠田金之亟氏藏
書を以て清朝に仕へ一代の大家と稱す

郭尙先の聯　二枚　臺南州新營郡鹽水　陳宗能氏藏
欽賜禁筆清代の名人なり

王日新の書軸　一幅　臺南州新營郡鹽水　陳宗能氏藏
明末の忠臣なり

林則徐の書軸　一幅　臺南州新營郡鹽水　陳宗能氏藏
清の兩廣總督にして阿片事件を起し英國と戰ひし史上有名の人なり

陸光宗の書軸　一幅　高雄州岡山郡　超峯寺藏
支那福州涼山の高僧陸光宗の書なり

林光夏の書軸　一幅　高雄州岡山郡　超峯寺藏
清の乾隆年間の人林光夏の書なり

沈天池の書軸　一幅　高雄州岡山郡　超峯寺藏
明の萬曆年間の人沈天池の書なり

張超園書軸　一幅　臺南　梁姓家廟藏
清の張超園の書大字横幅なり

黃檗木庵書軸　一幅　臺南　鹿沼留吉氏藏
一行物の禪語にして以て茶室掛けとすべし

曹謹の書　一幅　高雄州曹公水利組合藏
曹公埤開拓者曹謹の書なり

曹謹書　一幅　臺北　尾崎秀眞氏藏
曹謹字は懷樸初めの名は瑾、河南河内の人嘉慶十二年鄉に擧げられ道光十七年鳳山の知縣となり臺に來る在任中下淡水溪の埤圳を開設

して曹公圳の名を留め頗る令名あり後淡水に轉じ到る處治績多し

謝曦大書　二幅　臺北　岩田鼎氏藏
謝曦は福州の人乾隆中朱景英の臺南に令たるや其幕賓として臺に來り臺灣文化の爲めに貢献する所多し最も書を善くし一時南方第一の名手と稱せらる

謝曦の書軸　一幅　臺南州新營郡鹽水　陳宗能氏藏
謝曦は臺灣知縣朱景英の秘書にして最も大書に巧みなり

楊二酉書　一幅　高雄　楠田金之亟氏藏
乾隆五年前後の巡臺御史にして博學宏才最も文章に巧みなり

林朝英書　一幅　高雄　楠田金之亟氏藏
一峰亭の作品中特に霸氣滿々たるもの

林朝英の書軸　一幅　臺南州新營郡鹽水　陳宗能氏藏
例の得意の竹葉體なり

林朝英書　一對　臺中州員林　桑原政夫氏藏
得意の竹葉體なり

呂西村隸書　一幅　臺北　尾崎秀眞氏藏
呂世宜字は西村厦門の人博學多聞玉屏書院の主講たり後板橋林本源家の聘に應じ臺灣に來り著述頗る多く臺灣文化の爲めに貢献されたる人なり

呂西村行書　四幅　高雄　楠田金之亟氏藏
呂西村の書多しと雖も主として隸篆の二種なるに本書は行體なる點頗る珍とすべし

謝琯樵の書軸　四幅　臺南州新營郡鹽水　陳宗能氏藏
琯樵は詔安の人名は穎蘇、甫め呂西村と共に板橋林家に文事を掌りしが後洪秀全の師團參謀となりし人なり

沈葆禎の書軸　對幅　臺南州新營郡鹽水　陳宗能氏藏
沈葆禎は清國光緒帝の勅使として臺灣を巡視したる欽差大臣なり

沈葆禎書　對幅　高雄　楠田金之亟氏藏
個性ある文字にして殆んど一家をなすの概あり

府學捷報　一軸　臺南　梁瑞圖氏藏
科擧に及第したるものに對する府學よりの登第通報にして赤布に金字を以て捷報と書し卷軸となしあり

曹公圳由來記　四幅　高雄州曹公水利組合藏
曹公圳の由來を漢文にて詳記したるものなり

官制表掛軸　一幅　臺南　關益太郎氏藏
清政府時代の官制表を細字にて認め之れを一幅の掛軸となしたるものなり

祝凱旋文　一幅　臺南　石陽睢氏藏
領臺の當時臺南の人毛銳甫が日清戰爭の結果を祝せんとして此凱旋文を作りしものなり

通事吳鳳の碑　一幅　臺南　津田毅一氏藏
吳鳳字は元輝、清の康熙三八年漳州府平和縣烏石庄に生る康熙六十一年二十四歲にして選ばれて阿里山蕃（ツォオ族テポロ蕃人に付せし漢族の稱）の通事となり感奮蕃人馘首の俗を革めんと欲し身を殺して諷諫其惡風を矯む是れ乾隆三十四年八月十日なり時人之れを壯なりとし廟宇を建立して祭祀せしが年久しく頹廢に歸せしを明治四十二年出品者津田氏の任に嘉義廳長に臨むや深く之れを遺憾とし其重脩を企圖し同四十五年竣工前の民政長官後藤新平伯の撰文を請ひ此建碑を廟畔に行ふ卽ち出品は拓本にあらずして原本なり別に廟の西方約數丁枋樹脚庄汴頭に碑石を建て「吳鳳遺難之地」と題す蓋し吳鳳の事蹟は舊謠に記載を缺き史乘の徵すべきなく僅かに「雲林縣

采訪册」に傳說的記事を存するのみなるも以て世道人心を益すること大なり目下石塚總督の命に依り廟宇の再建を見つゝあるは宜べなりと謂ふべし

北白川大妃殿下御眞筆　一幅　臺南　平田鹿郎氏藏

北白川大妃殿下の御歌を石印版に附し曾て大坂朝日新聞の附錄とせしものなり

漢譯敎育勅語　一幅　臺南　村上玉吉氏藏

明治三十年二月十八日臺灣總督府訓令第十五號を以て訓令せられし敎育勅語の標準漢文譯なり

黃道周書　（扇面額）　臺南州新化　蘇江燈氏藏

黃道周は明の漳浦の人字は幼平石齋と號す明の天啓三年進士となり國史館編脩典、試江南等に歷任し明末福王の時に當つて禮部尙書となり後唐王卽位と共に武英殿大學士となる其の淸兵の來り攻むるや文官を以て晏如たる能はず出でゝ戰ふと雖も武器足らず兵精ならず爲めに屢々利あらず終に衢州に於て淸軍の捕ふる處となる淸帝其人物を惜み洪承疇に命じて降を勸むるも屈せず從容義に就く節烈實に宋の文天祥と後先輝映すと云ふべし

鄭成功贊　一面　臺北　稻垣其外氏藏

前臺灣總督男爵田健次郎氏の筆に係る

畫の部

和蘭人の圖　一幅　臺北　稻垣其外氏藏

筆者不明なるも亞歐堂永田善吉の流末に屬するものならん

沈斯庵赤崁城扁額　一面　臺南　陳明沛氏藏

沈光文、字は文開、斯庵と號す明の福王元年太常博士を授く永曆三年泉州の海口に水上生活をなし颶に逢ふて臺灣に流寓す光文臺に居ること三十餘年荷蘭より鄭氏に至る盛衰悉く目擊す著する處臺灣輿地圖考一卷、草木雜記一卷、流寓考一卷、臺灣賦一卷、文開詩文集三卷邑人臺灣詩社の祖と稱す

鄭王忠勇義旗興。
水陸雄師震海瀛。
嚴疆巍巍義橫夕陽。
東溟夷醜寂無聲。

臺灣蕃社風俗圖　四幅　臺灣總督府博物館藏

乾隆二十五年支那人徐澍の描きたるものにして當時の蕃社風俗を見るべき唯一の資料たり徐澍字は顯澤一字は研籍壺山と號す乾隆中有名なる畫人なり

淸朝臺灣土匪征討圖　一軸　臺灣總督府圖書館藏

乾隆五十一年（天明六年）彰化の匪魁林爽文なる者南鳳山方面に於ける土匪莊大田と呼應し亂を作し一時甚だ猖獗を極め全臺殆ど淪沒せんとせり此に於て翌年十月當時の淸廷は陝甘總督福康安に命じ大軍を率ひ渡臺來討せしめ同年十二月遂に鎭定を見るに至れり本圖は右福康安の征討戰を畫き之に乾隆帝御筆の詩を附載し以て銅版に印せしものなり

林覺の花鳥畫　一幅　高雄　楠田金之亟氏藏

林覺嘉義の人夙に繪畫を以て顯れ臺灣文化を代表し作品全島に普く道光年間の名人なり

鄭板橋の畫軸　一幅　臺南州新營郡鹽水　陳宗能氏藏

乾隆時代の人最も竹を描くに妙を得たり臺灣に其遺筆頗る多し

沈南蘋の畫軸　二幅　臺南州新營郡鹽水　陳宗能氏藏

一は鹿の圖にして一は猫の畫なり淸國一流の畫家にして久しく長崎に居住し子弟を敎養す

百鳥圖　一幅　高雄州岡山郡　超峯寺藏

無落款なるも名手の筆たり約三百年位のものならん

陳番振の畫軸　一幅　高雄州岡山郡　超峯寺藏

淸人陳番振の筆虎の畫なり

丁雲鴨畫軸　一幅　臺南　陳明沛氏藏

南羽老人丁雲鴨の畫なり

倪元璐畫　一幅　臺南　村上玉吉氏藏

倪元璐の小品太湖石の畫なり

蔣庭錫花鳥畫軸　一幅　臺南　鹿沼留吉氏藏

明末淸初の人宮廷の壁畫家として顯るも實は儒臣なり

常健極の畫軸　一幅　臺南　小野田三徑氏藏

唐畫の大幅なり

馬武督大山圖　一幅　臺北　林佛國氏藏

前淸遊擊管官黃德森作の密畫小品山水なり

鄭和海の畫軸　一幅　臺南　郭富氏藏

乾隆年間の作家にして珠砂にて鳳凰を描けるもの

林朝英畫軸　一幅　臺南　富地近思氏藏

一峰亭林朝英筆の梅花大幅なり

周凱山水畫　一幅　臺北　尾崎秀眞氏藏

周凱字は仲禮浙江富陽の人嘉慶十六年進士となり道光十三年臺灣兵

備道に任ぜられ土匪鎮定に功あり書畫を善くし子弟を教養し門下に秀才多し呂西村等其の門下に出づ

王霖　山水及花鳥　二幅　臺北　尾崎秀眞氏藏

王霖春坡居士と稱す同治中淡水に知縣たり畫理に精しく作品世に傳はるもの尠なからず

謝琯樵書　一幅　臺北　林佛國氏藏

謝琯樵名は頴蘇詔安の人中年臺灣に流寓し枋橋の林家に客たり畫を善くし最も闌竹に妙なり髮賊の起るや臺中林文察の參謀として兵勇を募り漳州に轉戰し賊手に斃る

謝琯樵畫軸　一幅　臺南州曾文郡官佃庄　黃妙元氏藏

自畫讃の墨竹なり

謝琯樵畫　三幅對　高雄　楠田金之亟氏藏

二幅は竹一幅は蘭の三幅對にして何れも自畫讃なり

琯樵の畫軸　四幅　臺南州新營郡鹽水　陳宗能氏藏

得意の竹を描く頗る稀觀の作なり

臺灣各時代の主人公　六枚　史料展覽會藏

(1)有史以前、先住民時代約三千年　(2)日本甲螺時代、高砂期約七百年　(3)和蘭占據時代、フチルモサ期三十八年間　(4)鄭氏三代時代、東都、東寧期二十四年間　(5)清國領有時代、臺灣前期二百十二年間　(6)日本領臺後、臺灣後期今三十六年の各主人公を風俗畫にて表現せしもの

臺南城門圖繪　一幅　臺南　津田毅一氏藏

昔時八門を開きありし當時の城門を各寫生風に描寫せしものなり大東門（東安門現存）小東門、大西門（四定門）小西門（現存）大南門（鹽南門現存）小南門、大北門（鎮北門）小北門

鄭成功畫像　一幅　臺南　開山神社藏

素と此の畫像は臺灣神社所藏の原畫に依て那須雅城畫伯謹寫し開山神社に奉納せしものに係る

鄭成功肖像　厦門　曾厚坤氏藏

福建省南安縣石井鄉にある鄭家の祖廟内に保存せられたる畫像にして出品者が特に管理人より讓受けたるものなりと云ふ

ユニウス肖像　一枚　臺灣總督府圖書館藏

ハンブルク畫像　一枚　臺灣總督府圖書館藏

和蘭人風俗畫　男女二枚　臺南　淺井運氏藏

此繪畫の原圖は第十八世紀頃に廣東に於て支那人に依て描かれたる硝子畫にて當時の和蘭人の男女風俗を窺知すべし

ゼーランヂヤ城攻略の圖　一面　臺灣總督府博物館藏

西暦一、六七五年（我延寶三年明永暦二九年）アムステルダム市に於て出版の『等閑に附せられたる臺灣』中より寫せるもの西暦一六六一年（我寛文元年明永暦十五年）明の遺臣鄭成功臺灣の還附を闌人に要求して先ずプロヴィデンヂヤ城を占領し相持する七閏月後ゼーランヂヤ城を攻略す

蘭人と鄭成功談判の圖　一面　臺灣總督府博物館藏

西暦一六七五年（我延寶三年明永暦廿九年）アムステルダム市に於て出版の『等閑に附せられたる臺灣』中より寫せるもの西暦一六六一年（我寛文元年明永暦十五年）明の遺臣鄭成功臺灣の還附を闌人に談判す

蘭人澎湖上陸の圖　一面　臺灣總督府博物館藏

明の天啓二年我寛永元年西暦一五二二年和蘭人澎湖に上陸の光景なり

濱田彌兵衛太守ヌイツに迫るの圖　一枚　臺灣總督府圖書館藏

濱田彌兵衛、弟左衛門、男新藏は其前年主家たる末次平藏の船が福州に渡海したる際和蘭陀人の爲めに貨物金銀を奪取せられたるを聞

き大に憤慨し即ち寛永五戊辰年彼等の根據地なる臺灣安平に押寄せ虚を突いて太守ヌイツに肉迫し其罪を責め贓の賠償をなさしめ剩さへ太守の子及び闌人四十二人を質として長崎に歸り大に日本人の爲めに氣を吐きたり本圖はフアレタイン新舊東印度諸國誌の挿畫を擴大したるものにして闌人の手に描かれたる彌兵衛討入の圖なり

濱田彌兵衛武勇の圖　一幅　臺灣總督府圖書館藏

原圖は濱田彌兵衛の後裔たる長崎縣大村町濱田勘五郎氏所藏に係り昭和四年大阪に於ける開國文化展覽會に出品したるを復寫し主催者大阪朝日新聞社より圖書館に寄贈したるものなり

濱田彌兵衛討入日本畫　一幅　臺灣總督府圖書館藏

原圖は縱三尺八寸横五尺三寸の大作にて佐藤正持之れを圖し野之口隆正風詠をなしたるを平塚蕉窓縮圖し加部殿夫風詠を縮寫したる淡彩の珍畫なり

詠濱田彌兵衛事歌並短歌

かたりつきいひつきけらく、長崎にありける人の、梓弓末次の子か、おほやけのみゆるしたはり、ふねつくりかこのりくませ、わた中に船のりいたし、日のいるやえみしのくにゝ、ものがへにゆきける時に、おらんたのえみしあたしつ、かへり來てかこかたらへは、末次いきかみいかりて、八百日行濱田にのらく、なをきてをはなし、なをおきてくまずらをはなし、とくゆきてことなしをへよ、くにのためなおこたりそと、あさひらきいたしやりけり、おらんたのえみしよりねる、たかさこのしまにいたりて、ものかふるあき人なして、うかれらひちかつきよりて、せねらるをとりてひしきて、ひもかたなかくしぬきもち、そのむねにさしあてたけひ、あたみたるとらかほゆると、みな人のおひゆるまてに、こゑたかくのころえみしら、みさけつゝのゝしりけらく、さはへなすたちさわきては、このえみしさしころしてん、日の本は神のみくにそわが友はたけかるものそ、ことさへくいましえみしに、つたなくもはらみせらえて、いかてかももたしをへき、いかてかもたゝにやすきん、あたいまむくいつへしと、まつふさにかたりたりけり、せれらるいおそりかしこみ、わをなころしたまひそ、ふたつなき眞な子いたさん、わをそゆるしたひねとまのしたになみたかきたり、かなしみてなけきしからに、その子とりかへりてありしを、わか船にあたせしものをつみなひてうはひしものを、のこりなくふねにつみいれ、禮しりのものさへそへて、ねもころにこひけるからに、その子をらかへしやりけり、わかくにのみいつしめしゝ、濱田はもくにのまめひと、とつくにのふみよみふけり、外國をおそりかしこむ、はかせらはくにのつみ人、しかにはあらしか

反歌

八百日行濱田たけをは、くにのためえみしとらへて、ことなしをへつ

唐人蛇躍の圖　一枚　臺北　稻垣其外氏藏

長崎版畫龍燈の圖なり

和蘭貢象の圖　一枚　臺北　稻垣其外氏藏

長崎版畫和蘭陀船連渡り象の圖なり

唐船の圖　一枚　臺北　稻垣其外氏藏

長崎版畫唐船の圖にして日本より唐土への航海里程を記入せり

御朱印船繪馬　一枚　臺北　稻垣其外氏藏

國寶扁額末吉船の圖にして長崎清水寺の所藏に係る

長崎版畫　一枚　臺北　稻垣其外氏藏

紅毛人、大清人、魯西亞人の風俗を描きし文錦堂版なり

國姓爺芝居繪　二枚　東京　日比谷圖書館藏

魁見立十翫豐國畫

國姓爺芝居繪　一枚　東京　日比谷圖書館藏

國姓爺合戰江戸趣味錦繪にして豐國畫文化十三年八月中村座興行のもの

國姓爺芝居繪　四枚　東京　日比谷圖書館藏

（和藤内）國周の畫明治五年十月守田座興行のもの

國姓爺芝居繪・　二枚　東京　日比谷圖書館藏
國姓爺合戰國周畫

國姓爺芝居繪　一枚　東京　日比谷圖書館藏
國姓爺合戰國周畫明治十六年新富座興行のもの

國姓爺芝居繪　一枚　東京　日比谷圖書館藏
國姓爺合戰江戸趣味錦繪にして國久畫文久三年一月中村座興行のもの

國姓爺芝居繪　一枚　東京　日比谷圖書館藏
國姓爺合戰江戸趣味錦繪にして國貞畫天保十年三月河原崎座興行のもの

國姓爺芝居繪　一枚　東京　日比谷圖書館藏
國姓爺合戰江戸趣味錦繪にして國芳畫天保十年三月河原崎座興行のもの

羽左衛門の奉納額　一面　開山神社藏
市村羽左衛門大正二年五月渡臺の際記念として開山神社の繪馬堂に奉納したるものなり

國姓爺合戰繪番附　五枚　臺北　宮嶋龍華氏藏
明治三十三年十一月東京歌舞伎座に於ける團菊晩年の興行にして藝題は唐土稱代の甘輝、日本無雙の和藤内、國姓爺合戰にて甘輝には九代目市川團十郎、和藤内には五代目尾上菊五郎、錦祥女には中村福助（今の歌右衛門）之れに扮したり又鳥居派の芝居繪は南陵藤原清忠の筆なり

國姓爺合戰錦繪　三枚　臺北　宮嶋龍華氏藏
初代一陽齋歌川豐國の筆に係り延平王國姓爺、伍將軍甘輝、同妻の錦彰女三枚の江戸錦繪なり

繪葉書と納札　三枚　臺北　宮嶋龍華氏藏
市川羽左衛門の國姓爺繪葉書　一枚
國姓爺を描ける千社札　二枚

日清戰爭錦繪　三枚續五組　臺北　宮嶋龍華氏藏
一、大元帥陛下東京御還幸　月耕筆
二、日清講和談判之圖　清親筆
三、臺北附近奮戰之圖　年英筆
四、三角湧の雜戰田中石松　年方筆
五、新竹附近戰鬪之圖　清親筆

拓本の部

諡號忠節の額　一枚　臺南　開山神社藏
光緒元年二月禮部移文鄭成功に對する清帝諡號の扁額にして開山神社の社頭に揭ぐ
忠節　危身奉上曰忠
艱危莫奪曰節

專祠勅許の額　一枚　臺南　開山神社藏
光緒元年正月十日清帝の上諭文にして開山神社の社頭に扁額として揭ぐ文中「曾於康熙年間奉旨准在南安地方建祠」の句あり

沈葆楨の奏文　一枚　臺南　開山神社藏
清の同治十三年十年沈葆楨の奏文にして今は扁額と爲し開山神社の社頭に揭ぐ文中「奏爲明季遺臣、臺陽初祖、生而忠正、歿而英靈、懇豫賜諡建祠、以順輿情、以明大義事」の句あり

皇明樂齊鄭公碑　一枚　臺北　西澤義徵氏藏
此の碑は數年前福建省安海に於て土匪が鄭氏の墳墓を發掘したる際取出したる墓碑にして靈柩と共に地中に埋沒せられありたるものに係る目下安海縣廳に於て保管中のものなりと云ふ

□□樂齊鄭公暨妣郭氏誌銘

樂齊公經七世祖也暨妣郭氏葬在南邑康店柑欖山之原坐己向亥長支伯祖悅齊公祔于左三支伯祖妣王氏祔于右
支祖于野公暨祖妣許氏支叔祖深江公暨郭氏俱祔葬于前五傳而生
大父大父以銘戴
進爵平國公世稱人傑者咸羨□□及胡氣橫熾福京不守
先王悲神州陸沈首興義擧駐□兩島矢志恢復旋族所指虜首授首丁酉歲
醜虜智窮力竭遂倡發塚之謀無何而
□王賓天經嗣守東寧以圖大擧不得省覲幾二十年歲甲寅經統大師底定
泉章始知
□□公暨深江公四柩已被發去惟
樂齊公暨妣郭氏及悅齊公三支伯祖妣王氏存焉嗚呼爲國効忠而使先人骸骨不獲享杯土之安孫□□重終天莫贖然爲清廷擧義國□忘家大義所關不得不如是者想先人亦含笑九泉而無憾也于是命官剋日就其墳而封之用是□識
永曆歲次乙卯孟夏穀旦　支孫經撰勒

鄭氏祔葬碑　一枚　臺北　西澤義徵氏藏
臺灣清領に歸して後十七年卽ち康熙三十九年に至つて聖祖皇帝鄭成功の苦節を嘉し當時蟄伏中の漢軍公鄭克塽の請を許し鄉里福建省安南縣石井康店鄉に父祖を歸葬せしむ卽ち臺灣に於ける塋域を撤し舊墓碑（前揭）を地中に埋沒し新に鄉里に塋域を開く墓誌銘左の如し

鄭氏祔葬祖父墓誌銘

王父諱成功、字明儀、號大木、姓鄭氏、先世自光州固始縣入閩、居漳居粵之潮、至始祖隱石公、乃移居於泉之南安縣楊子山下石井鄉、遂世爲南安人、歌傳至八世祖樂齊公、樂齊公傳于野公、于野公傳西庭公、西庭公傳象庭公、象庭公傳曾大父飛黃公、實生王父、曾大父丈夫子六、王父居長、再傳、丈夫子、父又居長、王父生、於甲子年七月十四日辰時、卒於壬寅年五月初八日未時、享年三十有九、故明末賜國姓封延平王率衆取海外臺灣開闢疆土、設立府縣居之、父諱經字式天、號賢之嗣封延平王、生於壬午年十月初二日未時、卒於辛酉年正月二十八日寅時、享年四十同王父俱葬臺灣歲癸亥、不孝克塽等擧國內附、翌春入京、蒙恩封漢軍公一念臺灣遠隔深海、祭掃維艱、具疏陳情、乞遷葬內地、奉特旨恩准、爰令弟克壆假回籠事、以康熙三十八年五月二十二日卯時、附葬於南安縣康店、鄉樂齊公墓內、拜曾大父靈主、曾祖母翁、祖母董、母唐柩附焉、翁曾祖母於壬寅年八月十八日未時卒於丙戌年十一月三十日巳時享年四十有五、祖母董係明進士禮部侍郎董諱颺光公胞姪女、生於癸亥年九月二十四日酉時卒於辛酉年六月十六日巳時、享年五十有九、母唐爲明進士兵部尚書唐諱顯悅公孫女、生於壬午年十二月十二日未時、卒於丙午年七月二十四日丑時、享年二十有五、王父生平事蹟、先卜葬臺灣、已悉前誌並弟叙其生卒年月世系子姓、納詣幽壙、用示後之子孫、王父子十、長卽吾父娶母唐氏先卒、次寬娶林氏、次明娶林氏、次睿次智娶洪氏、次寬娶林氏、次裕娶王氏、次溫娶劉氏、次柔娶洪氏、次發、女四、長適柯諱萇、次適甘諱恤煜、次適洪諱允中、次適明魯王世子朱諱弘桓、父男七、不孝克塽居長娶馮氏出氏、次克壆娶許氏次克均娶柯氏、次克坡娶馮氏、次克商娶趙氏、次克坏娶張氏、次克

塙娶劉氏、女六、長適黃諱肇隆、次適黃諱肇燦、次適陳諱逢泰、次適甘諱純仁、次適趙諱繼麟、次未配、自聰出者子一、克垣娶李氏、女三、長適陳、次適柯、次適洪、明無出、以裕之子爲嗣、未娶、睿早夭、自智出者子一、克璋娶洪氏、自寛出者子一、克培娶朱氏、自裕出者子二、長克崇未聘、次克俊出繼與明爲嗣、女一、未配、自溫出者子三、長秉模、次克圭、出繼與發爲嗣、次克傑、俱未聘、女一未配、自柔出者子一、克璧未聘、女二、長適洪、次適許、發亦早夭以溫之子子圭爲嗣、不孝克瑛子三、長安世、次安邦、次安國 俱未聘、女二、未配、克壂女二、未配、克均、子一、安甸、未聘、克拔女一、未配、餘未艾云、山坐巽向乾、兼己亥庚辰庚戌分金、在南安縣三十八都、土名康店鄉、銘曰、鴻漸之麓、佳成鬱蒼、山環水繞、同抱崇岡、惟予先世靈魄是藏、迨及父祖、遠葬殊方、卜遷叶吉歸此故鄉、祖孫共室、父子同堂、渙而得萃、于禮爲常、聯綿遺澤、浩蕩恩光、長依北闕、駿發其祥、後人守之、永世不忘

襄事承重孫　克瑛
　　溫
孤哀子裕同稽　穎
　　柔
期服孫克壂等同勒石

平戸島千里濱鄭氏遺碑並銘及碑陰記　拓本二軸　臺灣總督府圖書舘藏

長崎縣北松浦郡千里濱にあり曩に藩公松浦乾齋公の旨を承け草したる朝川善庵の碑文につき更に公の依囑により藩老葉山鎧軒が改作せしものに係る

鄭二公子の墓　一枚　臺南　開山神社藏

大正十三年六月臺灣詩薈誌第五號雜錄欄內に連雅堂氏の臺南古跡誌あり其一項に兩公子墓とし兩公子墓在仁和里鞍子莊、碑大三尺、上書皇明聖之省之二公子墓、其南百餘武有庵及塔、在林莽中、均荒廢余擬修之、按聖之名明（聖之を明とせしは睿の誤ならん）延平第三子（明の字は爕之にして聖之は第四子睿の字なり）省之名發（發の字は奮之なるを省之を發と斷ぜしは寧ろ一見識なり）第十子、均早世無出、故留甕東都、以て須からく一考を要すべし

曾蔡二姬の墓　一枚　臺南　開山神社藏

大正十三年六月發行臺灣詩薈誌第五號雜錄欄內に連雅堂氏の臺南古跡誌あり其一項に陳蔡二姬墓（陳は曾の誤りならん）とし藩府陳蔡二姬之墓、在寧南門外師爺塚前、地名蛇子穴、石碣尚存、考之誌乘均無記載、其爲延平之姬歟、抑經之姬歟、と一考を要すべきなり

陳永華の墓　一枚　臺南　開山神社藏

鄭軍の參軍陳永華夫妻の墓は文化三百年記念會開催に先ち其領地たりし臺南州下曾文郡六甲庄の丘上に發見し特に官に於て保存工事を施し永く陳姓に屬し祭祀することゝなれり

定國將軍の墓　一枚　臺南　開山神社藏

臺南市小東門外瑤竹林庄に在る臺灣皇明定國將軍施公之墓は其果して何人の墓なるやを詳かにせず之れを施琅の末裔なりと云ふ人々に諮すに施琅の伯父なるべしと云ふ今海要輯要を閱するに明の左先鋒施琅來り降るの條下に「成功令再募兵、許授前鋒鎭、偶有親丁曾德逃於成功營、琅擒治之、成功馳令勿殺、琅竟殺之、成功大怒、捕琅幷逮其家口、琅乘間逸去、密渡安平、依鄭芝豹、成功收其父大宣、及其弟援勦左鎭施顯殺之」とあるに徵し定國將軍は施顯なるべしと斷ず即ち臺灣外記にも幾分其事實を認むる點なきにあらず兎に角刑を一身に止めず父と弟とを併せ殺すは酷に過ぎたりとなし成功後に其墓を造ることを聽許したりと云ふにあり姑く疑ひを存して世の識者に問ふ

熟番の墓標　一枚　臺南州新營郡守　八丁春太郎氏藏

臺南州新營郡番社庄に在る熟番人の墓標にして如何に支那的教化の番人の間に行はれしかを識るに足る

乾隆十七年季冬吉日
番　顯考　八里分公暨
皇清　妣　秏　儉含彌孺人墓
社
天厘　斗六　思通　含巴
孝男　大哈　斗萬　孫　拾阿　下巴　同誌
思猫　女下巴　含彌　如來

琉球藩民の墓碑　一枚　臺北　尾崎秀眞氏藏

高雄州恆春四重溪に於ける琉球藩民の墓の拓本なり

李茂春の墓　一枚　臺南　開山神社藏

臺灣府誌、臺灣縣誌等に明記せられて而かも湮滅せること二百年今回發見せられたるものなり茂春は開山神社の神主に認むるも其開基なるの點に於て墓碑は爾後法華寺に附屬することゝなれり

李茂春塋域保存の碑　一枚　史料展覽會藏

臺南大南門外鞍仔に在る李茂春の墓の傍らに嘉慶五年十一月茂春の裔孫等が建設せし附屬碑なり文は猾徒の塋域を毀壞し墓地の石材其他を竊取し去るを戒め茂春の人物と保存すべき理由を警告したるものにて今回茂春の墓と共に發見されたるものに係る

特調福建臺灣府臺灣縣正堂加三級紀錄四次周　爲懇恩給　示
勒禁侵佔事據生員李夢瓊稅貢李宗寅耆老李圭璋具呈詞稱緣瓊等祖李茂春係漳州府龍溪縣人登明末鄉薦居臺永康里築夢蝶園一處讀書其中法華寺地卽園故基爲人富著述樂道義時稱曰李菩薩逝後卜葬南城外新昌里經蒙
巡憲御史六梁　及　海防憲孫　賦詩題贈建設神位奉祀法華寺左生平遺蹟墳墓坐址詳載臺灣府縣誌中確據但瓊等祖之葬於臺也百有餘年矣時淳旣遠覬覦生邇來多有豪强等輩狡圖侵佔或乘寅夜而盜葬或拾瓦棺以偷埋禍端波起力阻靡寧切思瓊等祖名列賢書蹟載紀傳遺踪疊蒙　憲賞杯生忍令橫傷與其臨時角較勤費天地曷若未雨綢繆懇請嚴未謹將誌內所載事蹟詩序碑記抄粘年電恩准給示以便勒石寺據地除批示外合行給示曉諭爲此示仰闔邑里庄軍民佮庶人等知悉嗣後毋許在於該處前後左右希圖侵佔或盜葬　理漸生覬覦如有違犯不遵許卽指名稟究決不貸各宜凜遵毋違特示
嘉慶伍年拾壹月　日給

裔孫
和記　誠寔　寛來　赫定　赫虎　救光
赫祖　赫希　永成　赫江　赫祿　永絨
標生　悟使　邦基　崑山
永尚　赫佐　永吟　成正
光翰　應望　永川　瑞金　永竹　三江
永清　赫畝　永標　端昭
裕義　德章　眞是　赫惠　君正　熊羆
赫騰　桓猝　赫純　赫秋

董事孫　夢瓊　宗寅　同立石

夢蝶園の碑　一枚　史料展覽會藏

鄭藩の參軍陳永華が記したる夢蝶園の碑は今尙ほ臺南法華寺の壁間に在り卽ち法華寺は昔李茂春棲居せし夢蝶園の遺址なるを以て特に此の碑を存する所以なり

夢蝶園記

昔莊周爲漆園吏夢而化爲胡蝶栩栩然蝶也人皆謂莊生善寢余獨謂不然夫心閒則意適達生可以觀化故處山林而不寂入朝市而不夢醒何必不夢夢何必不蝶哉吾友正靑善寢而喜莊氏書晩年能自解脫擇地于州治之北東茅闢圃臨流而坐日與二三小童植蔬種竹滋藥弄卉卜處其中而求名于余夫正靑曠者也其胸懷瀟灑無物者也無物則無不物故雖郊邑煙火之所比隣遊客樵夫之所闕咽而翛然自遠竹籬茅舍若在世外閒花野草時供枕席則君眞栩然蝶矣不夢夢也夢尤夢也余莫其景而未能自脫且羨君之先得因名其室曰夢蝶處而爲文記之
嘉慶五年裔孫李夢瓊宗寅等蒙府憲吳准將鳳邑王宋暨前府憲蔣原建陳永華所撰碑記重給勒石

鴻指園の記　一枚　史料展覽會藏

明末鄭成功本島に據りし以來建設して第となせし四合亭も其後荒廢に歸し居りしを清の乾隆三十年時の知府蔣允焄修復を加へ鴻指園と命名し園遊の處に充つ記は卽ち允焄の撰書なり卽ち開山神社の鄭成功遺愛の梅の如きも同所にありしを移し植へたるなりと

鴻指園記（臺南憲兵隊所在）

署西偏廣可數畝古榕三株蟠根屈曲志稱榕梁枝葉展翠乂稱榕屛舊四合亭址也歲久且蕪予就而新之芟荒塗墍深沼護花欄砌曲徑別作堂宇以爲游觀中列三楹盛宴會也左縛小亭備游憩也右架層榭憑眺望也夫古人流連景物偶然寄之去無所貪來無所戀漢水峴山陵谷變遷歐陽公嘗譏杜預羊祜汲汲拾名是不若蘇氏雪泥鴻指之說爲足盡其義也予臺陽守土幾歷兩載思海外風景與吏民相安百堵皆作成拾不日所謂偶然而晉亦爲其可留者耳果何有哉園旣成取以額之因書其徽指於此
乾隆乙酉仲春之望貴陽蔣允焄識

國姓井記　一枚　臺中州大甲郡外埔庄役場藏

臺中州大甲郡大甲街東方鐵砧山の山腹にあり山形三方は絕壁にして南方纔に緩なる要害の地なり鄭成功此の山に據り水量乏しく且つ水

賀不亘なるを憂ひ劍を拔きて地下に穿ちしに渾々として甘泉湧出したりと傳られ今尙は瘴疫治療の靈水と稱し祠に賽し授水を乞ふ者多し然れども該地に遠征せしは劉國軒にして鄭成功にあらずと云ふ說あり

國姓井紀

臺北府新竹縣大甲鐵站山國姓井相傳鄭成功駐兵處被困乏水以劍插地
得甘泉大旱不涸年年清明前有群鷹自鳳山來聚哭不至疲憊不止或云兵
魂固結而成山麓田螺斷尾能活謂當時螺売棄置者均著之異儀暫經其地
思古蹟不可磨滅爰集同人建廟立碑爲紀以誌久遠云
光緒乙酉年天中令節
余寵　盛鵬程　張稱材
林鏘　郭鏡清　謝鏡原　同立

蕃社庄石碑　二枚　臺南州新營郡役所藏

臺南州新營郡白川庄附近蕃社庄所在の石碑拓本にして昔時淸政府が同地方居住の蕃人に示せる諭達を刻せるもの一は乾隆十七年一は同じく四十四年設立に係り本史料展を機會に拠めて世に顯れたるものなり（內一枚は文字不明なるを以て略す）

特授臺灣北路理番分府加五級紀錄十次定□□爲經蒙丈懇示竪碑安業
署
目斗寧丈哈番細林啓生鄭子和等呈□□啓等番佃耕種社番田園俱照
督憲行淸之案每甲旱田斷貼番租粟三石二斗園定租一石六斗遵例配給
番租不敢短欠升□□玆幸
仁憲奉遵簽飭查等事一件蒙
布政使司李□飭行詣丈啓等佃耕社番田園並無隱匿且無欠租等弊已蒙
給册　掌□租□□註銷誠見天高地厚之恩但恐社番後來日久弊生啓等
受害靡止仰懇
仁憲全恩特啓等遵丈各佃示諭安業竪碑永遠定耕以杜後來弊端恩同高
厚等情前來除批示□□□
哆咯嘓大武壠派二社通土社番佃戶人等知悉泉等所有典耕社番田園務
遵照丈册完納□□
社番田主亦不得聽唆使行再搭滋擾冬收已租其耕佃社番田園配租□□
罪斷不姑寬各宜凜遵毋違須碑
乾隆四十四年八月　日給
（氏名省略）

烏樹斷葛藤の碑　一枚　臺南州新營郡守　八丁春太郎氏藏

高雄州東港郡東港街烏樹にあり清の乾隆二十六年正月三日附烏樹魚塭の塭丁等が漁利の爲め水田を害するを以て葛藤絕へず仍て鳳山知縣に申請して判決を乞へる告諭文の一なり

特調福建臺灣府鳳山縣正堂加三級紀錄五次王爲懇恩示禁以斷葛藤事
本年四月二十五日准
福建臺灣水師協鎭府裘　移開前事本年三月十三日據港東里業戶柯其
萃呈稱萃新庄田業與大潭憲塭大岸毗連岸邊有小溝一條係萃田中淺水
舊道從前自鑿因前年塭丁貧圖溝中採捕漁利越界擾害竟將溝尾壓行堵
截田禾每被淹沒閣庄顚連萬慘由此許控不體玆蒙　憲臺親臨查勘洞悉
截害情弊諭令陡門撤去將溝付萃掌管疏通誠見鴻慈下逮但思此條水溝
開鑿已久祇因塭丁貧圖捕採遂致堵塞今雖蒙飭付萃掌管若使塭丁仍前
越捕終是截塞不休賠害無底玆萃情愿於歷年應輸糗下粟一百石折紋銀
四十兩之外愿就塭中餉項內再代納紋銀四十兩永以爲例嗣後永禁塭丁
不許在萃溝中捕待庶葛藤永斷釁端悉泯叩乞恩准給示嚴禁併移鳳邑主
給示會禁俾塭丁遵照塭岸爲界不敢再行滋害沾恩無既等情據此隨卽諭
令東港汎把總沈國柱查勘去後續據覆稱遵查本塭岸外水溝原係業戶沈
元榮自備工資疏鑿以爲田中消水之道由來已久似應定歸業戶界內付其
掌管疏通洪水不致淹浸田木並無妨碍本塭但查溝中所產魚蝦歷來俱係
塭丁捕採玆旣稟請勤石定界示禁越捕則塭丁歲獲漁利未免稍減業戶柯
其萃情愿每年封巾貼塭丁代納紋庫銀四十兩以補減少漁利按季完激似
屬可行併取業戶遵依激覆是否妥協伏乞察奪等情到協據此查此溝果係
前墾戶枕元榮用資自鑿以爲田中淺水之道與本塭無涉亦無妨碍情弊應
如該業戶所請毋詳塭丁仍在溝中越界採捕致有擾害該佃丁亦不得赴塭
倫採致玆事端除出示嚴飭塭佃二丁遵照外合就照遠爲此照會貴　縣請
煩查照立案仍祈一體會禁施行等因到縣據此爲查業戶柯其萃田邊有水
溝一條係前墾戶沈元榮出資自鑿因與塭岸毗連塭丁見溝內產有魚蝦嗜
利捕採將水尾堵截貽害田木玆柯其萃情愿每年貼納塭餉銀四十兩將溝
仍舊歸其掌管呈請給示禁止採捕以杜擾害以斷葛藤殊於塭餉課田均有
裨益合行示禁爲此示仰塭丁佃民人等知悉嗣後務宜遵照斷定界限管業
毋違塭丁喩越溝內採捕倘敢故違許佃民立郡指稟以憑按法詳究該佃民
亦不得藉端滋事致干察處各宜凜遵毋違特示
乾隆二十六年正月初三日給

烏樹斷葛藤の碑　一枚　臺南州新營郡守　八丁春太郎氏藏

烏樹魚塭は臺灣魚塭中の最古のものにして殆んど三百年の歷史を有

するものなるが此碑も漁夫と農夫との斷葛藤の碑にして何れも舊誌等に記載を缺き本史料展收穫物として珍重すべく清の乾隆二十六年四月二十五日附の告諭文なり

前侍衛鎭守福建臺灣水師等處地方副總兵官帶紀錄三次裘　爲懇恩嚴
□以斷葛藤事本年三月十三日據港東里業戶柯其萃呈稱萃新庄田業與
大潭憲塭大岸毗連岸邊有小溝一條係萃田中洩水舊道從前自鑿因前年
塭丁貧圖溝中採捕漁利越界擾害竟將溝尾壓行堵截田禾每被淹沒閣庄
頭連萬慘由此許控不休玆蒙憲臺親臨查勘洞悉截害情弊諭令陡門撤去
將溝付萃掌管疏通誠見鴻慈下逮但思此條水溝開鑿已久祇因塭丁貧圖
捕採遂致堵塞今雖蒙飭付萃掌管若使塭丁仍前越捕終是截塞不休貽害
無底玆萃情愿于歷年應輸糗下粟壹百石折紋銀四十兩之外愿就塭中餉
項內代納紋銀四十兩永以爲例嗣後永禁塭丁不許在萃溝中捕採庶葛藤
永斷寡端悉泯叩乞恩准給示嚴禁併移鳳邑主給示會禁俾塭丁遵照塭岸
爲界不敢再行滋害沾恩無既等情據此隨卽諭令東港汎把總沈國柱查勘
嗣後玆據查明此溝果係前墾戶沈元榮用資自鑿以爲田中消水之道與本
塭□□亦無妨碍情弊除移　縣給示會禁外合行出示嚴禁爲此示仰談地
汎防塭丁佃民人等知悉嗣後塭丁務須連照塭界補保不許偷越岸外在柯
其萃溝中混株致生釁端談佃民亦不得籍端越塭偷採滋事致于重告各宜
凜遵毋違特示
乾隆貳十六年四月廿五日給

孔子聖像　一枚　臺南　村上玉吉氏藏

本聖像拓本は支那山東省曲阜の聖廟のもの卽ち吳道子畫の原本に依り摸刻したるものにして臺南孔子廟文昌閣內所藏石印より摺刷す

臺灣府學全圖　拓本　臺灣總督府圖書館藏

碑は臺南市幸町孔子廟內明倫堂の內にあり府學の創始は遠く鄭氏時代に其端を發し乃ち永曆二十年參軍陳永華の諸議に基き鄭經の剏建したる聖廟及明倫堂の舊基に就き康熙二十四年時の分巡道周昌等の起工創建に係り爾來二百四十有餘年其間幾多の增修改變を見大正六年更に改築を行ひ今日の聖廟となれり

萬年亭衢碑　一枚　臺中州竹山郡鹿谷庄役場藏

臺中州竹山郡鹿谷庄大水堀海拔四千五百尺の山頂に在り中路統領前臺灣總鎭吳光亮は稀世の俊傑にして事蹟竹山、新高、南投の三郡に普く又能く兇蕃を綏撫し吳大人の名今尙は彼等の間に傳へらる本碑は光緒二年竹山より鹿谷、ナマカバン、八通關を經て花蓮港廳玉里に通ずる橫斷道路開鑿成功の記念碑にして光亮の自筆を刻したるものなり

八通關開道碑　一枚　臺南　田代忠作氏藏

光緒二年吳光亮の開通せし橫斷八通關道路の記念碑の一にして「山通大海」の四大字の拓本なり

新城開路碑　一枚　臺北　尾崎秀眞氏藏

臺北州蘇澳郡大南澳に遺存する羅大春開路碑なり卽ち蘇澳より太魯閣蕃地を經東海岸新城に通ずる軍站なり

開路紀念碑

大清同治十三年夏六月丙戌福建陸路提督黔中羅大春欽奉
諭旨巡防彙朔開禁撫番秋七月癸丑師次蘇澳八月辛未達大南澳初臺澎
道江有右夏獻綸以千人伐木通道自蘇澳及東澳九月戊午還郡東澳以往
萬山茸然亘古未薙兇蕃伏戎大爲民害大春徵募濟師斧之斤之階之級之
閘之堡之又從而以番說番招撫之於戲軍士縋幽鑿險宿瘴食雾疫癘不侵
道路以闢朝廷威福也將校用命也不可不紀囑冪次三衢范應祥選文三應
道本書丹龍眠方宗齊安高士俊選石勒諸大南澳道左黔中馮安國臨造

新城開路碑　一枚　臺北　尾崎秀眞氏藏

羅大春の開路碑の一にして新城に建設したるものに係る

新城開路碑

新城、面海負山、居東荒之極東、民蕃雜處解耕種、通人理、尙甘嗎然、有內附心、自大南澳遵海而南、踰大濁水大小清水、天作高山、我軍荒之、波阻今谿、我軍梁之、十月十三日壬子、師次城東、大春喜聲敎之已通、而與情之咸慰也、於是手書、大清同治十三年歲在甲戌小春之月福建陸路提督功加一等黔中羅大春記參玉屛李得陞勒石

新城開路里程碑　一枚　臺北　尾崎秀眞氏藏

臺北州蘇澳郡蘇澳に遺存する羅大春開路里程碑なり

臺灣府城の碑　一枚　史料展覽會藏

雍正元年（享保八年）臺灣知縣周鍾瑄木柵を建て、城とし雍正十一年（享保十八年）木柵の外に更に莿竹を植え乾隆五十三年（天明八年）福康安始めて土城を築き光緒元年（明治八年）沈葆楨磚石を以て補修す其形狀三方恰も弧をなし一方弦をなすを以て半月城の名あり碑は元と大西門側の城壁にありしも今は大南門側に移す卽ち臺灣文化三百年記念會を機會とし永く保存する趣旨に於て依存す

改建臺灣府城碑記　知府　楊廷理

古來郡邑之設城郭、在國中則譏啓閉以待四方之敝、在邊境則嚴鎖鑰以資寇盜之防、凡民之奠其居樂其業、足以長恃久安、而無不依賴焉我朝自京師以至荒徼、一郡一邑、莫不臨江踐華因其地飛樓雉堞壯其觀、外則有郭、下則有池、制之而盡善、費之而不惜、其使民有安居之休、吏有盤詰之治、何其盛歟、臺郡越在東南大海中、自前代不隷華夏、里居僻陋、村落參差、卽鄭氏竊據、亦非中國規制、是以有可設之險、無捍衞之固、迨歸入版圖、其始也大吏以瀕海沙淤不宜環築又以時有地震雖築之亦不固因周植木柵爲垣、而繞以刺竹隨時修補、以爲守禦之防蓋百有餘年矣丙午歲逆匪滋事猝然而至、各屬無所備、城市爲墟惟郡城以居民稠密而木柵完固、乃得統率兵民、力爲保護、始獲安全誠海外天險之區也、夫殊域形勝、所關區區竹木誠不足以恃爲屛翰、而況今昔異其宜、土地殊其利、一勞而永逸、不得不酌其精焉、於是大將軍協辨大學士嘉勇公福公康安工部侍郎正白旗滿洲副都統公中佐領德公成、兵部侍郎巡撫福建提督軍務徐公嗣曾、相時度勢條陳善後事宜、首以改築土城入告、奉旨愈允、爰發帑藏以速成、舊制七門缺其西一面、今添設券臺一、計袤延二千五百二十餘丈、估工程十有二萬四千六十餘兩、自戊申仲冬至庚戌季夏、凡城樓城架城門以及卡房馬道水洞之屬俱告竣、所謂遠邇量事期計徒庸餱糧以令役實加匪勉焉今則烟火萬家、猶之內郡、襃裳乇止者、爰樂閭閻之休、予忝守茲土、安敢不仰體聖上南顧之心、更化其獷悍之氣、有屛垣之衞無不虞之來乎、後之君子、亦望藏之以恕御之以寬、爲保障勿爲繭絲二三子遺、庶有豸焉、不然者雖金城湯池究何補於黎庶蒼生之治哉、是役也始終襄事、日身徧于舂鍤之閒、不辭勞瘁者惟原任臺灣太守萬公綿前、前署馬巷別駕張公鼎粤東孝廉陳超蘇州上舍陳維修、及郡人吳天河、陳必琛、林廷佐、韓高翔、戴鳳群、林朝英、黃國樑、郭友直、程拔魁、杜朝聘、林九勘、因記城工之始末、並誌於石

恒春告示碑　一枚　高雄州恒春庄役場藏

光緒二年清國政府恒春城を築造し衙門を開設するや當局西門入口に告示碑を建設し人民に論達したるもの

兵部侍郎兼都察院右副都御史巡撫福建等處地方提督軍務兼理糧餉丁嚴禁自盡圖賴以重民命事照得盡人命律無抵法而小民愚蠢動輒輕生其親屬聽人挑唆無不砌詞混控入意在求財兼圖洩忿本部院蒞閩以來查核各屬命案此等居多而地方官不諒名勘審任憑戶親羅織多人拘到案鄉曲小戸一經蔓引耶牽若不蕩產傾家則必致庾斃囹圄而後已公祖耶父臺耶祖父之待子孫固是耶除嚴飭各府廳州縣如此後有將自盡命案濫行差拘良民以致無辜受累者立卽分別嚴參外合符剴切聯論爲此示論所屬軍民人等知悉汝等須知人命至重既死不可復生公論難誣千慮難逃一實況父子夫婦兄弟皆人道之大經乃死而因以爲利是雖靦然人面實則禽獸不如本部院現經嚴加通飭凡自盡命案均限一月審結倘有聳命自盡誣報圖賴等情卽嚴究主使棍徒一併從重治罪則爾等縱或自拚一死無不能貽害他人其親屬雖欲實情不過自取罪戾亦無人肯以賄和是不不但死者枉逆性命不值一錢卽生者因此又犯刑章更屬無益有損本人適以自害徒爲讎人所快復何利之可圖何忿之能洩乎試爲反覆籌思與其枉死無償聽他人之人室蕩若餘生受冀餉燒於將來且本部院案經嚴禁書差留索爾等如有身受重寃儘可涯情控訴並不須花費分毫名逐條開列於後

一子孫將祖父母父母屍身圖賴人者杖一百徒三年期親尊長杖八十徒二年吏將在忽圖輕人者罪同功總遞減一等告官者以誣（告反坐杖一百流三十里加徒役三年）因而詐取財物者計贓徒竊盜論搶去財物者准搶奪論）

一詞狀止許實告言人罪一經批准卽令原狀內無名之人一槪不准仍從重治罪

一赴各衙門告言人罪一經批准卽令原告投審若無故兩月不到案卽將彼告證佐倶行釋放所告之事不興審理

專拏原告治以誣告之罪

一控告人命如有誣告情弊照律治罪不得聽其擱息或有恢聽人言情急妄告於未經驗屍之先盡吐實情自願認罪遲詞求息者果無賄和等情照不應重律杖八十如有主唆仍將教唆之人照律治罪

以上皆係律例明文何等嚴切本部院當經飭屬將此示泐石城門爾等安分良民如有實彼自盡命案暢石示赴地方官呈訴以免拖累各宜凜遵切切特示

右論通遵

光緒二年七月二十日

告示

彰化節婦碑　一枚　臺北　尾崎秀眞氏藏

本碑は臺中州彰化に在り

接官亭圖碑　一枚　史料展覽會藏

接官亭は臺南安海口街なる風神廟前にありて本舘は今は圮したりと雖も旌表及び附屬建物は尙ほ存す舊誌に明記を缺くも乾隆年間の建設にして彼の淸室の皇族たる福康安來臺の際歡迎の意に於て建てられたるか否やに依つて史蹟か舊跡かを區分せらる蓋し同所は昔時の上陸地點なるべし

臺南呂祖祠碑　一枚　臺北　尾崎秀眞氏藏

呂祖祠碑壞滅して今在らず反つて木刻して壁間に嵌入しありし原板名古屋市某の手にありと云ふ淸政府最後の道臺夏献綸の撰文なり同道臺には「臺灣地輿圖說」及び「臺陽集」等の著あり

媳媒嫺に關する告示碑　一枚　史料展覽會藏

臺南阿片商組合董事張太𤨏等の禀請に依り光緒十五年六月時の安平縣知縣范克承が人道上媳媒嫺虐待防止の目的を以て罰則を定め之れを告示したる碑にして實物は臺南第一高等女學校構內に在り

重濬蓮池潭碑　一枚　高雄州舊城左營庄役場藏

重濬蓮池潭碑記　鄭應球

蓮池之濬始於顏氏藏久淤泥壅塞幾與地平附近田園向資灌溉者無利賴矣居民謀疏通之絀於力而止四十八年邑侯宋公隨郡憲周公巡行至此見草奧其宅鉬懸於室地互數里盡爲石田目擊心傷於是歷阡陌相地勢而觀流泉由茄冬坑至半屛山麓議築壩開圳以便蓄洩計費不貲侯慨然出粟千二百石以貸民鳩工與作墳岸鑿渠淤者淪之塞者通之計長千三百丈貴金四百有奇而蓮潭灌溉之利徧興隆庄矣四十九年孟夏告成父老子弟羣相感歎曰微巡行之役不及此今而後旦暮耰鋤歲樂倉箱之慶者皆郡憲邑侯賜也爰立石而爲之記

重建關帝廟碑　一枚　高雄州舊城左營庄役場藏

重建關帝廟碑記　王瑛曾

邑城東廂壯繆侯廟迄今稱武廟凡長官行部令宰朔望俱修展謁禮薔祀典之鉅者歲久且圮壬午歲冬月豫損俸新之邑人咸樂輸恐後具畚梮楨板幹凡五閱月而竣事落成日率僚屬士民祭告於廟僉曰學大役宜有記豫惟漢建安距今二千餘年久矣晉解梁距治七千餘里遠矣久且遠而神之靈爽能及之此何說也今人舉一髮而全身爲之動則惟血氣有以貫之也惟神昭明磅礴靈氣布濩無遠弗屆亦如人之一身血氣既周毫髮畢貫於彼於此神應故妙烏以地杳遠而能隔哉且神之志在春秋功在名教凡忠義志節之鄉尤心嚮往之邑雖荒服而聖歡遐數沐浴者久匹夫墓義効命彊埸料鄉勇擧義旗破鴟張之賊膽作海外之順氏亦名教地也春秋傳曰神所憑依將在德矣毋亦是饗而是宜乎予既體國家崇德報功之意而索神報享知其必有樂乎此也爰伐石而爲之記

重建廟學碑　一枚　高雄州舊城左營庄役場藏

重建廟學碑記　施士嶽

聖天子御極二十有二年海宇廓清以其地置郡縣南爲鳳山建黌宮於蓮池潭上山明永秀臺之登科自鳳山始特事在草創所建文廟啓聖祠制猶樸略也十餘年來風雨飄搖僅存椽瓦先聖廟堂弆於寒暑四十三年萊陽宋公永清以平川令調宰莅邑行釋菜禮愴然念之曰鳳山自有君天下來版圖未入文教不施今聲名文物得與中土媲美稱爲盛事苟廟宇隘陋無以體聖天子尊師崇儒至意伊誰之責哉於是請上憲集神衿捐俸輸將鳩工與建高大前制增兩廡櫺星門因地制宜靡不周備垣墉丹漆塗壁以法誠壯麗巨觀也侯之用心可謂至矣侯猶慮無以廣聖澤爰設義學置學田其爲厥廟籌更深也士嶽來教是邑諸生具陳其事請爲文以紀士嶽謂文廟告成士皆歡感從此子益知孝臣益知忠工文章者顯當世立事業者昭後代莫不由文教中來是則侯之爲政能達本也功德大矣寧特以廉明勸愼爲良吏已哉謹刻石以記

鳳山縣文廟碑　一枚　高雄州舊城左營庄役場藏

重修文廟碑記　富鵬業

文廟之廢興前人記之詳矣鵬業蒞任之初從邑侯李公丕煜行釋菜禮時大成殿啓聖祠以及兩廡櫺星門靡不畢備聖天子文明之治漸被海外猗歟哉越明年冬颶風作廟門櫺星門暨兩廡圍牆椽瓦圮壞甚蓋自是與者又幾於廢矣侯憮然曰是烏可以已耶爰取大木亟命工師仍舊址而建櫺星門爲瓦之場者補之門之壞者新之墻之傾者築之兩廡之圮者葺之取其質不取其華取其堅固而久遠毋取其苟且於目前廟既新鵬業因進諸生而語之曰而亦知侯新廟之意乎夫宇宙莫大之事業由於文章千古不朽之勳猷本於名敎修身立行者大儒有用之學也砥礪名節者士人經世之具也古之學者本

窮理之識以盡乎正心誠意之功而修齊治平之理實焉是故出其所學以獻之廷爲王國之楨也本其所學而體諸躬爲有德之彥也今之學者不務耕述實修而孜孜焉怙括是尙以爲弋取功名之具庸詎知名非可强求毋論其必不可得也卽或倖而偶得終無當於經濟之學嗚呼何其不思之甚也司馬溫公曰士先德行而後文學德行不立文將焉用韓退之進學解曰業精於勤荒於嬉行成於思毀於隨諸生業患不能精毋患有司之不明行患不能成毋患有司之不公今之學者業果能精乎行果能成乎若猶未也將誰之咎哉朝廷尊師重道作育人才立臥碑以敎督而又制訓飾士子文頒行天下務使天下之士崇正學而黜邪說郭實行而棄虛聲士苟能惕然自勵以振拔於庸衆之流樸者進於雅頑者化於秀海外多士相與觀摩切磋則從竝以往文敎日盛鄒魯之風何難再見於今日乎是則余之所厚望也夫

新建明倫堂碑

一枚　高雄州舊城　左營庄役場藏

巡臺御史　范咸

新建明倫堂記

禮稱大學始敎皮辨祭菜所以致敬於先師以尊道也蓋古人因學而有廟自天子之元子衆子以至鄉大夫元士之適子與凡民之俊秀莫不造于學虞庠上下夏序東西殷膠左右無非學舍也後世重廟而輕學載門預宮專崇廟貌而春秋禮樂冬夏詩書無復敎之之地蓋古意之存焉者寡矣我國家令典自大成殿成必有明倫堂以爲敷敎之地通郡邑皆舉爲法所以養士之制甚備獨臺灣一隅僻在海外而此郡學明倫堂未建陳淸端公瑸至始奪起而經營之迄今兩廡有六藝齋爲諸生肄業之所廟與學乃以無缺蓋與學立敎類非俗吏之所能爲也鳳邑在郡治之南學宮獨據形勝之地廟前預池方廣里許多植芰荷卽志所稱蓮池潭也余以乙丑冬巡行鳳山謁先師廟召諸生講學所謂明倫堂者湫隘僅數椽其旁卽敎喻暇息地訓導且就居他室問所爲蓮池潭者秀民使辨以爲利藪日張綱其中美渠蕩然無復存者知邑事呂令作而言曰鍾琇此二年念明倫堂之未稱已度地鳩工謀於大成殿之右建堂三楹爲講學之所又脩其舊有之堂以祀子朱子而并建名宦鄉賢二祠以補舊曰之缺焉予可其請更令淸釐預池以還舊觀越明年呂令告藏事蓋經始於乾隆十年十二月至十一年六月工始竣凡費番錢一千有奇因求余文記之石余嘗以知縣者知一縣之事也一縣之事孰有大于養與敎者乎不知所以敎至并敎之地而縣之其所爲養者可知已今呂令之用心甚勤既力擴明倫之堂俾爲師者有成材之區爲弟子者有受敎之所而又以其餘力建祠以興賢而觀善而泮池之水以濬大小于邁觀者咸悅余故樂得而志之董其事者本學敎諭莊元博士弟子員童作楫卓夢陳正春例得書於石

舊城門碑記　八枚　高雄州舊城　左營庄役場藏

本碑は高雄州舊城に在り

大邑侯譚公德政碑文　一枚　高雄州舊城　左營庄役場藏

本碑は高雄州舊城に在り

去思碑記　一枚　高雄州舊城　左營庄役場藏

本碑は高雄州舊城に在り

節孝祠對聯　二枚　高雄州舊城　左營庄役場藏

本碑は高雄州舊城に在り

忠義碑記　一枚　高雄州舊城　左營庄役場藏

本碑は高雄州舊城に在り

示禁碑記　一枚　高雄州舊城　左營庄役場藏

本碑は高雄州舊城に在り

宋大老爺德碑　一枚　高雄州舊城　左營庄役場藏

本碑は高雄州舊城に在り

選取生員碑記　一枚　高雄州舊城　左營庄役場藏

本碑は高雄州舊城に在り

頌孔子碑記　一枚　高雄州舊城　左營庄役場藏

本碑は高雄州舊城に在り

下馬碑文　一枚　高雄州舊城　左營庄役場藏

本碑は高雄州舊城に在り

功德碑記　一枚　高雄州舊城　左營庄役場藏

本碑は高雄州舊城に在り

南協遊府下公去思碑記　一枚　高雄州舊城　左營庄役場藏

本碑は高雄州舊城に在り

潮天義勇祠碑　一枚　高雄州舊城　左營庄役場藏

本碑は高雄州舊城に在り

鳳山昭忠碑　一枚　臺北　尾崎秀眞氏藏

明治七年事件に關する淸國側昭忠碑の拓本なり

乃木將軍上陸記念碑　一枚　高雄州潮州郡役所藏

枋寮に於ける乃木將軍上陸記念碑の拓本にして上陸記念碑に故乃木將軍と刻せしは筆者の誤りならん

枋寮駐屯軍記念碑　一枚　高雄州潮州郡役所藏

枋寮駐屯軍たりし第二師團の一部隊が明治二十八年建設せし記念碑の拓本なり

伊藤博文公詩書　一枚　臺北　尾崎秀眞氏藏

明治二十九年桂總督の當時渡臺せられし伊藤公が其の旅館たりし淡水館（公共的建物にして今は無し）に於て揮毫し記念として遺されしものゝ石印なり

際會風雲從六龍。
百年草木霑新澤。
淡水西流入蓬島。
鄭家遺跡今何在。

宜敷皇化納南寶。
千里江山脫舊封。
玉峯北向拜芙蓉。
只見孤墳沒野榕。

臺北雜詠詩錄一　春畝山人

士林學務官僚碑　一枚　臺北　尾崎秀眞氏藏

芝山巖の學務官遭難碑の石印なり

臺灣全島、歸我版圖、革故鼎新、聲敎爲先、正五位捐取道明等六人帶學務派八芝蘭士林街專從其事、會土匪蜂起、道明等死之、時明治二十九年一月一日也

內閣總理大臣大勳位侯爵　伊藤博文書

寫眞の部

北白川宮地藏尊　一枚　臺北　淨土宗別院藏

北白川宮殿下を始め征臺役に於て戰死病沒せる將卒の靈を慰めんが爲め大阪市東上本町源正寺住職祖父江聖善師發企となり明治三十四年寄附金を集め千體地藏尊を謹製し之れを圓山淨土宗別院內忠魂堂に安置したるが宮殿下の分に對し奉りては特に等身大の木像を以てしたるもの是れなり

觀音像　一枚　臺南　鄭長庚氏藏

鄭成功正夫人董氏が信仰せられたりと云ふ銅像を寫眞に撮影したるものなり

觀世音像　一枚　史料展覽會藏

臺南陳姓家廟に祀れる觀世音石像は鄭成功夫人董氏より特に陳永華に贈與されしもの石像として傑作容易に得易すからざる尊像なり

明の寧靖王像　一枚　史料展覽會藏

艱辛海外に避けしは總べて數根の髮の爲めなり今に於て事畢れり復た薪炭を採らんやとて自決せし寧靖王の像なり寫眞は竹滬の王廟安置のもの

安平の鄭成功像　一枚　史料展覽會藏

今を去ること二百六十二年明の永曆十六年鄭成功三十九歲を一期とし儘焉として逝去するや時人逸早く此像を造り以て祭祀の用に充つ蓋し本島最古の尊像なり狀貌沈雄にして駿宕威嚴あつて纖塵に染まず風神超逸秀靈の氣人に逼り而かも文人にして武將たり更に忠義金鐵の志斗牛を貫く國姓爺の氣韻生動し從來寓目し來れる同像中未だ曾て見るを得ざる傑作なり今は安平觀音亭內に安置す

鄭成功像　一枚　臺南　開元寺藏

鄭成功の正室董氏の爲めに鄭經の手に建てられたる北園別墅と云へる前身を有する開元寺には當然鄭成功を祀らざるべからず卽ち本堂の右側一室に此の塑像を安置し成功の位牌を添へたり

鄭成功像　一枚　臺南　鄭姓家廟藏

鄭成功の故鄉福建省石井家廟藏成功畫像を寫眞に復寫したるものなり

國聖媽及國聖公像　一枚　厦門　曾厚埠氏藏

福建省南安縣石井鄉鄭家祖廟內に安置せらるゝ國聖媽及び國聖公聖像にして管理者之を撮せるものなり

鄭成功像　一枚　厦門　鄭有義氏藏

福建省厦門市郊外太平巖山中に於ける延平公廟に安置さるゝ廟所在地太平巖は鄭成功年少時代同志の一人と共に同所に粗末なる一戶を建て著名の國學者を聘し國學及軍事學を研究せし場處にして成功甍去後地方に於ける成功崇拜者に於て其木像を刻し延平公廟を同處に建築し祭祀今日に至れるが爾來同地に於る鄭姓家族自治會は每年一回鄭成功の出生地石井に於ける成功の近親關係者を招待し盛大なる祭祀を行ひつゝありて明末時代の建設に係るものなりと

鄭成功像　一枚　臺北　西澤義徵氏藏

鄭成功八世の孫雨春の珍藏に係る遺像なりと云ふ

鄭成功像　一枚　史料展覽會藏

此の鄭成功銅像は臺灣戰役當時某氏の手に依つて長崎に齎らされたるものにして鄭成功廟に安置せらるべきものなりと傳ふ

鄭芝龍の銅像　一枚　史料展覽會藏

鄭成功の父芝龍の銅像にして今長崎の某家に藏す

五妃の像　一枚　史料展覽會藏

寧靖王に白布を賜へと請求して王に殉死せし袁氏、王氏、秀姑、梅姐、荷姐の五妃にして寫眞に臺南々門外五妃廟安置の像なり

陳永華像　一枚　史料展覽會藏

鄭軍の參謀陳永華の彫塑像は寫眞の如く身に軍師服を纏ひ令旗を持し在臺南全臺陳姓家廟の主神として祀らる

二王廟祭神　一枚　史料展覽會藏

主神には稍や形體を異にせる鄭成功像を祀れるも二王像は其前立の如く祀らる而して二指を樹立して我れこそ二王なりと標置するが如く彫塑されあり

澎湖施琅廟の施琅像　一枚　史料展覽會藏

施將軍廟は澎湖島馬公城內にあり康熙二十一年施琅水師提督に任じ翌年鄭氏を伐ちて克ち澎湖を定むるや時人廟を建て其像を祀る相傳へて現在す

施將軍廟碑記　一枚　澎湖廳藏

閩海汪洋之東有島曰澎湖明朝備倭更番戍守及鄭氏據臺灣勢爲咽喉環島要害皆設砲臺因以爲城康熙二十年辛酉八月間余奉　命專征至閩羣議咸以浩渺之表雖以奏膚余及矢策緯舟料訓甲兵歷有歲餘以二十二年癸亥六月二十日乘南風由銅山進師直抵八罩爲帥劉國軒統衆拒敵風息潮退雖以進取余暫收軍八罩再申軍令以二十二日揚帆齊發砲聲駭浪火焰衝天將士用命奮戰盡焚其舟而破其壘爲軍盡殲屍浮海中以口靑波時以爲爲軍俱亡不知其僅以身免乘小艇匿敗艘二十餘遁去也所有在水中撈起爲將士八百餘帶傷負創喘息猶存者俱施以醫藥浹月痊愈仍給糧食撥船載歸令其傳諭臺灣束身歸命其陸地爲將卒楊德等四千餘員名倒戈乞降余更奏請奉有　旨敕其前罪是以臺灣人心咸知有生紛紛內潰爲漸及爲文武自度勢窮雖保修降表至矣余口八□□□躬臨赤欲受降彊從是廓清以數十年來未靖之波臨淵血戰始定則斯島謂非磐區歟爰是誌於□□□朝口戍之故記之云

太子少保靖海將軍靖海侯世襲罔替水師提督事務施琅立

（內十字不明）

李茂春の像　一枚　史料展覽會藏

臺南の法華寺は明末の逸士李茂春の棲遲せし所なり茂春字は正淸、漳の龍溪の人鄉薦に登り進士となる著述頗る多し風神秀整、跣足にして幘を脫ぎ傍ら人なきが如し明末の亂を避けて臺に渡り玆に居る其茅亭に凰して夢蝶園と云ふ日に佛典を誦して自から樂しむ人李善薩と稱す

吳英の像　一枚　史料展覽會藏

吳將軍諱は英、平臺の際施琅方の部將として拔群の功あり時人祠を建てゝ以て報ず臺南高砂町には吳英の裔孫に依て保管せらるゝ家廟あり

王官保像　一枚　嘉義　王子景氏藏

王得祿伯爵の正裝せる畫像を寫眞に撮影したるものなり尙ほ王得祿の本地たる臺南州東石郡太保庄長王國材氏は祖先王得祿の正裝を襲藏し居れりと云ふ

蕃人と漂流洋人との混血兒　一枚　蘇灣郡役所藏

マウリス、ベネオウスキーはポーランドの貴族にしてハンガリーの高官なりしが一七六八年の戰爭に敗れ露軍の爲め捕へられカムチャツカの獄に投ぜらる彼は一七七一年（乾隆三十六年）同囚二十八人と共に看守を殺し破獄しカムチャツカ灣口の露艦コルカエント號を奪ひ五月に南下して北太平洋を西方に臺灣の東岸大港口附近に漂着し爾來蘇灣、花蓮港附近を根據として一種の經略を行ひたり此一行中土蕃の婦女と關係し混血兒を生したるもの潛在的遺傳の血統を繼承し今にして往々混血兒の狀貌を具する者を產出す寫眞は其一例にして二人の兄妹なるが最近又花蓮港蕃地に三人の此種混血兒發見されたりと云ふ

尤も臺南州新營郡白川庄附近蕃社庄は昔和蘭人及び其黑奴（烏鬼）居住せし關係上蕃人との雜婚行はれ今に其血統連綿し面貌魁偉軀幹長大なる混血兒の子孫現存するも如何せん今は本島民籍の人なるを以て東海岸の蕃人の如く寫眞を撮影し學術研究の用に供すること難しと云へり

臺朝薦早朝圖　一枚　臺北　連雅堂氏藏

臺朝薦字は在公廣東揭陽縣の人明の崇禎元年の進士にして官は都察院左都御史に至る太常寺正卿に晉封せらる斯くて北京破られし時南に歸りて金門に居せり鄭成功が思明に府を開くに及び禮を盡して避

亂の縉紳を待遇せり遂に王忠孝、徐孚遠、盧若騰、沈佳期等と共に上客となり軍國の大事時に諮問せらる後に臺灣に入り東寧に卒す此圖は朝鶴七十二歳の時描きたるもの子文麟潮州に携えて歸り現在潮安縣大榮鄉率氏の家に藏す

明清畫傳　　史料展覽會藏

明清戰爭中の主要人物を兩軍中より求め其肖像を諸書より抽出したる寫眞折本なり

永明王、劉元忠、孫可望、鄭芝龍、李定國、鄭成功、陳永華、陳魁奇、黃道周、甘輝、寧靖王、鄭經、鄭克臺、鄭克塽、吳潛、許鳳、蔡寅、馮錫范、劉國軒、陳豹、張萬禮、林泗、陳典、林拔萃、陳龍柯彩、藍理、張氏、陳瓚九、汪勝、何左龍、何左虎、何成龍、孫成虎、何斌（以上明軍）

貝勒王、克氏夫人、經鐘、狠煙、金屬、黃梧、洪承疇、小貝勒王、唐朝彝、黃公臺、姚啓聖、耿精忠、李玉、鄭芝龍、吳三桂、孔有德尙可喜、覃太、吳天忠、孫升、林清、黃芳、李光地、李明、陳虎、阮龍、施琅、吳英（以上清軍）

Iruha Formosa!　（美麗島）　一面　史料展覽會藏

歐米人の所謂「フォルモサ」なる稱呼は昔時臺灣海を上下する葡萄牙人が東海岸方面より次高山卽ち「シルヴイヤ」山彙を眺め遠山蒼天に白雪を戴き喬樹灌木蓊鬱として繁茂し牧場原野其間に點在して風景頗る佳絕なるを嘆稱したる「美島なる哉」の語より出づ

寫眞は次高山連峰なり

蓬萊山　　史料展覽會藏

山海經に曰く蓬萊の山は海中の仙山なり有道の者に非ざれば至らずと尾崎秀眞氏東海岸太魯閣の斷崖を以て傳說の蓬萊に擬す尤も內臺人共に本島を蓬萊島と云ふ年あり爲めに蓬萊米の銘柄を出すに至れる所以

蓬萊山床置　（一）　臺南　越智寅一氏藏

光琳式表現の置物なり

太魯閣峽風景畫　（二）　臺南　鹿沼留吉氏藏

那須雅城畫伯筆寫生的日本畫なり

花蘇道路寫眞　（三）　花蓮港廳藏

花蓮港、蘇澳間道路東洋一の斷崖なり

龍宮　　史料展覽會藏

日本書記大泊瀨幼武天皇の二十二年の條下に丹波國餘社郡管川の人水江の浦島の子船に乘て釣りし遂に大龜を得る便ち化して女と爲る是に於て浦島の子惑て以て婦と爲し相逐つて海に入り蓬萊山に到るに仙衆歷觀す云々

玉手箱及び翁の面　（一）　臺南　鷲遷閣藏

舞踊浦島の用具なり

澎湖島馬公の寫眞　（二）　史料展覽會藏

馬公に未だ龍宮的城壁の存せし時代のもの

獨木船　（三）　臺南　陳水性氏藏

紅頭嶼蕃人の獨木船模型なり

國土經營　　史料展覽會藏

國土を天孫に奉讓して後の大國主命は少名彦命と共に四方を經營し給ふ爲め國を出でゝ普く遍歷し鹿島に旋り給ふ由古事記に見えたり

大黑天畫軸　（一）　臺南　村上玉吉氏藏

千家尊福氏自畫讃の大黑天なり

臺灣神社の寫眞　（二）　史料展覽會藏

朝鮮神社、樺太神社も同一主神なり

鹿耳門の上流　一枚　臺南　坂本寫眞館藏

曾ては何斌が鄭軍を導きし鹿耳門の上流にして寫眞は我邦領臺當時

のものに係る

小琉球嶼の烏鬼洞　一枚　高雄州東港郡役所藏

高雄州小琉球嶼天臺灣に在る石洞は俗に烏鬼洞と稱し今を去る三百年前闌人の同行し來りたる黑奴が一時避難したる洞窟にして洞內三疊敷位あり曾ては彼等の遺品たりと覺しき古器物を洞內より發見したることあり

鄭成功慶誕碑所在　一枚　長崎縣平戸中野村々長　川口伊作氏藏

肥前平戸城下を距る一里半河內浦千里ヶ濱に鄭成功慶誕碑あり松浦侯甫め朝川善庵に命じ撰せしめたるも餘りに長文なりし爲め更に葉山鎧軒に改刪を命じたるものにして鄉人之れを和唐內の碑と稱す

千里ヶ濱兒誕石　一枚　長崎縣平戸中野村々長　川口伊作氏藏

鄭芝龍の妻田川氏旌娘中肥前平戸千里ヶ濱に遊び此巖上に休憩中產氣を催して男子を生む卽ち鄭成功なり時人此巖を兒誕石と云ふ時に寬永元年七月二十三日なり

鄭芝龍遺址の竹柏樹　一枚　長崎縣平戸中野村々長　川口伊作氏藏

平戸河內浦神官峰野氏邸の庭に竹柏の古樹一本あり此地鄭芝龍の舊宅址にして竹柏樹は同時代よりありしものと云ふ

鄭成功手植の椎樹　一枚　長崎縣平戸中野村々長　川口伊作氏藏

平戸中學猶興館の運動場內にあり樹の廻り一丈餘樹心既に汚ちて空洞となり外皮に依りて樹命を保つ松浦心月公樹側に小碑を立つ

八卦山御遺跡　一枚　臺中州彰化街役場藏

北白川宮能久親王殿下近衞の猷猷を率ゐ給ひ彰化八卦山の要害に據り彰化城を死守したる黑旗、新楚、七星、正勇等凡そ十二隊六千の敵を攻擊し八卦山砲壘を陷落し給ふや直ちに御登攀追擊の命を諸軍に下し給える所殊に彰化は明治二十八年八月二十八日占領より十月三日蹄戀秋風に架し嘉義方面へ御南進まで三十有六日間御駐軍あらせられたる最も由諸深き記念の地なり

福康安の生祠　一枚　史料展覽會藏

清の乾隆五十一年十一月林爽文亂を爲し全臺忽ちにして賊手に歸す翌年十月陝甘總督福康安大擧して之れを討ち爽文を擒にし十二月全く平定す依て清帝嘉賞康安等二十功臣の爲めに此生祠を建つ元と農園に在りしが今は臺南大南門內に移せり

寧靖王の墓　一枚　史料展覽會藏

一旦荒廢に歸したる寧靖王の墓も兩三年前高雄州に於て改修を加えたるも今や再び墓域を毀壞され荒凉寂寞秋風の裡に立てり詣ずる者豈涙なからんや

林圯の墓趾　一枚　史料展覽會藏

鄭成功の部將にして林圯埔の開拓者たりし林圯の墓趾は臺中州下竹山郡竹山庄の西北方竹園子の田圃中にありて僅に墓趾のみを存し墓碑圯して今あるなし

八卦山の兩公の墓　一枚　臺中州彰化街役場藏

彰化縣誌封塋の部に曰く前明鄧國公の墓八卦山上に在り前明蔣國公の墓も八卦山上に在り按ずるに鄧蔣二國公其名を傳へず皆同じく鄭國姓臺に踞する時の將佐たらんと

和蘭人の墓址　一枚　史料展覽會藏

昔時和蘭人の安平に居住せし際死亡者を葬りたる塋域なりと傳ふ附近を發掘すれば今尙ほ長大なる屍骨等を發見し得べしと現所は安平觀音亭廟の裏に在り

麻豆蘭人墓址　一枚　史料展覽會藏

臺南州曾文郡麻豆に於ける和蘭陀人の墓址にして俗に四工墓と云ふ

七美人の墓　一枚　澎湖廳藏

澎湖島望安庄大嶼に在り往時海寇の侵掠の際七人の婦人は死を以て操を守り井に投ず跡に七株の木を生じたりと傳ふ其井今は潦水と變じ一葉萩今尙ほ存す近時其墓を改修す

琉球藩民の墓　表墓二枚　高雄州恒春郡役所藏

明治四年十一月八瀋灣に漂著したる琉球藩民六十六名は蕃地高士佛社に迷ひ入り同社に一泊したるも危懼の念に堪へず同社を脱走餘雙溪口にて遂に蕃人の爲め殺戮せらるゝ者五十四名生存者十二名は保力楊友旺の加護にて無事本國に帰還す明治七年征臺軍都督西郷中將凱旋の際雙溪口より現在所に改葬大正十五年八月車城庄民の義擧に依り墓域の大改修を爲し昭和三年在臺沖縄縣人の義擧にて遭難者の氏名を基石に刻し永く其靈を慰むるに至る

和蘭遺跡茄苳樹並木　一枚　高雄州屏東郡里港庄役場藏

屏東郡里港より六龜方面に通ずる地名武洛の道路には大茄苳の並木連り其數百十餘株鬱蒼として殘り樹齢約三百年と唱へられ和蘭時代の植樹と傳へられ其中一際目立つ巨木二本は直徑約四尺餘にして部落民は茄苳王、茄苳副王など稱へて何時の頃よりか香を焚き遠近より來り詣る者多し

官佃庄樣仔の並木　一枚　臺南州曾文郡役所藏

曾文溪の支流官田溪の北岸に在る一大樣仔林は今を去ること三百餘年前即ち和蘭領有時代明の嘉靖四十二年より清の順治年間に栽植したるものにして其の年數より推すれば實に本島に於ける樣仔樹生育の最初のものたること判斷せらる當時附近に相當繁榮せる市街あり其の道路に並木として植付けたる附近路樹の嚆矢なり（該樣仔樹林の形恰も椅子の如くなるを以て人之を京椅背と稱す）該地は山形水容絶佳にして風致人目を樂ましむるに足るを以て蘭人の市場地として經營せるものたりしならん現在は嘉南大圳南幹線及び縱貫道路の施設が南北を横斷せられたる爲め尚ほ殘存するは其一部分に過ぎず

波羅密樹　一枚　高雄州旗山郡旗山街役場藏

臺灣製糖株式會社旗尾製糖所の旗尾驛北隣同製糖所運動場の東南隅に位し植付年時不明なるも和蘭人領臺當時の植栽に係るものゝ如く傳へられ波羅密樹を臺灣に移植せられたる最初のものと稱せらる今は旗山街に於ける保護樹の如くなり居れり

烏山頭の南蠻サイカチ　一枚　臺南州曾文郡役所藏

社子二一三番地に今を去ること三百餘年前即ち和蘭時代に栽植したるものにして人之を稱して『南蠻サイカチ』と云ふ附近に點々しあるも此處にあるは最も老木にして密集す之より推すれば栽植の厚樹と判斷せり黄花滿開の時は全樹黄色を呈し其の結子は細長くして實に三尺程あり

南蠻サイカチ　一枚　史料展覽會藏

南蠻サイカチは南洋産の荳科に屬し學名をカッシヤ、フエスチュラと稱す本寫眞の南蠻サイカチは臺南公園に保護樹扱ひされあるものにして臺南内新街組合總代小島音吉氏の寄贈に係る

七絃竹　一枚　史料展覽會藏

七絃竹は一種の縞竹にして臺南市外開元寺の後庭に在り今より二百五十餘年前鄭成功夫人董氏が湖北省臥龍崗より移植せるものなりと云ふ

通梁の榕樹　一枚　澎湖廳藏

白沙庄通梁の海濱保生宮の廟前にあり古く戎克船に載せ來りし鉢植の小榕樹成長して樹幹擴がり氣根增加し今二十八本を數ふ幹枝二百坪に蟠り一株の樹下優に一箇大隊の兵を憩はしむるに足る本多靜六博士大に之を奇とし日本名木の一に加ふ又以て三百年前既に早く澎湖に樹木が繁生せしを證すべき歴史樹なり

紅木埕城址　一枚　澎湖廳藏

馬公朝陽門外東北十數町の所に在り紀元一二八二年（明天啓二年）蘭人澎湖占領の再擧を企てしときカイツエルツーン中將は當時在住支那人及び漁船六百餘隻を徴發し苦力を使役して土石を運搬せしめ築城したるもの「澎湖廳誌」に「砲樓堅緻如鐵」また「周圍百二十丈」とあるを以て見るも蘭人永久の計を想ふべし明の天啓四年巡撫南居益來り攻め交戰八箇月に亘りしも陷落せざりき既にして臺灣占領を認め互市を許すてふ交換條件の下に撤退したり甫め紅毛城と呼びしもの轉訛して紅木埕となり今も尚ほ地名に殘れり

億載金城　一枚　史料展覽會藏

沈葆楨が明治七年征臺役の前後に於て修復せしめたりと云ふ安平の舊砲臺即ち億載金城の寫眞にして現今のものに比し異れるは數門の

大砲を備付けある點なるが該大砲は日露戰爭當時地金として拂下げ破壞せしめられたり

破壞せし安平城　一枚　史料展覽會藏

清の同治十三年（明治七年）牡丹蕃社の事あるや沈葆楨欽差大臣として渡臺し日本に對する外交上の善後策を講じ日軍兵を旋すの後緣營の久しく廢弛するを見奏して營制を改め專ら外敵に備ふる爲めに要所に砲臺を築く越えて光緒三年（明治十二年）臺灣知縣潘慶辰は道臺夏獻倫の命に依り赤崁樓及び赤崁城を取毀し其材料を以て億載金城を補修せり

改隸前の「ゼーランヂヤ」城跡　一枚　臺北帶原坦氏藏

前掲のものに同じ

サン、ドミンゴ城址　一枚　臺北州淡水街役場藏

西班牙人は一六二九年七月に淡水に來り此地一帶を『カシドル』と命名し『サン、ドミンゴ』城（今の英國領事館通稱紅毛城、紅毛砲臺）を築造し其傍らに天主教堂をも設け在住蕃人及び支那人を傳道し大屯大山附近の特産たる硫黄を採堀したり其極盛時には西班牙人二三百人在住したりと

和蘭陀公廨署舊址　一枚　史料展覽會藏

和蘭陀の公廨署舊址にして今は臺南州曾文郡麻豆公界埔の墓地になり居れり

和蘭陀倉庫舊址　一枚　史料展覽會藏

臺南州曾文郡麻豆附近の原野にして和蘭陀の倉庫舊址あり俗稱蕃仔樓址と云ふ

和蘭梳粧樓址　一枚　史料展覽會藏

昔時和蘭人の居住せし際の官舍にして安平蕃仔樓内に在り磚石の模樣其他本島人の建築と全然異る當時妻子を此所に住せしめたることは梳粧樓の名に依て知らる

宗人府朝見所　一枚　史料展覽會藏

明の宣宗九世の孫寧靖王鄭氏に頼りて臺に渡り承天府の傍に宗人府を建てゝ之れに居る別に一元子園亭の名あり今は天后宮の正殿となり居れり

普濟殿　一枚　史料展覽會藏

本廟は感靈王を祀る處に係り鄭氏時代既に建設しありて甫めは普濟廟と稱せられしが明の寧靖王蹕駕のことありてより廟を殿に改められたるなりと云ふ

梳粧樓址　一枚　史料展覽會藏

明の寧靖王の五妃が居室に充て宗人府に屬せし梳粧樓址なり（寫眞は家屋の背面より撮影）

小南天　一枚　史料展覽會藏

昔時明の寧靖王狩獵に出づるの際常に休憩せし福德正神を祀れる小祠にして臺南市白金町にあり扁額の小南天の三字は開元寺の小西天と共に寧靖王の遺筆なりと傳ふ

寧靖王廟　一枚　史料展覽會藏

竹滬の寧靖王廟は昭和四年の重修に係り金碧燦爛たるに反し王の故宅の址たる隣接地域内にある老榕樹は將に三百年の昔を語り亭々枝を張る岡山郡下最大の靈木なり

寧靖王祿位　一枚　史料展覽會藏

特に册封の二字を重んず（竹滬の王廟に安置す）

開元寺　一枚　史料展覽會藏

元來此寺は北園別館と稱し鄭成功の長子鄭經が父成功の沒後母董氏の爲めに之れを建て以て老を養はしめし處なり其後清時代に至り改めて寺となし海會寺と稱せしが次で海靖寺、榴環寺等に改名し今は開元寺と稱するに至れり

赤山廟　一枚　臺南州曾文郡役所藏

臺南州曾文郡六甲庄字七甲にあり今を去ること二百五十年前鄭軍の參謀陳永華の創建に係り本堂に觀音佛祖を本尊とし善才、良女、十八羅漢、伽藍菩薩、地藏菩薩、監齊爺、虎爺、彌勒佛、清水祖佛を從祀とし後堂に三尊佛、韋陀爺、護法爺を配祀とし左廂五文昌右廂注生娘々を合祀とし傍に鄭成功、陳永華、蕭明亮、蔡壯猷の位牌を安置せり（北內鄭成功、陳永華、蕭明亮、蔡壯猷の位牌は大正二年四月十六日右廂火事の際燒失せり　廟の北西南を繞りて一つの蓮花池あり現在赤岩埤と稱するも往時之を龍湖と稱せしを以て寺名を龍湖巖と謂へり（赤山の二字は元赤山堡管內に在るを以て赤山の字を加へたるものなり）境內清淨風致に富み周圍の山水と相待つて殆と天然の一大公園たらしむ古來同地方の名勝地なり

花蓮港の鄭成功廟　一枚　花蓮港廳藏

臺灣東海岸各地に新に建立せらるゝ廟宇の祭神は大概鄭成功なるがこれも其數に漏れず花蓮港街稻住に在る鄭成功廟なり

大甲の鄭氏廟　一枚　臺中州大甲郡外埔庄役場藏

臺中州大甲郡鐵砧山中國姓井の附近に鄭成功の小祠あり一說に鄭氏の軍此地に駐屯したる事實あるも成功自から此地を蹈みたりと云ふは傳說の誤りなるべしと

鄭氏廟　一枚　臺南州斗六街役場藏

斗六郡林內庄にあり此の地元と鄭成功の部將陳永華の拓ける所庄內今に至るも尙ほ其子孫の存するあり後人此地に鄭氏の一小廟を立つ偏して「開臺國聖祖」と云ふ

保安宮　一枚　臺中州大甲郡淸水　黃汝舟氏藏

臺中州大甲郡淸水街三塊厝大甲溪南岸に在り往時大甲溪は今の海岸線鐵橋上流の大肚山脈接續して河口全く存せざりしが鄭成功附近の土蕃平定に際し海上より砲彈を放ちたるに忽ち河口開坼したりと云ふ傳說あり然るに鄭家沒落後河川屢々汎濫し田園流失の慘害を蒙ること夥しく住民義捐して二百餘年前本廟を建設し鄭成功を祀りたるに廟後に靈泉湧出し甚だ感應あり疫癘盛なる時此仙水を授くる者一日數萬を超えたりと云ふ

湖山岩觀音廟　一枚　臺南州斗六街役場藏

斗六郡咬狗庄の山中に在り淸の康熙年間內林庄の住民林克明なるもの今の湖山岩の地を開墾するに方り白衣を着けたる一美人の衣を小流に濯ぐあり忽にして其の影を沒するを見る是の如きこと數日克明思へらく是れ必ず觀音佛祖の化身ならんと卽ち一日金紙を焚き香を炷し祈誓して曰く吾をして富貴に至らしめば必ず此地を淨めて廟宇を創し以て觀音を奉安せむと然るに數年ならずして家大に富みたるを以て卽ち廟を建て觀音を祀り湖山岩と稱せりと言ふ今の廟は光緒七年改修せしものに係る

開臺靖海二王廟　一枚　史料展覽會藏

二王廟は臺南州新豐郡永康庄に在り廟額には山西夫子とありて孔子の山東夫子に對し暗に關羽を以て擬し現に知縣鄭朝蘭撰む處の碑序には周倉、關平の如き二王を祀るものなりと轉嫁し故らに關帝の小像を安置したるも是れ淸廷を憚れるが爲めにして實は鄭成功の次弟鄭焱（七左衞門は鄕里のことにて別なり）を祀れるものなる事は主像に鄭成功を祀りあるにても明かにして且つ今となりては董事等の公言するにても知らる而して其二王と稱するは本島人が北白川宮能久親王殿下を七王と稱し奉るの類なるべし

二王廟　一枚　史料展覽會藏

開臺靖海二王公（碑記）

郡城之北相去六七里有二王嵛馬前里人立廟於此崇祀關聖帝君旁列　二王故其崙並號曰二王夫祀帝君而繫之以　二王者以二王爲之始基也其始不知建自何人迄於今相延百有餘年矣其廟屢經風蟻棟瓦傾頹不爲之興工脩戢恐神亦有所難安矧夫帝君之赫濯古今加以二王之靈應禳災植福實重賴之共荷帡幪　神降乱稍移其地改立坐向締造更新然而工費洪繁必爲集腋成裘而後廟可告成幸有同志之人前後捐貲相助以共成其事盖起造於壬子之冬而完工告成於丁巳之春庶幾廟宇重興馨香勿替凡前境土內外皆獲福於無彊矣戊子科擧人截取知縣鄭朝蘭序

林鳳の廟　一枚　史料展覽會藏

臺南州下曾文郡林鳳營庄は鄭成功の部將林鳳の營所の在りしより其地名を生じたるものにして現に同庄には林鳳の小廟今に遺存す

曹公祠　一枚　高雄州曹公水利組合藏

曹公祠は曹公圳開拓者曹謹を祀る祠廟にして境內二千五百三十一坪七合廟宇建物七十六坪五合より成り曹公水利組合の管理する所なり曹謹字は懷撲淸國河南の人道光十七年正月鳳山知縣に任するや先づ地方農產の狀況を視察せんと管內を巡ぐつて九曲堂淡水溪畔に到り喟然として曰く造物者留めて以て人の經營を待つものなりと玆に於て紳耆と計り巧匠を招き下淡水溪の水を引用する圳路の開鑿を圖り同年工を起し道光二十一年工を竣へたりと其の灌漑區域二千四百餘甲步名附て曹謹五里舊圳と稱す後知縣を去るに臨み私財三千圓を出損し興隆外里左營庄陳混をして圳路を擴張せしめ更に數千甲步に灌漑し得らるべき圳路を拓せり之を曹謹五里新圳と名附く時の政府其の偉業を頌み公の尊稱を賜ひ曹公と稱す圳名又之に因めるものなり咸豐十年鳳山民祠を鳳儀書院の一隅に設立し『前任鳳山縣丁卯解元懷曹公諱謹祿位』の神位を祀り年々盛大なる祭典を擧げ來りしが領臺の當時鳳儀書院は陸軍衞戍分院に利用せられ且つ祠廟は院の一隅に在り且つ管理宜しきを得ざりしとに依り漸次荒廢するに至れり明治三十四年兒玉總督南巡の際親しく此の祠に賽し其の荒廢を悼み金數百金を寄附し時の廳長をして之が修覆をなさしむ其の後當局は勿論鳳山曹公圳鳳山出張所內の空地に莊嚴なる一字を建立せむとの說起り明治四十一年より水利組合に於て毎年建築費の積立を爲し明治四十四年五月工費一萬八百七十圓を以て工事に着手し同十月下旬竣工せるを以て十一月一日を卜し曹公祠を玆に遷座し盛大なる祭典を執行せり爾來毎年此の日を例祭日と定むるに至れり

嘉蔭亭　一枚　澎湖廳藏

五里亭馬公街紅木埕に在り淸の乾隆四年澎湖通判胡格が島內樹木生長せずして路傍一の嘉蔭なく炎日行人の休憩する所なきを憂ひて建つる所因て嘉蔭亭の名ありまた此の地舊廳署所在地たる文澳より馬公に至る道路の中央に方り恰も五淸里の地にあるを以て俗に五里亭と稱す亭內中央に文武兩帝を祀り左に三官神右に龍王神を配す既にして亭久しく傾圮せしが乾隆二十九年里人重修す『澎湖廳誌』に『如樾之有蔭』と記せり

文石書院　一枚　澎湖廳藏

淸の乾隆三十一年（紀二四二七年）の冬時の澎湖通判胡建偉は貢生許應元の申請を許し資を募つて建てるもの地方人才養成を主たる目的とし土氣皷舞の意も寓せらる竣成後官立の書院とし許應元を山長（院長）に任じ儒生を教導せしめた毎月一回乃至二回考試を行ひ二種に分ち官課は通判自ら行ひ師課は院長之を行ひ優良者に賞狀を與へて奬勵す又年一回全島の有志を招募して考試を行ひ入學を許す儒生は院內の耳舍に寄宿し院長に就きて教を受け毎年一回選拔されし者は臺南の科名考試に應募せり主として詩文を研讚し許多の書籍備付けられしが淸佛戰役の際兵燹に罹り亡失せり卽ち書院の位置は馬公街澳內文澳にして海に臨み一景勝を爲す

文石書院碑記

澎之書院仍舊而氣象事新者蓋自胡公設立書院始公諱健偉號勉亭粤東三水縣人戊午巳未聯捷進士出宰直隷無極縣紀大功二次轉福寧福鼎縣壬午科入闈闈薦拔十郡名宿繼宰閩縣造就多草才洵文學之權衡也乾隆三十一年授臺湖分府甫下車卽留心作人觀風設教諸紳士云人籍靈地因人重澎湖島連三十六嶼相錯也石蘊五采文奇攸鍾也則是巨浸之中砥柱爲全閩之樞紐將來其　聖天子文教之名區乎遂陳請列憲就地考校錄取送院免諸童府縣試兩番渡海之難列憲嘉其雅意如請公遂捐俸以倡卜築於廳治右畔百武之近地其地環山帶水文峰錯落可觀是歲九月經始明年二月告成匾其額曰文石書院崇祀　五夫子春秋二祭延名宿掌教月給膏火公餘之暇時詣院與諸生童講學論文季考月課循循善誘終如其初經公指授者頓開茅塞果慶連茹丙戌丁亥科兩歲試入泮者六備卷者四從此而掇巍科登顯仕人文鵲起甲第蟬聯皆我公樂育之功也今者榮擢屆期澎人士能忍默然爰敬陳始末而壽諸貞珉以誌不朽云

乾隆三十四年歲次巳丑仲秋吉旦閤澎紳士仝勒石

北郭園　一枚　新竹　鄭神寶氏藏

新竹市北門外土名水田街に在り淸の咸豐元年富紳鄭用錫が創築せる別墅なり淡水廳誌に曰く「中有小樓聽雨歐亭鳴竹陌田觀稼諸景」と是れ新竹八景の一たる北郭煙雨なり園內に北郭園八景なるものあり小郭曉雨、曉亭春望、石橋垂釣、小山叢竹、深院讀書、曲檻看花、陌田觀稼蓮池泛舟是なり園は鄭用錫が一代の豪華を傾けし名園にして林泉の粹亭榭の奇を鳩め「小壺天」「北郭園」「稼雲別墅」「偏遠堂」「履中踏和」「孫芝斯室」等の匾額楹聯景情を點綴し池に水禽浮び庭に孔雀逍遙す特に「幼香吟室」と顏せる一屋は純然たる日本建築にして當主が數奇を凝して建築せる所なり

爽吟閣　一枚　新竹　鄭伸寶氏藏

新竹神社境内にあり雨め清の道光二十九年福神林占梅が同市西門に建築せし潛園の一部なりしが明治二十八年北白川宮殿下匪賊御征討の爲め南下の日御一泊遊ばされたる御遺跡なるを以て其後神社境内に遷したるものなり

奎樓書院　一枚　史料展覽會藏

奎樓書院は臺南市末廣町二丁目に在りしが同所市區改正の爲め道路敷となり取毀し今はなし元と秀峰塔の所在なりしも光緒年間の暴風雨の際大破し重修に際し五層樓を改めて三層樓となしたるが建築樣式頃る古雅なりしを以て明治年間第一回内國勸業博覽會を大阪に開くに當り其建築樣式を模倣して臺灣館を作り喝采を博したる爲め使用後其拂下げを受け三重縣鳥羽公園に之れを移築し今尚ほ存す

秀峯塔記　楊二酉

辛酉春予以及瓜、館於郡學署、西隣泮宮、再四爲海東書院、左山右海、據郡勝概、面迎魁閣、平岡敞疊、遠近環映、臺紳士且以巽位未甚秀拔、議請建浮屠爲筆峯、予曰然、謀之同事諸公咸曰可、遂各捐俸卜吉、以興甫、閱月而訖、功深基固、壘六出五重、下廣丈有九尺、遞削至端、高七尋有奇、通中引節、上開洞隱有四、乾面顏石額曰秀峯、糜金錢八百餘兩、職其事邑生襲帝臣等凡六十有六人、輸力任勞、俱能踴躍從事、竣之日相與集飲而落之、而桐陰竹翠中、峭嶺圓鋒、摩雲挿漢、躍然在芹水間矣、後有興者、得謂秀峯有靈、其然其不然耶

舊城東門　一枚　高雄州舊城　左營庄役場藏

高雄州舊城にあり

舊式糖廊　一枚　臺南　坂本寫眞館藏

舊式糖廊の標本として僅かに殘されたる臺南開元寺糖廊の寫眞にして同糖廊の收益は擧げて同寺の香資に供すると云ふ

文化的蕃屋　九枚　花蓮港廳藏

花蓮港廳下太巴塱社土目の居宅にして原始藝術を遺憾なく發揮せし代表彫刻を施せるものなり

蕃語馬太傳　一枚　臺南　坂本寫眞館藏

闢人教化の迹を偲ぶべき蕃語馬太傳にして臺南新樓神學校の藏板に係る

蕃族寫眞　六枚　警務局理蕃課藏

昔の蕃屋＝今の蕃屋　二枚對比
昔の首狩＝今の耕作　二枚對比
昔の迷信＝今の衞生　二枚對比

鄭經井　一枚　史料展覽會藏

臺南開元寺の後庭にあり鄭經穿つ處ろに係ると云ふ今は廢井となり居るも遺址尚ほ存す

嘉義紅毛井　一枚　嘉義市役所藏

嘉義郡役所の傍にあり其水量頗る豐富汲むとして盡るの朝なく昔時和闢人の掘鑿しゝ處に係る以て此名ある所以なり俚俗此水を汲飲すれば必ずしも疲癘に冒さるゝことなしと云ひ傳ふ

彰化紅毛井　一枚　臺中州　彰化街役場藏

彰化神社の麓に在り甘泉渾々として今尚ほ湧出す古來彰化は淳良なる飲料水に乏しく偶々和闢人の此泉源を發見したる爲め此名ありと傳ふ領臺後文化の惠澤に光被し彰化街には夙に水道敷設せられ今や其名を存するのみ

安平の紅毛井　一枚　史料展覽會藏

和闢人居住の當時黑奴をして之れを堀らしめしが安平の井水は水質不良の爲め臺南の大井より飲量水を仰ぎ此井の水は專ら雜用に供せしと云ふ

紅毛井　一枚　史料展覽會藏

和闢人居住當時之れを鑿ち灌園用に供せりと云ふ古書に曰く水質淡にして味甘く諸井に冠たりと臺南市小西門外に現存す

萬軍井　一枚　澎湖廳藏

馬公城内にあり一に師泉井又媽宮大井といふ『澎湖廳誌』に據れば靖海侯施琅水師提督として鄭氏を討つの時先づ湖澎を略して兵進餘を駐せしに水泉乏しく大に苦む施琅之を媽祖に祈るに甘泉立ろに湧き汲めども淡々として竭きざりしを以て萬軍井と名くと是れ陳昂の詩に『仰伏威靈涉險來、地轉海鹹生淡水』と句ある所以なり

孔子廟樂器　廿五種　臺南　須田義次郎氏藏

臺南孔子廟の祭儀に用ゆる樂器を撮影したるものにして其種類左の如し

鼓、鼗鼓、鐘、磬、柷、敔、琴、瑟、壎、篪、笛、塤、排簫、箎、笙、羽

縣社開山神社列格額　一枚　臺南　開山神社藏

開山神社は明治三十年一月縣社に列せらる扁額は時の臺南縣知事磯貝靜藏氏の謹書なり

樺山總督の奉納額　一枚　臺南　開山神社藏

明治三十年開山神社が縣社に列格せらるる際初代臺灣總督樺山資紀伯が奉納せられし扁額にして「力挽廻瀾」の四大字を書す

鄭姓家廟の扁額　一枚　史料展覽會藏

臺南市白金町一丁目所在全臺鄭姓家廟の楣間に掲げられたる扁額にして『三圭世錫』の四大字を書し石井四代の孫鄭汝成の立つる處に係る

因に石井祠堂の聯文中『三圭』の文字あるものを載れば左の如し

尺土守孤忠誰云海外要荒不登史册
三圭綿世澤卽此天朝寵錫永固河山

又た曰く

三圭深雨露　五馬壯河山

華山殿扁額　一枚　寧靖王廟藏

高雄州岡山郡竹滬庄所在寧靖王廟の扁額にして「華山殿」の三字を題せるは王の別號の華山なるが故なり

寧靖王の書額　一枚　史料展覽會藏

臺南市本町二丁目の北極殿は早く明末の創建に係る當時寧靖王狩獵に出る毎に此廟に小憩す扁額の威靈赫奕の四大字は現に王の書なり因に北極殿の祭神は玄天上帝なり

穀物科量器　一枚　臺南州新營郡役所藏

昔時鹽水港地方に於て清政府が穀物科量標準の原器として備付けたる圓形の石桝なり

豐太閤の高山國勸降狀　一枚　臺南　富地近思氏藏

豐太閤が原田孫七郎を使者として高山國に致せし勸降狀を前田侯爵家にて寫眞に撮影したる四枚一組のものを屏風に仕立たるもの

夫日輪所照臨、至海岳山草木禽蟲、悉莫不受他恩光也、予際欲處慈母胞之時有瑞夢、其夜己日光滿室、室中如晝、諸人不勝驚愕、相士相案、占筮之曰、及壯年、輝德色於四海、發威光於萬方之奇異也故不出十年之中、而誅不義立有功、平定海内、異邦遐陬嚮者、忽出鄉國、遠泛滄海、冠蓋相望、結轍於道、爭先而服從矣、朝鮮國者自往代於、本朝有牛耳盟、久背其約、況又予欲征大明之日有反謀、此故命諸將伐之、國王出奔、國城付一炬也、聞事已急、大明出數十萬援兵、雖及戰鬪、終依不得其利、來勅使於本邦肥之前州而乞降誅、之築數十个城營、收兵於朝鮮域中嗟尙遺、而屢々決眞僞也、如南蠻、琉球者年々獻土宜、海陸通舟車、而仰我德光、其國未入幕中、不庭之罪彌天、雖然不知四方成享、則非其地疎志、故原田氏奉使命而發船、若是不來朝可令諸攻伐之、生長萬拜者日也、枯渴萬物亦日也、思之、思具

文祿二歲星集癸巳十一月初五日

日本國　前關白　（印）
高　山　國

施琅撰文碑　一枚　史料展覽會藏

明の寧靖王の故宅一元子園亭を利用し清の康熙二十二年施琅の奏請に依り之れを媽祖廟となし工成るに及んで清帝特に禮部を遣して祭を致し天后を加封す碑は施琅の撰文に成り大に媽祖の功德を頌したるもの

澎湖施公清臺碑　一枚　澎湖廳藏

澎湖馬公の施將軍廟に附屬し所謂施公の清臺碑あり卽ち其全文左の如し但し文中缺字は摩滅讀む能はざるものに係る

清臺碑記

閩海汪洋之東有島曰澎湖明朝備倭更番戍守及鄭氏據臺灣勢爲咽喉環島要害皆設砲臺因以爲城康熙二十年辛酉八月閒余奉命專征至閩葺議成以浩渺之表難以奏膚余及矢策艕舟漸訓甲兵歷有歲餘以二十二年癸亥六月二十日乘南風由銅山進師直抵八罩偽師劉國軒統衆拒敵風息潮退難以進取余暫收軍八罩再申軍令以二十二日揚帆齊發砲聲駭浪火焰衝天將士用命奮戰盡焚其舟而破其壘偽軍盡殄屍浮海中以口青波時以爲偽軍俱亡不知其僅以身免乘小艇匿販艘二十餘遁去也所有在水中撈起偽將士八百餘帶傷負創喘息猶存者俱施以醫藥浹月痊愈仍給糧食撥船載歸令其傳諭臺灣東身歸命其陸地偽將卒楊德等四千餘員名倒戈乞降余更奏請奉有旨赦其前罪是以臺灣人心咸知有生紛紛內潰偽藩及偽文武自度勢窮雖保修降表至矣余□于□八口□□躬臨赤嵌受降海疆從是廓清以數十年來未靖之波臨淵血戰始定則斯島謂非嚴區歟爰是誌於□□□□朝□成之故記之云太子少保靖海將軍靖海侯世襲罔替水師提督事務施琅立

民番地界碑　一枚　臺中州東勢郡石岡庄役場藏

本島人移住の歷史を原ろに福建族先づ平地の蕃族を山手方面に逐ひ更に廣東族は山手方面の蕃族を奥地に驅逐し割據したるものなり斯くて民蕃雜處を避くる爲め乾隆二十一年卽ち今より百七十四年前彰化知縣張立此の碑を東勢郡石岡庄土牛に建立す是れ平地に近き先住蕃人と熾に干戈を交えたる歷史を如實に物語るものにして今尙ほ此の地方には土牛卽ち掩堡及び銃櫃等各所に其跡を存するを見る

番人告示碑　一枚　臺南　坂本寫眞舘藏

土地に關し蕃人に對する告示碑にして乾隆十七年之れを立つ今は臺南州曾文郡官佃庄官田公學校內にあり或は云ふ此碑彼の有名なる官佃庄の關文碑の譯文ならんと

特調福建臺灣府諸羅縣正堂加三級紀錄三次記大功二次徐爲弛禁累番等事乾隆十七年八月十四日蒙
本府憲陳信牌乾隆十八年八月初二日蒙
布政便司顧憲牌乾隆十七年六月二十五日奉
總督部堂喀托本司詳査得諸羅縣社番麻好猫荖眉著大護吧嗎逸他加力他吧狸斗寧等呈控弛禀累番一案先經前署司詳奉憲檄行司移行鎭道府査照本部院所指情節磯察情形悉心酌議分晰條故通詳等因遂卽移行確査酌議去後茲據臺灣鎭道府先後議覆前來本司覆如核議査臺地番黎旣經歸化日久卽屬于民自應加意撫恤不便擾累但別除積弊亦應明定章程不便模糊立案致啓將來擾累之漸如廳縣起解錢糧赴府各衙門自有兵丁快役沿途又有護送營兵原可無需番黎防護至扛擡銀桶有准銷水脚更不違例派撥番夫使開解費應革除至各營赴府領餉本營自有差委之辨兵沿塘有衛进之兵丁所有扛擡脚費各營均有流傳公項豈得歸入私槖反派番黎護送致與設立衛民之道相左應茲請草除倘秋淋水漲之時或廳縣前往生番界邊相驗本衙各有壯役輪夫人等自能引路扛擡若必借番夫一二名引路扛擡各色准其酌量派撥未免又啓將來弛禁累之端並亟行禁革以安番黎再班兵換班已經欽奉
恩旨于生息銀內按名賞給盤費其車輛等項又經欽奉
諭旨于官庄銀內按里賞給錢文自可隨便僱倩未便仍撥番夫致使兵丁侍強鞭撻番黎隱受欺淩況鳳山縣轄之南路等營赴府承領餉銀以及換班兵丁往來俱係自僱夫車從無派撥番車之例、相安已久北路等營、自應倣照而行且邇來縣地人民、日衆處處桃夫、可僱應請將前項官庄車輛銀兩在縣扣出歸于該營衙門存貯俟各兵換班之日按名給錢文聽其自僱桃夫撥番積弊應請永行禁革至于大員出巡旣按里給發錢文又另加犒賞自擾累番亦須明定章程如察院鎭道出巡准撥番夫五十名番車四輛知府出巡番夫四十名番車二輛每車每里給錢五文番夫一名每名每里給錢三文隨時當官面給以絕扣尅再犒以相布酒肉等物以示撫恤若此外遇地方有緊要事務或應調遣番衆者因非常有之事亦須詳明曉示使知奉公大義至其餘文武大小各官一切公務俱不許給票撥番如有違該管上司卽行掲報參究倘徇隱不報或被番黎首告卽行一井參究伏候
憲臺察奪批示以便給示飭令勒石求禁等緣由奉批均如許移行遵照給示勒石嚴禁永定章程至其餘文武大小各官一切公務不許給票集番倘有有違玩班管上司立卽
掲報參究仍候
撫部院批示繳又奉
前巡視撫都院潘　批仰候
督部堂批語同司詳抄錄隨詳飭知在案茲奉因除移臺灣鎭道知照外合行飭知爲此牌佈該府官吏照依
院批司詳內事理、立卽出示禁革嗣後凡運嗣解糧換班兵丁及文武大小各官往來一切公務不許給票撥番茲擾仍飭所屬番社勒石嚴禁永定章程

井移廳縣遵照除倘有仍前違立卽掲報參究仍先將出過緣由同牌奉照刷三副送司以憑轉送毋得違延有示未便等因蒙此合行示禁爲此閤屬井作番民人等知悉嗣後凡運解將撫班兵丁番文武大小各官往來一切不許派撥番夫車輛擾累社番永定章程勒石遵照禁革倘敢仍前違玩立卽掲報參究各宜遵守毋違特示

乾隆十七年九月　日給

土目　吧突　猶郎　天鳥哱　勞吠

浮臏　茈溢　買投　猫厘　同勒

澳底御上陸記念碑　一枚　臺北州基隆郡貢寮庄役場藏

北白川宮殿下の御遺跡の一たる澳底御上陸地に建設されある記念碑なり

北白川宮殿下莿桐庄御遺跡　一枚　臺南州斗六郡役所藏

御遺跡所は斗六郡莿桐庄にあり明治二十八年十月七日故北白川宮殿下の御宿營あらせられたる地なり往年地方民に於て碑を建て每年臺灣神社例祭當日地方有志者に於て祭典を行ふ斗六、虎尾、西螺地方よりの參拜者頗る多し

伏見宮貞愛親王殿下御上陸記念碑　一枚　臺南州東石郡役所藏

碑は臺南州東石郡布袋庄布袋にあり明治二十八年帝國征臺の師を起すや伏見宮殿下には混成旅團長として皇軍を率ひさせられ北部より澎湖島を經て十月十一日布袋嘴に御上陸あらせられたり當時多少の清兵此の地に駐屯し御上陸の當日彼我砲戰を交へ全庄殆んど破壞されたり殿下には此の日布袋に御宿營翌十二日布袋御出發途中土匪を掃攘せられ鹽水港に御着漸次南進せられ十月二十二日臺南に御入城遊ばされたり大正十二年一月官民相謀り其の御遺跡を不朽に傳へんが爲め爰に御上陸記念碑を建設し碑文並に揮毫は田總督の手に成り現に布袋稅關監視署構內に其碑を存す

東石忠魂碑　一枚　臺南州東石郡役所藏

明治二十八年臺灣我の版圖に歸するや陸軍少將伏見宮貞愛親王殿下には混成旅團長として征討の師を率ひさせ給ひ十月十一日布袋嘴に御上陸あらせられたり時に陸軍步兵二等軍曹金野德三郎外八名の兵士は斥候を命ぜられ頂東石港方面に向ひたるに偶々匪徒傒康の一隊約五百名の襲撃に遭ひ衆寡敵せず九名の勇士は十月十三日此處に戰死を遂げたり明治三十年時の樸仔脚辨務署長須田綱鑑氏は此の地に忠魂碑を建設し以て英靈を祀れり其の後歲を閱するに從ひ基礎崩壞し碑面の文字亦風蝕して後昆に傳ふべくもあらず時恰も昭和三年御卽位の御大典を擧げさせらるゝに際し帝國在鄉軍人會東石分會は御大典記念事業として郡下有志の賛助の下に之が改築を企圖せり超えて昭和四年九月工事に着手せんため碑下を發掘したるに計らずも此等戰死者の遺骨認識票彈丸及び軍裝附屬金具等多數發見し當時の慘狀歷然たるものあり依て發掘したる遺骨其の他を新に甕に收め舊位置なる新設忠魂碑下に埋沒し遺憾なきを期したり改修せる忠魂碑は東石港部落入口道路の右側北方共同墓地の中に在り高さ一丈二尺餘寸碑身七尺八寸正面巾三尺碑面に忠魂碑臺灣軍司令官陸軍中將菱刈隆書と刻し背面には戰沒兵士の官等級氏名及碑誌を刻したる銅板を嵌め工事費六百五十三圓を要したり

憲兵殉職碑　一枚　史料展覽會藏

明治三十年匪首柯鐵太平頂に起り附近を席捲せし際臺中州集々の憲兵屯所を襲ひ衆寡敵せず屯所員全部戰死を遂げたるを壯とし雲林（斗六）分隊長大越橘五郎氏『王臣蹇々匪躬故』と大書し殉職石碑を遭難地に建設す碑は現に集々公園に在り

臺東卑南大溪徒涉郵便遞送　一枚　臺灣總督府交通局藏

領臺當時郵便遞送の狀況なり

縱貫線完成前の郵便遞送　二枚　臺灣總督府交通局藏

野戰時代西部郵便遞送の狀況なり

安平沖郵便受渡　一枚　臺灣總督府交通局藏

鐵道敷設前海路使用當時安平港利用の狀況なり

基隆築港前に於ける郵便受渡　一枚　臺灣總督府交通局藏

野戰時代の實況なり

領臺當時の臺南野戰郵便局　一枚　臺灣總督府交通局藏
一般郵便局開設前の野戰郵便局にして寫眞は臺南市白金町溫陵廟を局に充當したる當時のもの

臺南郵便局舊局舍　一枚　臺灣總督府交通局藏
前に同じ

浸水營越蕃人郵便遞送　一枚　臺灣總督府交通局藏
東海岸への横斷郵便線路なり

國勢調査繪葉書　三枚　臺南　石陽唯氏藏
明治三十八年十月一日第一回臨時臺灣戸口調査同く明治四十年十月一日第二回臨時臺灣戸口調査并に明治四十一年十月十日第三回臨時臺灣戸口調査の際に於ける記念繪葉書なり

陶磁器及硝子器の部

嘉義交址燒　三個一組　臺南　佐々木紀綱氏藏
關羽を主像とし周倉、關平の兩脇士と共に三個一組の陶像にして道光年間の人葉王、和雲の燒けるる嘉義交址に係り本島文化の粹と稱せらる

嘉義窄陶聲　一個　臺南州新營郡鹽水陳宗能氏藏
清の道光年代嘉義の名工葉王、和雲燒く處ろの交址燒の馨にして紫擅の臺附精巧のものなり

平戸燒茶碗及皿　高雄　楠田金之亟氏藏
錦手茶碗及び皿　各五個
染付茶碗及び皿　各拾個
鄭成功時代平戸より澎湖、安平へ輸入せしものならん現今平戸に於ては其精巧なる製作絶えたりと云ふ

平戸燒（茶碗）　臺灣總督府博物館藏
古來澎湖及び安平等に傳世す

南清燒（中皿）　臺灣總督府博物館藏
大正四年澎湖本島灣内に於て二三百年前の沈沒船内より拾上げたるものにして臺北横山虎次氏より同館に寄贈したるものに係る

平戸燒皿附の茶碗　五組　臺南　鹿沼留吉氏藏
染付同一模樣なり元來平戸燒は一個二個の端物は入手し易きも無傷五組以上のものは容易に入手するに難し

平戸燒茶碗　二個　嘉義　鄭作型氏藏
「華夷變態」に毎年長崎に渡す商船を國姓爺船と號すとあり之れは鄭成功直屬の貿易船なり平戸燒の臺灣に輸入する此時を以て最とす

平戸燒小皿　五枚　臺南　福島猪熊氏藏
和蘭及び鄭氏時代に於て平戸貿易盛に行はれ澎湖井に安平に移入したるもの尙ほ臺南地方に遺存す

平戸燒花瓶　一個　高雄　柳郷忠太氏藏
染附け唐子模樣平戸燒中花瓶なり

平戸燒茶碗　十組　臺南　桐右馬太氏藏
盡附茶碗にして臺皿を附屬したる傳世無傷なり

國聖瓶　一個　厦門　曾厚坤氏藏
厦門附近の海中より拾得したるものにして鄭芝龍、成功時代の遺物なりと云ふ

鄭成功の陶像　一體　臺南　桐右馬太氏藏
染付の陶像にて鄭成功の像としては寧ろ意氣昂れるの感あり全長一尺二寸祭祀用と云はんよりは置物に適す

古磁碗　三個　臺南　開元寺藏
一は宣德年製とあり一は嘉慶年製とあるも宣德年製のもの却つて嘉慶年製のものより新らしく今一個は純然たる康熙五彩なるを以て三個共明の天子より鄭成功に賜りしものなりと云ふは確に俗說なり

五彩大皿　一枚　高雄州岡山郡阿蓮庄林智氏藏
康熙五彩の大皿にして寧ろ骨董の部に屬す

赤繪古茶碗　一個　臺南　許長氏藏
明時代傳世的古茶碗なる點に於て優れり

醬油瓶　一個　臺北　稻垣其外氏藏
高さ六寸の白色の陶製瓶にして胴に JAPAN SCHZOYA と文字あり薩摩藩が和蘭陀貿易向として醬油の輸出に用ひしもの

和蘭陀壺　一個　臺北　西樵仙氏藏

此壺の用途は昔時長崎渡りの和蘭陀練藥の容器なりと云ふ

和蘭燒杯　一個　臺北　西樵仙氏藏

和蘭描法に成りたる模樣及び糸底に記せる數字等にて略ぼ其の年代を推定するを得べく德川利期傳來のものなるを知るべし

和蘭描繪皿　一枚　臺北　西樵仙氏藏

長崎にて得たる和蘭描繪皿なり

和蘭陀花瓶　一個　臺南　黑星東太氏藏

出品者は和蘭陀製花瓶なりと云ふ而して安平より出しものなりと云ふ

和蘭陀花瓶　一個　臺南　長谷川貞成氏藏

和蘭中古の花瓶にして出品者が關領たる南部バタヴィヤより携へ來れるものなり

近代畫和蘭陀皿　一枚　臺南　長谷川貞成氏藏

質は磁器にして裏面に一種の記號あり

和蘭陀花瓶　一個　臺南　丸岡吉太郎氏藏

出所を詳かにせず但し和蘭陀花瓶なる點に於て些の疑ひなし

和蘭陀皿　一枚　臺南　黑星東太氏藏

浮出し模樣紫色釉安平より得たるものにて食器の一種ならん

和蘭食器皿　一枚　臺南　土井行三氏藏

繪の具皿の如く區劃を施し食卓用藥味入の如く作られたるものなり

食器及銀匙　一組　臺南　鹿沼留吉氏藏

和蘭陀藍繪印磁製食器にして別に銀製の大匙を添へたり

和蘭陀酒壺　一個　臺南　鹿沼留吉氏藏

蓋付藍繪浮出模樣あり

和蘭陀小壺　一個　臺南　鹿沼留吉氏藏

色繪花模樣和蘭陀磁製小壺

南蠻燒大花瓶　一個　臺南　池邊來太郎氏藏

南蠻の古瓶にして花瓶に應用したるもの無傷傳世なり

西洋皿　一枚　臺北　稻垣孫兵衛氏藏

徑八寸八分にして藍繪印銘に IRONSTONE CASSINO. W ADAMS & SONS とあれども彼の德川家康より三浦按針の名を貰ひたるアダムスに關係あるものとは俄かに斷ずるを得ず何となれば三百年前に藍繪の印刷などあるべき筈なく印刷は遙か後ちのことなればなり然れども其品の立派にして頗る優れたるものなることは驚くの外なく明治三十九年帝室博物館にて嘉永以前西洋輸入品展覽會ありし際も藤堂子爵家井に茨城縣鷹見家より同樣のもの三枚出品せられあるも三浦按針に關して說明されあらず而かも稻垣氏出品のものは更に一寸程大きく珍品たること疑ひなし

臺附西洋皿　一枚　臺南　鹿沼留吉氏藏

藍印畫なり「リボン、エフ、ジョンズ、ロンゲボン」の銘あり

臺附の皿　一枚　臺北　稻垣其外氏藏

色繪綠模樣銘に「ニュー、ストン」とあり

西洋皿　一枚　臺南　淺井運氏藏

藍繪印にして銘にイングランドとあり

安平の西洋皿　數枚　臺南　黑星東太氏藏

世俗安平より出る西洋皿は悉く和蘭陀皿と稱するは噪ふべし現に安平には最近まで英國領事館、ヘスチング、ペイン、テイトの外ポンペイ人さへ居住し居りたるを以て此等官民の遺品從て多々あり故に此等の遺品は概して英米の陶器なり

西洋皿　七枚　臺南　黑星東太氏藏

鳶色繪印　四枚
綠繪印　一枚
淡紅色繪印　一枚
藍繪印　一枚

安平出土西洋皿　一枚　臺南　黑星東太氏藏

安平より發掘したりと云ふ西洋皿にて手法頗る精巧を極む蓋し珍品たるを失はず

西洋皿　六枚　臺南　黑星東太氏藏

藍繪印　三枚
銘ミレトンズ、ノーフォーク
藍繪印　一枚
銘ローヤル、セミ、ポースレン、エルブロー、パツターン、プーヅ、イングランド
藍繪印　無銘　一枚
藍繪印　一枚
銘…グランド

バイワン族の蜻蛉玉　二百五十一個　臺南　鹿沼留吉氏藏

臺灣先住民の有てる驚くべき固有文化殊に南蕃バイワン族の蜻蛉玉

蜻蛉玉參考品　數十種　臺南　鹿沼留吉氏

參考として臺灣以外の蜻蛉玉の出品せられしもの左の如し

北海道アイヌ族蜻蛉玉　十八個
支那蜻蛉玉　大　一個
日本內地の蜻蛉玉　十三個
伊太利製蜻蛉玉　一連

北蕃の蜻蛉玉　三十三個　臺南　鹿沼留吉氏藏

臺灣中部以北所謂北蕃の蜻蛉玉はこれを南蕃の蜻蛉玉に比し稍や劣れり

臺灣蜻蛉玉　數百種　臺南　田中吉雄氏外四氏藏

トンボ玉　一連　田中吉雄氏出品
同　二十一個　同　氏出品
同　一連　鹿沼留吉氏出品
同　二連　山口スエ氏出品
同　百六個　同　氏出品
同　四十四個　豐田キヌ氏出品
同　大　一個　黑星東太氏出品

ガラス繪額　一面　臺南　桐右馬太氏藏

支那に發達せしガラス繪にして蘇州附近の景なるが如し

ギヤマン皿　一枚　臺南　山本彌市氏藏

古渡り「ギヤマン」皿にして和蘭陀製なり

ギヤマン鹽容　一個　臺中州員林　桑原政夫氏藏

和蘭陀ギヤマン鹽容器

綠色ギヤマン皿　一枚　臺中州員林　桑原政夫氏藏

和蘭陀綠色ギヤマン皿

和蘭ギヤマン皿　一枚　臺南　平田鹿郎氏藏

安政年間蘭人より堀田備中守正睦公へ獻上せしギヤマン皿にして伯爵堀田一中公より拜領品

和蘭陀硝子器　一個　臺北　尾崎秀眞氏藏

和蘭陀ギヤマン食器の一種にして頗る珍形をなせるものなり

ギヤマン食器　一個　臺南　林觀濤氏藏

相當時代を經し和蘭陀「ギヤマン」の椀にて用途は食器の一種ならん

赤色ギャマン菓子器　一個　臺南　桐右馬太氏藏
形態の式古く和蘭陀の特長を顯す殊に赤色なるを珍とす

ギャマン、コップ　二個　臺南　桐右馬太氏藏
硅石硝子にあらずして參製ギャマンなること明かなり出品者は和蘭陀ものなることを主張す

ギャマン、コップ　五個　臺北　稻垣其外氏藏
葡萄模樣あり

ギャマン、小コップ　二個　臺北　西樵仙氏藏
長崎にて得たる和蘭陀「ギャマン小コップ」一對

ギャマン、コップ　一個　臺北　西樵仙氏藏
長崎にて得たる和蘭陀「ギャマン、コップ」なり

ギャマン大コップ　六個　臺中州員林　桑原政夫氏藏
ギャマン、大コップ牛打

紫ギャマン、コップ　五個　臺中州員林　桑原政夫氏藏
紫色ギャマン小コップなり

西洋硝子罎　一個　臺南　黑星東太氏藏
安平にて發掘したるものにて化粧液の容器なり

古洋燈　一臺　臺南　桐右馬太氏藏
臺は英國製にして火屋は「オーストリヤ」製なり

和蘭ギャマン皿　數枚　臺南　桐右馬太氏藏
臺灣文化三百年記念會の際來臺せられし日本駐劄の和蘭公使パプスト氏曰く貴國人は西洋の優秀なる陶器及び硝子器は悉く和蘭陀なりと稱せらる是れ弊國の最も名譽とする處なりと

器物の部

寧靖王の玉奏板　一個　臺南　三郊組合藏
玉製の笏の如きものにして上奏文等を捧ぐる際の用に供するもの今は千萬金に代へ難しと稱し國寶扱をなし居れり

銅製雲板　一對　臺南　長谷川貞成氏藏
和蘭陀室內裝飾用の壁飾りにして男女各半身像を圓銅板に打出せるものなり

聖像容器　一個　臺北　稻垣其外氏藏
此器に聖像を嵌入し信者が胸間に吊したるものなり

茶盌　一個　臺北　稻垣其外氏藏
手附緣繪口徑三寸九分高さ二寸

御賜龍盌　一個　嘉義　王焜氏藏
嘉慶帝功臣王得祿伯爵に賜ふ處の五爪龍盌なり

御賜龍皿　一枚　嘉義　王焜氏藏
嘉慶帝功臣王得祿伯爵に賜ふ處の五爪龍皿なり

御賜白玉翎管　一個　嘉義　王子景氏藏
王得祿伯爵に嘉慶帝より賜りし白玉製の管にして式帽の翎を容るゝもの

御賜玉帶頭　一個　嘉義　王子景氏藏
嘉慶帝より王得祿に賜りし伯爵式服用の帶締めの飾なり

御賜白玉班指　一個　嘉義　王子景氏藏
王得祿伯爵に嘉慶帝より賜りし白玉の指環樣のものなり

御賜玉壺　一個　嘉義　王子景氏藏
王得祿授爵の當時嘉慶帝より賜りし玉壺なり

御賜玉瓶　一組　嘉義　王子景氏藏
嘉慶帝より王得祿伯爵に賜りたる玉瓶なり

王宮保朝珠　一串　嘉義　王子景氏藏
王得祿伯爵が禁中に參內の際用ゆる處の瑪瑙の首飾なり

御賜白玉齋戒牌　一枚　嘉義　王子景氏藏
嘉慶帝より王得祿伯爵に賜りたる禁中出入の齋戒牌なり

御賜王宮保肩章　一着　嘉義　王子景氏藏
嘉慶帝功臣王得祿に賜ふ處の五爪龍肩章なり

秀才式帽　一個　臺南　梁瑞圖氏藏
清國時代の秀才用帽子にして別に金花と稱する帽子飾二對を添ふ

式服用肩章　一套　臺南　梁瑞圖氏藏
清時代の秀才式服に附屬せる肩章にして四爪龍を刺繍し肩掛けの如き製式のものなり

青衿　一着　臺南　梁瑞圖氏藏
青衿は元來學者の着する衣服にして此場合式服用の下着と見るべし

秀才用荷包　四個　臺南　梁瑞圖氏藏
秀才式服用の荷包なり

時錶袋　一個　臺南　梁瑞圖氏藏
秀才用の時計袋なり

紅綾綢　二條　臺南　梁瑞圖氏藏
秀才式服用に供するもの

白綾帶　二條　臺南　梁瑞圖氏藏
秀才式服着用の場合に於ける帶紐の一種なり

扇子袋　一個　臺南　梁瑞圖氏藏
清政府時代の秀才用扇子袋にして金銀糸及び五彩の刺繍を施したるものなり

古扇　一本　臺南　石陽睢氏藏
明時代の戰爭畫を描く文人用の古扇なり

場籃　一個　臺南　石陽睢氏藏
科擧に應ずる受驗者が試驗場に携行する必要文具入れの籠なり

入試場籃　一個　臺南　梁瑞圖氏藏
清政府當時科擧に應ずる者が筆墨文具等を入れて試驗場に携帶せし籃なり

寧靖王遺愛の硯　一面　臺南　開山神社藏
曾て鹿沼留吉氏より開山神社に奉納せしものにして石質は端溪裏面に「三山半落青天外、二水中分白鷺洲」術桂の刻あり

鄭成功遺物石虎　一面　臺南　鄭定氏藏
石面に自から虎の模樣出しものを鏡とし硯屏を作れり出品者の祖先鄭成功の遺物なりと云ふ

秀才夏禮服　一着　臺南　林英心氏藏
清國時代に於ける秀才用夏禮服にして文秀才は鳥類の紋樣武秀才は獸類の紋樣を織出せるが本式服は文秀才のものなり

清國官人の夏帽　一個　臺南　石陽睢氏藏
本島特產の大甲蘭を以て精巧に造りたるものなり

雲錦々地　二枚　臺南　林英心氏藏
臺南雲錦號（白金町二丁目に元とありて今はなし）織元たる織布錦地にして北京朝廷の御用品に採用せられ臺灣文化の代表的製品の一なり

雲錦々地　一枚　臺南　陳明沛氏藏
雲錦々地は非常は精巧なる金欄地の織物にて清の乾隆時代より光緒年間迄存續紡織せりと云ふ

和蘭陀更紗　三枚　臺南　桐右馬太氏藏
和蘭陀古代更紗花模樣入織物なり

雜の部

石劍　一本　臺南　洪池氏藏
好古學者は此種石劍を以て護身用の武器と云ひ又一說には農具の一種なるべしとも云ふ

石劍　一本　臺南州曾文郡官田庄李　氏藏
此種石劍は南蕃特有のものにて石質自ら他に異ると云ふ

石劍　一本　臺南　胡丙申氏藏
石質堅緻彼の螺溪石に似て非なり

石斧　一個　臺南　鹿沼留吉氏藏
臺北劍潭臺灣神社境外貝塚より發掘せしものにして昔時北蕃の使用したるものに係る

石器砥石　一個　臺南　黑星東太氏藏
高砂族が出入胸間に帶べる砥石なり

火炮々身　一個　臺南　教育博物館藏
安平南方鯤鯓の砂中より發掘せしものにして口經四センチ三ミリメートル滑腔前裝にして砲身衣面には唐草模樣を附し全體青銅製なり照星は鳥形に作り砲尾上尾上面に火孔を有す砲尾の筒形をなせるは此部に捧等を嵌入し運搬及照準の爲めの小移動を行ひしものか傳說に闌人所有のものなりしと稱す

南洋刀　一口　臺南　長谷川貞成氏藏
和闌人佩用のものにあらずして闌領印度土人携帶の刀ならん

寧靖王の古劍　一口　臺南　林清泉氏藏
寧靖王が明清戰爭時代に用ゐし古劍にして寧靖王の瑩域より出しと傳ふ

長崎鍔　四個　臺南　桐右馬太氏藏
二個は卽ちクルス鍔と稱し十字架を變形したるもの他の二個は和闌陀鍔と稱し和闌陀模樣を圖案化したるものなり

廣丙號の砲彈　一個　臺南　津田毅一氏藏
日清戰爭當時沈沒せし支那軍艦廣丙號の砲彈にして海中より拾ひ得しものなり

青龍刀　一口　臺南州新化　吳庚申氏藏
滿清時代武科の士を取る法は多く弓、刀、石、馬、歩、射を試驗す弓は强弓を引かしめ刀は鐵大刀を舞はしめ石は重石を提げ馬は裸馬に乘じて球を射らしめ歩は歩調を定めて猴を射らしむ（俗に射靶と云ふ）大刀を舞はすの法は起手先づ左右に振り次ぎに一上一下而して後飛舞一番次で前後に周身し或は頭上に之れを載せ三匝して然る後止む此の青龍刀は重量百二十斤昔時大目降（今の新化街）の武侍衞吳士邦なる人の武を練るに用ゐし故物なり

武秀才用力石　一個　臺南　陳明沛氏藏
清政府當時武秀才を試みるに重石を提げしめて以て力量を驗す此石三百斤と註ぜられ又時に衡器にも應用したりと云ふ

保護國旗　一旒　高雄州恒春郡役所出品
明治七年征臺軍が牡丹社攻擊に際し石門に於て大勝を博するや附近十八蕃社の各酋長等我軍の武威に慴伏し歸順の誠意を表したるにより邪心無き各蕃社に對し保護票章として四鄉都督より國旗を與へたり因に本國旗は頂茄芝萊社々長パトガトンジヤジマラットの所藏に係る

この御旗を賜るものは我
皇國の大稜威に順し奉るあかしなれば假染にも汚すなかれと云
ふことしかり
明治七年五月

歸順良民旗　一旒　臺南　村上玉吉氏藏
明治二十八年臺南占領後約一週間市民は門戸を閉し軒頭に歸順良民

と手書せる小國旗を揭揚して皇軍を迎えたり日章の特に小なるは急造の狀思ふべし

明治七年役從軍記章　一個　臺南　山本隆造氏藏

明治七年征臺の役に於ける從軍記章にして小型銀製なり

梅干樽　一個　臺南　石陽睢氏藏

明治二十八年領臺の際軍人糧食品として移入されし梅干樽にして之れを證明する燒印を存す

御朱印船　模型一隻　史料展覽會藏

奉納繪馬及び長崎版畫等より建造樣式を採りたる御朱印船の模型にして臺南造船所技師の製作に係る

和蘭陀船　模型一隻　史料展覽會藏

南蠻屏風より建造樣式を採りたる和蘭陀船の模型にして臺南鵜田仲之助氏の製作に係る

和寇人形　一個　史料展覽會藏

裸體にして長刀を揮ふ胡蝶軍の雄姿にして臺南秋山春水氏製作の土人形なり

蘭人移植果　模型　史料展覽會藏

蘭人の手に依つて臺灣に移植したりと云ふ傳說ある果樹其他左の如し

波羅蜜　英名ジャックルートと稱し桑科に屬し最大なるものは一個八十封度に達す樹數多からず殆んど保護木視す

種自荷蘭實生甚異或根或幹或枝椏或楢皆結焉熟大如斗色綠磊砢似釋迦頭氣香如蕉液黏如漆房如石榴味甘酸子如皂中核微赤煮熟味類芋（諸羅縣誌）

釋迦頭　英名スキート、アップル一名スキート、ソップと稱し蕃茄枝科に屬し形狀は名詮自稱恰も釋迦の頭の如し似波羅密而小種自荷蘭味甘而膩微酸夏盡秋初熟一名番梨沈光文詩稱名頗似足誇人不是中原大谷珍瑞爲上林栽未得只應野島作安身（諸羅縣誌）

樣子　英名マンゴーの一種にして梧桐科に屬しマンゲステンに比し纖維多く味劣るも決して不味ならず臺灣南部特に多し

樣種自荷蘭切片以曉甘如蔗漿而清芬遠遇之沈文開雜記食畢棄核豫地當月卽生核中有子或一粒或二粒如豆之在莢葉新抽抄紅若丹楓老則變綠（諸羅縣誌）

苦柑　甘酸の間自から苦味强し故に此名あり

蕃柑種自荷蘭大於番橘、肉酸皮苦荷蘭人夏月飲水必取此和鹽搗作酸漿入之多樹園中、樹與橘無異、沈文開詩移出變方味作酸熟來包爆小金丸、假如移向中原去、壓雪庭前可看（草木雜紀）

蕃薑　薑の一種にして用途薑に同じ

蕃薑本木種白荷蘭開花白瓣綠實尖長熟時朱紅奪目中有子辛辣番人帶殼啖之內地名番椒更有一種、結實圓而微尖似奈種出咬嚼吧、內地所無也（采風圖攻）

蕃人粟倉模型　一個　花蓮港廳藏

蕃人の粟倉は床下高く壁に代ゆるに三角形の木材を組み上げ其形狀樣式頗る奈良正倉院の御物庫の建築法に似たるものあり

蟹轎模型　一個　花蓮港廳藏

東海岸地方の蕃人が卽座に製作する轎にして其の蟹轎と稱するは坐乘者橫向きに行進するを以ての謂ひにして臺灣の交通機關中最珍奇の物なり

蟹轎や臺東四十里春の旅　臺陽

清政府使用の電信機　一臺　臺灣總督府交通局藏

此の電信通信機は明治二十八年臺灣領臺の爲め我が近衞師團の征討に從事するに當り之に屬せし獨立野戰電信隊（當時隊長陸軍工兵大尉三村友藝）に於て最初に鹵獲せしものなり同年五月末近衞師團は三貂灣に上陸し六月三日基隆を陷れ更に二梯隊となり臺北に向ひ六月七日之を占領せり當時電信隊技長陸軍工兵中尉佐藤正武の率る一部隊は第一梯隊司令官歩兵第一旅團長陸軍少將川村景明の指揮下に在りて前進し其の夜錫口に至り夜半命を受け更に進んで八日未明臺北に入り直に電信局を占領し幾多の電信材料を鹵獲せり此等の材料は其の後輸送困難なりし本島の作戰に於て通信業務に貢獻すること

極めて大なりしものにして此の機實に其の一なりとす

謹みて之を臺灣神社に獻納し以て永く當時の紀念となすと云爾

大正六年十月十七日

北白川宮成久王殿下御渡臺の爲め御出發の日に於て

元獨立野戰電信隊長　陸軍少將　佐藤正武謹識

モールス印字機　一臺　臺灣總督府交通局藏

懷中電信機　一臺　臺灣總督府交通局藏

クリード自動電信機　一臺　臺灣總督府交通局藏

光緒年間の官用封皮　一枚　臺灣總督府交通局藏

領臺前の遞送記　一枚　臺灣總督府交通局藏

光緒年間の文書狀袋　一枚　臺灣總督府交通局藏

領臺前の郵政商票　一枚　臺灣總督府交通局藏

劉銘傳郵政發行（光緒十六年）明治廿三年

萬國郵便聯合加盟二十五年祝典記念スタンプ　臺灣總督府交通局藏

臺灣郵便印花　一枚　臺南　山本隆造氏藏

臺灣郵政局發行の二拾文切手なり

領臺前の臺灣切手　臺灣總督府交通局藏

清國政府が光緒十一年（明治十八年）發行せしもの小型龍切手と稱す而して臺灣用に供する爲め『臺灣郵票』と加刷され目打及び糊は施されあらず

記念郵便切手　臺北　宮島龍華氏藏

一　新高山模樣　參錢切手

一　同　壹錢五厘切手

右は皇太子殿下御渡臺記念切手なり

一　有栖川宮殿下　五錢切手

一　同　貳錢切手

一　北白川宮殿下　五錢切手

一　同　貳錢切手

右は日清戰爭凱旋記念切手なり

臺灣郵票　二種　臺南　山本隆造氏藏

臺灣民主國發行の印花卽ち郵便切手にして官の文書に用ゆる郵票にあらず私信に貼用する商票の類に屬し三拾文と百文の二種なり

糸印　五個　臺北　西樵仙氏藏

糸印とは慶長前後支那方面より輸入したる生糸の封印に用ひたるものにて內地にては平戸及び長崎臺灣にては安平にて多く發見せらる

安平糸印　六個　臺南　桐右馬太氏藏

長崎の糸印は鈕も刻も干支に因めるもの多きも安平にて使用せし糸印は雅印の體をなせるもの多きを異りとす

寧靖王印及び鐸の容器　一組　竹滬　寧靖王廟藏

印材は臙石にして寧靖王記の刻あり古來小作收納用に供せしものなりと云ふ容器は鐸にて製し古色蒼然頗る愛すべし王廟襲藏の什物なり

康熙帝の認印　一顆　臺南州新營郡鹽水陳宗能氏藏

清の康熙帝の認印なりと稱す

平埔番頭目の印判　十種　臺北　尾崎秀眞氏藏

基隆方面の平埔蕃三貂新社頭目用印判なり

船首飾木彫像　一體　臺中　大里武八郎氏藏

本像は汽船以前の西洋帆船の船首に飾られし神像にて出品者大里氏が明治四十二年淡水にて發見されしものに係る古代支那にては船首

に龍頭鷁首を刻し「フエニシヤ」潘臘、羅馬等の時代に於ても龍に似たる怪獸の頭を飾り以て水神を威壓して航海の安全を計りしものに外ならず降て十六世紀の頃に至り西洋にては海の精若くは風の女神などの神像を附すること流行せり彼の松浦伯爵家所藏の波浪神女王立像が慶長年間（一五九六年—一六一四年）肥前平戸に入港せし和蘭船の船首飾にてありしこと及び東京美術學校所藏の貨狄丼に足利龍光院の貨狄尊者の「エラスムス」像（西紀一六〇八年來航の和蘭船）等想到して本像と本島との因緣も知られ歴史的有益なる研究資料なり

因に臺南駐劄の天主公教會宣教師「アンヘル、マリア、ドリゲス」氏は本像を一見して是れ和蘭陀船の船首飾にあらずして正しく西班牙船の船首飾りなるべく而して强て斷ずれば「イサベラ」女王像ならんと云へり

鄭成功木像　三體　臺南　富地近思氏藏

明の招討大將軍延平王晋封潮王國姓成功の彫像にして兩脇士は甘輝張萬禮なり

國姓爺征臺上陸銀像　一揃　臺南州斗六街　方途氏藏

國姓爺軍が臺南に上陸したる際の銀像にして乘馬姿なるは嚮導の何斌と軍師の劉國軒及び主將鄭成功なり別に徒步の雜兵二人を附屬し五人一揃となり居れり

罫紙木板　一枚　臺南　石陽睢氏藏

今より五十五年前臺灣府が臺南にありし際本島商人が內地商人と取引用に使用せし罫紙木版なり

開臺聖王祠長卓　一卓　臺南　開山神社藏

天板に「開臺聖王」の四字を刻し左右の兩脚に「道光戊申年端月日吉置」「軍功八品職員高滋成叩謝」と刻せり

開臺聖王祠聯　一枚　臺南　開山神社藏

元來開山神社は鄭成功沒後開臺聖王祠の名に依つて民祭たりしもの清の同治十三年沈葆楨の奏請に依り聖旨官祭となり延平郡王祠と稱せらるゝに至りたるものなるが位置は現在の所と變りなく同一祭神にして名を代ゆること三度に及びたり今存する民祭當時の祭器は甚だ尠く此聯の如きも僅かに一面にして他の一面を失すと雖も片聯却つて貴く以て鄭成功の面目を躍如たらしむるものあり

數十年矢志匪他國祚已移此地猶共奉明正朔
道光丙午春初穀旦

蔣允烹の扁額　一面　臺南　陳明沛氏藏

蔣允烹の鴻指園を開設するや先づ園名を鴻爪雪泥に採る本扁額に飛鴻蹈雪泥の文字ある所以なり而して本扁額は鴻指園に掲げたるものゝ模刻なり

一峯亭の扁額　一面　臺南　林源氏藏

林朝英の裔孫たる出品者の家に藏する木刻の扁額にして一峯亭の三字を大書す

朝英字は伯彥一峯亭と號す臺南に住し家頗る富む縣學文廟等に出捐し「重道崇文」の旌表を賜ふ林清の變營中に相善者あり書函往來不軌を潛示す朝英之れを非とし報書諫止し痛く利害を陳ず事敗れ黨人を索むるに當つて卽ち朝英の書を發見し上之れを嘉し召して入見せしめんとす然れども病を以て固辭す

瑞寶埋木細工卓　一枚　史料展覽會藏

臺南の生みし名工故陳瑞寶製の長卓にして現に市內本町二丁目北極殿に備付けあり實に瑞寶の木象嵌は臺灣文化の一代表品たり

鄭軍上陸圖扁額　一面　嘉義　林英富氏藏

鄭軍臺南上陸を圖せる木彫扁額にして新製品なり

寧靖王書聯　一對　臺南　陳明沛氏藏

寧靖王は氣節文章の人其斷簡零墨にも爲人を窺はる

木製長方形聯　一對　臺南　黑星東太氏藏

清人作る處の對句を刻せし聯なり

明朝の古錢　百十九種　高雄　楠田金之亟氏藏

大中通寶　大中小　七種
明の太祖卽位前の鑄錢なり
洪武通寶　大中小　十四種
明の太祖洪武年間の鑄錢なり
永樂通寶　一種
明の成祖永樂年間の鑄錢なり
宣德通寶　一種
明の宣宗宣德年間の鑄錢なり
弘治通寶　一種
明の孝宗弘治年間の鑄錢なり
嘉靖通寶　一種
明の世宗嘉靖年間の鑄錢なり
隆慶通寶　一種
明の穆宗隆慶年間の鑄錢なり
萬曆通寶　中小　七種
明の神宗萬曆年間の鑄錢なり
泰昌通寶　一種
明の光宗の年號なるも此錢は喜宗の天啓元年に鑄たるものなりと云ふ
天啓通寶　大中小　九種
明の喜宗天啓年間の鑄錢なり
崇禎通寶　大中小　二十八種
明の毅宗崇禎年間の鑄錢なり
弘光通寶　三種
明の安宗弘光年間の鑄錢なり
隆武通寶　中小　五種
明の紹宗隆武年間の鑄錢なり
永曆通寶　大中小　十三種
明の永明王永曆年間の鑄錢なり
同上　三種
鄭成功明の永明王の正朔を奉じて臺灣に於て鑄る所と云ふ
大明通寶　一種
明の魯王弘光年間浙江に於て鑄る所と云ふ
永昌通寶　大小　二種
李自成僭して王となり永昌年間に鑄る所なり
大順通寶　大小　三種
僭王張獻忠大順年間の鑄錢なり
興朝通寶　大中小　三種
孫可望の鑄錢にして可望は張獻忠の義子なり
利用通寶　大中小　七種
吳三桂僭立以前に鑄る所なり
昭武通寶　大小　三種
僭王吳三桂昭武年間に鑄る所なり
洪化通寶　三種
同上洪化年間の所鑄なり
裕民通寶　大中小　三種
僭王耿精忠の所鑄なり

銀塊　一個　高雄　楠田金之亟氏藏

西班牙國の古貨幣にして「ロゝイ」銀と云ふ明治年間臺南市に於て建物敷地跡より發掘に係るものなり元來此貨幣には大小二種あり大は重量七匁四分小は三匁七分なるが本品は其大なるものなり

明末古錢　臺南　石陽睢氏藏

明の熹宗　天啓年間鑄造　天啓通寶
明の思宗　崇禎年間鑄造　崇禎通寶
明の福王　弘光元年鑄造　弘光通寶　大小
明末大西張獻忠　大順年間鑄造　大順通寶
明末吳三桂僭立前鑄造　利用通寶
明末吳三桂僭立後昭武元年鑄造　昭武通寶　大小
明末吳三桂の孫吳世璠洪化年間鑄造　洪化通寶　大小
明末閩省耿精忠裕民元年鑄造　裕民通寶　大小

明の永曆通寶　臺南　石陽睢氏藏

一分　永曆通寶　大一枚
楷書　永曆通寶　小一枚
行書　永曆通寶　小一枚

篆書　永曆通寶　小一枚
明末永明王の永曆年間鄭成功明の正朔を奉じ臺灣に於て鑄造せしものに係る

光緒元寶　銀貨　臺・南　石陽雎氏藏
清の光緒十六年臺灣に於て鑄造せし庫平七分二厘の拾錢銀貨なり

和蘭銅貨幣　臺南　石陽雎氏藏
一八八〇年—一八八四年發行　二半セント銅貨　一枚
一九一二年—一九一七年發行　二半セント銅貨　一枚
一八九八年—一九〇六年發行　一セント銅貨　一枚
一九一六年—一九二二年發行　一セント銅貨　一枚

和蘭植民地用銅貨幣　臺南　石陽雎氏藏
一八五八年發行　蘭領印度通用　二仙半銅貨　一枚
一八五五年發行　蘭領印度通用　一仙銅貨　一枚
一九二〇年發行　蘭領印度通用　一仙銅貨　一枚

外國銀貨　三枚　臺南　陳明沛氏藏
メキシコ銀、米國銀、滿洲銀の三種にして各一圓の銀貨なり

メキシコ銀貨　一枚　臺南州曾文郡官佃庄陳老遲氏藏
官佃庄和蘭陀開墾地跡より出土せし古銀貨なり

永曆古錢　一枚　臺北　稻垣孫兵衛氏藏
普通行體の永曆古錢なるも臺灣蕃人の手に保存しありしを異りとし珍とす

永曆通寶　三枚　臺北　稻垣其外氏藏
鄭氏が領臺中に鼓鑄せしもの三體とも長崎にて鑄造せしとの傳說あるも詳かならず

銀貨及び古錢　額面二枚　臺南　平田鹿郎氏藏
臺南の坊間にて得しもの及び附近の墓地整理の際發見したる外國銀貨并に字變り古錢を二面の額に製したるもの

寬永通寶　五枚　臺南　陳明沛氏藏
長崎にて鑄造せりと傳へらるゝ古錢なり

咸豐通寶　一枚　臺南　村上玉吉氏藏
嘉義に於て鑄造せられたる點に於て有名なる五十文咸豐通寶なり

古錢　三枚　臺南　佐々木省三氏藏
・熙・寧・元・寶・　寬永三年肥前長崎にて鑄造せしものに係る
・景・德・元・寶・　一名山頭景德と云ふ
□□通・寶・　安平の海底より拾得したるものにて蠣の附着を保存する爲め二字不明

古銅錢　十個　臺南州曾文郡官佃庄黃妙元氏藏
光緒元寶の一種にして金質宣德銅に類し薄小なるを以て旅行用に便す

康熙元寶　一個　臺南　山本隆造氏藏
康熙年間臺灣にて鑄造せし一文錢なり

刻印附銀貨　一枚　臺南　山本隆造氏藏
日本圓銀通用前の通貨たるメキシコ銀貨一圓のものにして刻印を施し信とせしものなり

臺灣鑄造錢　一個　臺南　山本隆造氏藏
太平天國時代臺灣鑄造の一文錢なり

臺灣通用圓銀　二枚　臺南　山本隆造氏藏
明治七年臺灣通用　一圓銀貨　前期鑄造
同　同　後期鑄造

足紋省銀　一個　臺南　山本隆造氏藏
臺灣民主國鑄造足紋省一兩のものなり

臺灣官銀　一枚　臺南　山本隆造氏藏
臺南造幣官局鑄造一兩銀貨なり

臺南官銀票　二枚　臺南　陳鴻鳴氏藏
潛稱臺灣民主國僞統領劉永福發行の一元軍票なり

臺南官銀票　一枚　臺南　石陽雎氏藏
清の光緒二十一年臺灣民主國臺南官總局劉永福發行の庫平銀一大員即ち銀一圓の紙幣的軍票なり

臺南官銀票　三枚　臺南　酒井清十郎氏藏
支那紙木板刷にして梅竹寶器等の模樣輪劃を附す

臺南官銀票　一枚　臺南　張振樑氏藏
官銀錢票總局の一元軍票にして「兌票支付73平銀一大員照」「不法棍徒行用假票軍法究訊」光緒二十一年七月十二日榮字八百四十一號」等の文字あり

股份票　一枚　臺南　張振樑氏藏
臺灣民主國の五圓債券にして「安全公司」「現收來銀伍大員正此據」等の文字あり

股份票　一枚　臺南　陳明沛氏藏
臺灣民國當時劉永福が軍資に窮し發行したる銀五圓の債券なり

股份票　二枚　臺南　蔡津涯氏藏
五圓債券にして製式官銀票に大差なし

陶器茶碗　三個　臺南　林清泉氏藏
明の寧靖王の墓より出し陶器茶碗にして寧靖王廟に保管しある同墓出土の茶碗同一對のものなり

磁製出土壺　三個　臺南　鹿沼留吉氏藏
所謂安平壺の一種なるも形狀異くして他に異る臺南醫院擴張の際廣慈庵の境內より出土せしものなり

磁製出土壺　十個　臺南　桐右馬太氏藏
臺南及び安平の土中より掘出さるゝ壺にして大中小の種類を揃へたるもの俗に安平青磁と稱し又臺灣スンゴルクと稱す

日本原始提瓶　一個　臺南州新營郡鹽水陳宗能氏藏
素燒にして出土品數千年前のものなりと稱す

貝塚の蛤貝　二個　臺南　村上玉吉氏藏
臺南郵便局內無線電信塔建設の際地下六尺の所に層をなせし貝塚の蛤貝なり

文石書院古瓦　一個　臺南　村上玉吉氏藏
澎湖島馬公文澳文石書院の古瓦なり

竹の化石　一個　臺南　村上玉吉氏藏
烏山頭嘉南大圳工事中出土の竹の化石なり

麻豆出土品　十點　臺南州曾文郡麻豆　鄭挑氏藏
和蘭陀遺跡と稱せらるゝ麻豆附近の開墾地より出土したるものなり
・和・蘭・銀・貨・染・附・花・瓶・和・蘭・陀・瑠・璃・寶・
（小形）一枚　（首飾用）五個　（通貨用）二個　二個

古玉牌　一個　臺南州曾文郡官佃庄陳老遲氏藏
官佃庄附近の開墾地より出土せし玉牌なり

安平の石將軍

赤崁城址に於ける
和蘭公使手植の榕樹

シャコ貝　一個分二枚　臺南　陳璧如氏藏
臺南武廟裏の地中よりの出土品なり

素燒青色花瓶　一個　臺南　蔡津涯氏藏
高雄州岡山郡竹滬庄所在寧靖王墓地より出土せしものなりと云ふ

沈沒船の陶器　數種　臺南　村上玉吉氏藏
澎湖島港内沈沒船中より得し古陶器にして小皿、飯茶碗、茶呑茶碗散蓮華等數種あり何れも支那貿易品にして風化の痕著し

廢墓地出土品　數種　臺南　日蓮宗妙經寺藏
臺南市南門外妙經寺所在廢墓地整理の際發掘せし交址燒觀音像、玉腕碗、古錢、指環、小香爐、茶碗、玉の耳環、壺等の出土品なり

玉　二個　臺北　稻垣其外氏藏
和闐陀製品なり

文石　數種　臺南　村上玉吉氏藏
文石は世界中伊太利と澎湖島のみに產する奇石にして往昔清朝初期時代には宮廷貴紳の間に愛玩せられ廣く世上に散布するを惜み官憲の手に採掘せし程なり故に清初の舊誌には文石に關する記事頗る多し

珊瑚　一個　臺南　村上玉吉氏藏
大正二年内臺航路基隆を距る約三百五十浬の位置に於て「トロール」船の網に懸りし珊瑚にして本島珊瑚漁の嚆矢をなせるものなり

金鑛石　礦　基隆　臺陽鑛業株式會社藏
臺灣北部砂金及び瑞芳金山の沿革左の如し
明治二十三年時の臺灣巡撫劉銘傳が臺北、基隆間の鐵道工事を起し今の七堵停車場の北一町餘の處に鐵橋を架するに當り偶々基隆河床の砂礫中に砂金粒を發見したるが實に我臺灣北部產金地開發の濫觴なりとす其際該工事に使役したる苦力の中曾て清國福建廣東方面の出稼人として米國「カルホルニヤ」及「オースタラリヤ」等の產金地に於て砂金採收に從事したるものありしかば直に其採金法を應用して盛に採收し漸次上流に遡りて探鑛したるの結果明治二十六年九月に至り九分溪の金鑛床を發見し多量の產金をなして世人の耳目を聳動せしめたる事あり明治二十八年本島が帝國の版圖に入るや九分溪の所在大小狸堀式の坑口が恰かも蜂窩の如く羅列したるは卽ち其堀跡なり明治二十九年十月大坂藤田組か採掘許可を受けて經營をなし大正三年十月に至り顏雲年氏に賸出し採掘稼行中同七年十月同氏に於て同山を藤田組より買收し株式會社雲泉商會と合併して經營に當り同九年九月臺陽鑛業株式會社に於て繼承今日に至れり目下從業人員千餘名に達し鑛況漸く優勢ならんとするの傾向あり

砂金採取器　基隆　臺陽鑛業株式會社藏
藥研　金鑛石を細粉するに用ゆ
搗鑛器　金鑛石を搗碎するに用ゆ
陶汰器　水を以て金砂を陶汰するに用ゆ

和蘭三脚埤煉瓦　三枚　嘉南大圳組合藏
嘉南大圳區域内官佃庄附近にある和蘭三脚坤の遺址の煉瓦にして寫眞は其取入口の殘礎に係る

平戸千里ヶ濱の蛤貝　二個　長崎縣平戸中野村々長川口伊作氏出品
肥前の平戸河内浦千里ヶ濱兒誕石附近の蛤貝にして鄭成功の生母田川氏が蛤採りに赴き俄かに產氣付き兒誕石に憩りて成功を安產せりと云ふ故事に寓意す

竹柏樹の一枝　一本　長崎縣平戸中野村々長川口伊作氏出品
此竹柏樹は力紫又は奈岐の木と稱し肥前平戸に於ける鄭氏遺愛の保存木にして藩主松浦侯が鄭成功を祭る際は榊に代ゆるに此奈岐の木を以てし配饌の場合此葉二三葉を水引結びとなし御守として信者に配付すと云ふ

兒誕石盆景　一面　臺北　稻垣其外氏藏
本盆景の材料たる兒誕石の破片及び千里濱の白砂は出品者が曾て平戸に遊びたる時採取し歸りたるものに係る

史料展の副事業

臺灣文化三百年記念會には、他に別に史蹟係と云ふものがあるでもなし、開期間多數の來觀者があるものとして、それを一々案内すべくもなく、さりとて説明者なしでは名所舊蹟の來由が分らぬ、そこで史料展覽會の副事業として、臺南、安平の要所々々に都合三十本の表札を樹て、これを案内に代へることゝした。

縣社開山神社

（臺　南　所　在）

當社は明の鄭成功卽ち所謂國姓爺和唐内を祀れる神社にして清國時代には延平郡王祠と稱せられしが改隷後明治三十二年縣社に列す後殿には母田川氏を翁太妃の名に依て合祀せらる。

孔　子　廟

（臺　南　所　在）

今を距ること二百六十四年前明の永曆二十年鄭成功の參軍陳永華主唱の下に官紳と協同建設せしものに係り所謂鄭藩の國學にして全臺第一の文廟なり。

關　帝　廟

（臺　南　所　在）

明の永曆末年鄭氏城中の官民と鳩資して本廟を建つ祭神は蜀の關羽にして春秋兩度祭祀を致し全臺最古の武廟なり。

大　媽　祖　廟

（臺　南　所　在）

明の寧靖王の故宅一元子園亭の址にして後清の康熙二十二年施琅の奏請に依り之れを媽祖廟となし工成る

昔のウトレヒト想定地

今は安平の墓地

史料展覽會會場

に及んで清帝特に禮部を遣して祭を致し天后を加封す。

赤　崁　樓　（臺南所在）

今を距る二百八十年西暦千六百五十年和蘭人の構へたる「プロビデンチヤ」城の舊址にして別に紅毛樓の名ある所以なり。

鴻指園の遺址　（臺南所在）

明末鄭成功本島に據りし以來建設して第となせし四合亭も其後荒廢に歸し居りしを清の乾隆三十年時の知府蔣允焄修復を加へ鴻指園と命名し園遊の場所に充つ。

北極殿　（臺南所在）

本廟は鄭氏時代の建立に係り明の寧靖王狩獵の際時々休憩せられたりと稱し殿上に掲げたる扁額『威靈赫奕』の文字は現に王の筆に係る。

普濟殿　（臺南所在）

本廟は威靈王を祀る處に係り鄭氏時代既に建設しありて甫めは普濟廟と稱せられしが明の寧靖王蹕駕のことありてより廟を殿に改められたるなりと云ふ。

開元寺　（臺南所在）

元來當寺は北園別館と稱し鄭成功の長子鄭經が父成功の沒後母董氏の爲めに之れを建て以て老を養はしめ

し所なり其後清時代に至り改めて寺となし海菁寺と稱せしが次で海靖寺、榴環寺等に改名し今は開元寺と稱するに至れり。

彌陀寺　（臺南所在）

當寺は鄭成功の長子鄭經が本島に一の名刹なきを憾みとし創建して奉佛祈福の所となせしものにして本島最古の寺院なり。

法華寺　（臺南所在）

當寺は明末の逸士李茂春が棲遲せし夢蝶園の遺址にして清の康熙二十二年臺灣知府蔣毓英其古蹟を保存するの目的を以て一宇を建立し法華寺と稱せしものなり。

五妃廟　（臺南所在）

明の寧靖王の妃袁氏、王氏、秀姑、梅姐、荷姐等王に殉死しゝ者を合せ祀りたる墓地なり因みに附近一帶の高地を魁斗山と云ふ。

鄭姓家廟　（臺南所在）

本祠は昭格堂の名ありて全臺の鄭姓家廟なるが楣間掲ぐる處の扁額には『三圭世錫』と大書し本年文化三百年を記念して祠廟を改築したるものなり。

梳粧樓址　（臺南所在）

明の寧靖王の五妃が居室に充て宗人府に屬せし梳粧樓址なり。

福康安等の生祠

清の乾隆五十一年十一月林爽文亂を爲し全臺忽ちにして賊手に歸す翌年十月陝甘總督福康安大擧して之れを討ち爽文を擒にし十二月全く平定す依て清帝嘉賞康安等二十功臣の爲めに此生祠を建つ元と農園に在りしが今は大南門畔に移す。

（臺南所在）

小南天

昔時明の寧靖王狩獵に出づるの際常に休憩せし福德正神を祀れる小祠にして扁額の小南天の三字は王の遺筆なりと傳ふ。

（臺南所在）

吳將軍祠

吳將軍諱は英、平臺の際施琅方の部將として拔群の功あり時人之れを壯なりとし祠を建てゝ以て報ず今は吳英の裔孫に依て家廟の如く保管されあり武裝せる將軍像尙ほ存す。

（臺南本町所在）

和蘭大井

和蘭人赤崁樓の防火用と安平への給水用として此井を掘鑿せりと又曰く來臺の人此れより岸に登る名けて大井頭と云ふ。

（臺南赤崁樓內所在）

和蘭井

和蘭人赤崁樓を建設すると同時に此井を開鑿す古書に曰く風雨ある時毎に龜蛇あつて水面に浮游すと。

烏鬼井

黑奴の穿ちし烏鬼井十數年前迄遺存せしも今は圮して其跡を止めず昔時舟人の給水用に供せりと云ふ。

（臺南寶町所在）

紅毛井

和蘭人居住當時之れを鑿ち灌園用に供せりと云ふ古書に曰く水質淡にして味甘く諸井に冠たりと。

（臺南小西門外所在）

鄭經井

鄭經母の爲めに北園別館を造營するに際し此井を鑿成す水質清良優に飲用に適せしも今は廢井となり居れり。

（臺南開元寺內所在）

赤崁城

今を距る三百年西暦千六百三十年和蘭人の築きたる「ゼーランヂヤ」城の遺跡にして別に紅毛城若くは安平城の名あり。

（安平所在）

本島最古の鄭成功像

今を距ること二百六十二年明の永暦十六年鄭成功安平城に逝去するや時人逸早く此像を造りて祭祀の用に充つ蓋し本島最古の尊像なり。

（安平觀音廟內所在）

和蘭梳粧樓址

昔時和蘭人の居住せし際の官舍にして磚石の模樣其他本島人の建築と全然異る當時妻子を此所に住せしめ

（安平所在）

52

たることは梳粧樓の名に依て知らる。

和蘭人の墓址

（安平所在）

昔時和蘭人の安平に居住せし際死亡者を葬りたる塋域なりと傳ふ附近を發掘すれば今尚ほ長大なる脛骨等を發見し得べしと。

石將軍

（安平所在）

安平公學校の壁間に二個の石像あり風化年久しく何者の像なるやを辨別し難しと雖も明の服裝をなせる武將の像たるや疑ひなし鄭經の對岸より携ゑ來りて祀れるものなりと傳ふ。

紅毛井

（安平所在）

和蘭人居住の當時黑奴をして之れを掘らしめしが安平の井水は水質不良の爲め臺南の大井より飲量水を仰ぎ此井の水は專ら雜用に供せしと云ふ。

烏鬼井

（安平所在）

烏鬼は和蘭人同行せし南洋土人を指稱したるもの當時和蘭人此黑奴に命じて穿ちたる井戸にして今は廢井となり居れり。

和蘭井

（安平所在）

安平の井水は鹽分多く飲用に適せざるを憾みとし試みに此井を掘鑿せしに清良の水を得たり爲めに蘭人九

ケ月の籠城を此水に支へたりと舊誌に井徑狹くして桶を入るゝに難しとあるは是れなり。

斯くて多數の來觀者中、少しく史に志ある人々の知らんと欲するところのものは、彼のウトレヒトと北線尾と臺江の所在であつた、研究の結果は左の通りである。

ウトレヒト

ウトレヒトは和蘭の有名なる地名から採つたもので、ゼーランヂヤ城とは自から別であること、そしてその方位はゼーランヂヤ城より東北にあつて、拳銃彈の達する指呼の間にあるとせられて居る、成程和蘭陀の古書には爾かく明記せられては居るが、そうした地點をゼーランヂヤ城の東北に求めても到底得られない、そこで此の古書の說を反對に逆に考へて、ウトレヒトの所在を假に安平墓地の邊と定めて見ると、拳銃彈も屆けば東北にも當る、即ちゼーランヂヤ城からウトレヒトが東北に當るのではなくて、ウトレヒトからゼーランヂヤ域が東北に當るのである、墓地一帶は昔から小高くもあるし、外海に對する要害の地でもあるし、蓋しウトレヒトの所在であらうと學者の說が一致した。

北線尾

古圖の上に於ける北線尾の歷史的價値は、可なり顯著なる存在として學者の注意を惹き、從來重要なる地點として取扱はれて居る、ところがその地點が一向に判明しない、ゼーランヂヤ城の一角に立ちて、北線尾は何所だと尋ねらるゝ時、彼所だと答ふべき地物の何物をも有しない、元來北線尾は讀んで字の如く、安平港を北方から包擁すべく伸びた陸線の最南端であることは明かで、古圖には兵要上哨泊の役目をする兵舍さへ繪かれて居る、然るに自然の變遷は許多の小島が一線に連續して、今は鄭仔寮庄の一字媽祖の部落に變形して了つた、そこに木麻黃が植へられて史蹟は湮滅せられ、發掘でも試みぬことには遺址さへも

知るに由がない。

臺　江

臺江の所在これも問題である、東に缺けて西に伸びる臺灣の自然的法則はこゝにも遺憾なく顯れ、鹿耳門も隙子港も沙馬磯口も悉く閉塞し、鹽水溪のみ僅かに存して、曾文溪の流入全く絶ゑ、天然的の埋沒に加へて、人爲的の鹹氷淡水の兩魚塭、偖は製鹽會社の鹽田まで造られ、江岸をなしたる洲仔尾の分界線さへ今は求むるに由なく、南の方七鯤鯓の內海も大概魚塭に變革されて、土地繇浮、局勢隘窄、何等臺江汪洋の趣を認むることが出來なくなつた。

臺灣史料集成　終

昭和六年十二月廿五日印刷
昭和六年十二月廿八日發行

臺南市役所內
臺灣文化三百年記念會

印刷人　臺南市錦町二丁目七七番地　江崎桂次郎

印刷所　臺南市錦町二丁目七七番地　臺日社臺南支局

52

NUT

57
20

東京都文化三百年記念
史料展記念
昭和10.26-11.4

576
205